

特集1 持続的成長を遂げる企業であるために 全社を包括する事業継続マネジメントシステム (全社BCMS) の構築を目指す

リンテックでは、各事業部門・各拠点においてこれまでも予期せぬ自然災害や重大事故の発生時に対応する手順を定めたBCP（事業継続計画）*1を策定してきました。

2013年度には、それを基礎に全社BCMS（事業継続マネジメントシステム）*2の構築を目指し、リンテックが持続的成長を遂げる企業であるための体制強化を図りました。

本特集では現在までの歩みをご紹介します。

*1 BCP：Business Continuity Plan（事業継続計画）の略称。企業が事故や災害などの緊急事態に遭遇した場合、損害を最小限にとどめつつ、事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために事前に策定された行動計画。

*2 BCMS：Business Continuity Management System（事業継続マネジメントシステム）の略称。企業の重要な製品またはサービスに重大な影響を与えるインシデント発生の際に「事業を継続」するため、組織の現状を理解して事業継続計画を策定し、演習により計画の実効性評価を行い、システムを運用するマネジメント手法。

事業継続は企業が果たすべき大きな社会的責任

サプライチェーン*の複雑化や事業領域の広域化が進む中、企業が社会に対して与える影響は拡大しています。そのような中でリンテックグループは中間素材メーカーであり、また事業領域は多岐にわたることから、万一、事業活動が停滞すると社会に大きな影響を与えてしまうことが予想されます。当社が企業としての社会的責任を果たすためにも、BCP、さらにはそれを効果的に運用するBCMSの構築は、欠かすことのできない重要なテーマでした。

* サプライチェーン：原材料の調達から生産・販売・物流を経て最終需要者に至る一連の流れ。

本当の事業継続には全社の力を合わせる必要があった

「2009年から関連部署の協力を得ながら、事業部門を中心にBCPの策定を進めていました」と、今回、全社BCMS推進チームのリーダーとしてチームを率いたCSR推進室の真木亨（以下、真木）は振り返る。

「当時はまだ日本にも参考となる情報が少なく、計画づくりにも時間が掛かっていました。しかし、その策定途中で東日本大震災を経験。会社の内外でBCPの重要性についての認識を一気に高めることになりました」（真木）

やがて6事業部門についてBCPの骨格が完成します。しかし、その計画をさらに実践的なものに仕上げるために壁があったとCSR推進室の森尾定和（以下、森尾）は語ります。



「各事業部門、生産拠点の計画としてはある程度まとめることができましたが、事業継続のためには、どうしても部門の壁を越えることが必要になります。ところが当時は、その壁を越えたルールがありませんでした」（森尾）

その後、真木と森尾はBCPをより完成度の高いものとするために全社を巻き込み、しかもBCPで終わらせるのではなく、その計画を不断に見直し高度化していくBCMSとして確立することが必要だと考えるようになりました。

営業・販売部門を加えた全社BCMSの構築に踏み出す

課題の一つは、営業・販売部門での取り組みの難しさでした。

「生産拠点ではBCPに対する理解や心構えが、既にある程度はありました。しかし、営業拠点では初めてのことでした」と後に全社BCMSの構築に深く関わる、品質・環境統括本部の山戸義幸（以下、山戸）は語ります。

「CSR推進室から“全社で”という話を聞いたとき、正直これは大変なことだと感じました」（山戸）

しかし、当時代表取締役社長（現会長）だった大内昭彦は、真木と山戸の背中を押ししました。「BCMSは企業が社会的責任を果たすために必須であり、その目的から除外される拠点は一つもない。全社で取り組もう」と。

2013年4月、いよいよ全社BCMSの構築に向けて、社内各部署から選抜された7人による全社BCMS推進チームが発足されました。

「専門の外部コンサルタントなどに頼らず、自力でやりきることで社内での専門家を育てるべきだと思いました。将来きっと当社の財産になるはずですよ」（真木）

「原因事象」と「結果事象」の切り分けが行き詰まりを打開する道に

当時CSR推進室長（現社長）だった西尾弘之からは「2014年3月までに、全社のBCMSを構築する」との指示が明確に出されました。また、2012年に、BCMSに関する国際標準規格ISO22301*が発行され、その活用も決めました。規格に対応することで、BCMSをグローバルなレベルまで上げ、その客観性を担保するためです。

推進チーム内では、環境安全部 環境安全グループの油谷広記（以下、油谷）と西川健彦（以下、西川）が、新たなルールの素案づくりと、作業スケジュールの作成および管理に当たりました。しかし、早速困難に遭遇することになりました。

「BCMSは、実際に工場や拠点でやらしてもらわなければならないことが多数あります。日常業務に支障が出ないように、いかにそれらの作業を効率化するか。例えば、一つの演習を行うことで同時にさまざまなチェックができるような方法や、報告書の書き方などを工夫したのですが、現場からは“もっと分かりやすく指示してほしい”という要望が寄せられました」（油谷）



また、当初の予想どおり営業部門での取り組みにも難しさがありました。「私自身が営業出身なので、彼らの戸惑いはよく分かりました」と、総務・法務部 総務・管財グループの末田和（以下、末田）は語る。

「担当者にもよると思いますが、BCPやBCMSのことを考える機会はほとんどありませんでした。そういった方々に、いかにBCMSの必要性を理解してもらい協力いただくか。とにかく分かりやすい資料をつくることを心掛けました」（末田）

また、BCMSのルールづくりそのものについても、難しい問題に直面しました。

「とにかく決めなければならないことが膨大で、うまく整理がつかないのです。この災害のときはどうするか、この事象が起きたらどうするか、いろいろなケースが想定でき、対応を検討していくと、どんどん膨れ上がってしまう」（西川）

この問題を解決するうえで、大きなヒントになったのが「原因事象」と「結果事象」を切り分ける考え方でした。「原因はいくらでも出てきますが、それによってもたらされる結果は、例えば、“出社できる人員が限られる”とか“物を輸送できない”など同じになります。それまで原因事象で考えていたため、ルールが必要以上に複雑になっていたのです。これらを切り分ければ良いのではないかと気がつきました。実際に海外では、原因事象とそれに対する防災・減災、結果事象とそれに対する業務・事業継続、というようにBCPを二つに分けているということも知りました」（山戸）

＊ ISO22301：地震や火災、ITシステム障害や金融危機、取引先の倒産、あるいはパンデミックなど、災害や事故、事件などに備えて、さまざまな企業や組織が対策を立案し、効率的かつ効果的に対応するためのBCMSの国際標準規格。

原因事象

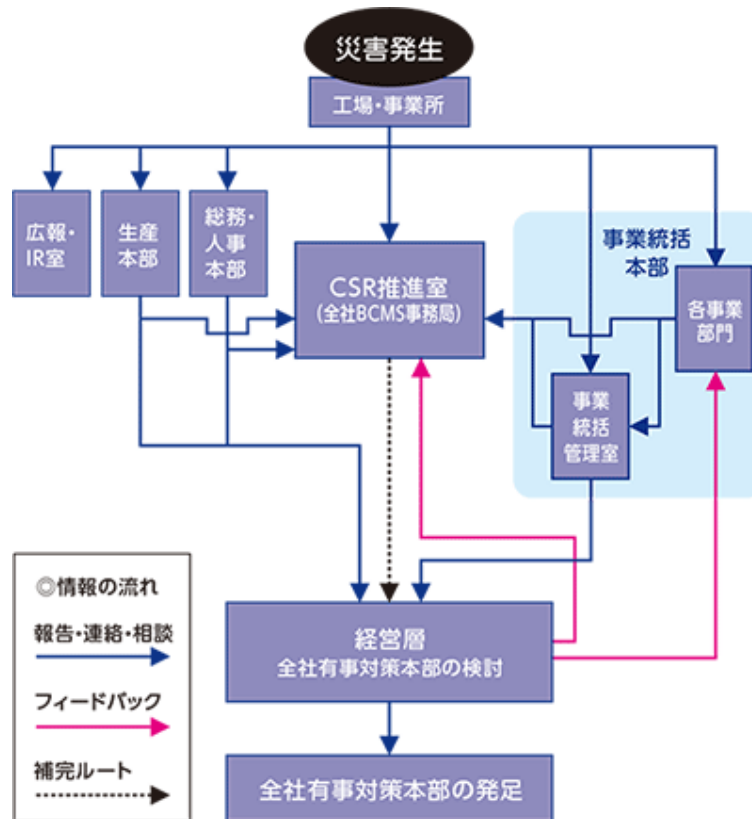
企業の事業継続活動に対する具体的なリスク要因。地震、台風、洪水などの自然災害や火災、交通機関のまひ、停電、通信回線の切断、さらにテロなど、さまざまなものが想定できる。防災・減災の視点からの対処が必要になる。

結果事象

業務・事業継続を困難にする要素。原因事象の結果として発生する。従業員の負傷や出社・帰宅困難、原材料の調達不能、機械設備の停止、通信の不通など、原因はさまざまでも対応すべき共通の問題。業務・事業継続という視点での対処が必要になる。

しかし、BCMSの構築は、単に机上のルールづくりにとどまるものではありません。実際の演習をさまざまなレベルで実施し、それをフィードバックする形で、対策の実効性を検証し、高めていく必要があります。「演習には、全社的なものと拠点ごとのものと2種類があります」とCSR推進室の新井稔明（以下、新井）は言う。拠点ごとの演習では、例えば、昼間だけでなく夜にも実施することで「懐中電灯が各自に必要」ということを発見するなど、拠点から多くのことを教えてもらいながら、より実効性のあるものに変化していきました。

事業継続に関わる自然災害等の有事報告フロー



また、事業を継続するうえで基本となる「二重化」という施策についても「例えば、生産であれば具体的にどこで代替するのか、外注する場合は、その外注先で同レベルの代替品が本当につくれるのか、といったテストまで行わなければなりません」（山戸）

この中で「BCMS評議会」の設定が重要だったと山戸は語る。

「演習などを重ねていけば、当然いろいろな意見や改善案が上がってきます。それらを全社的にまとめる場として、BCMS評議会が設けられました」（山戸）

さまざまな演習や二重化の検証、組織づくりなど、国内の全従業員が一丸となって活動し、ついに全社BCMS構築は一つのゴールを迎えました。そして、2014年3月にISO22301の認証を取得。試行錯誤を繰り返して取り組んだ当社のBCMSには多くのノウハウが蓄積され、他社の参考としてセミナーの講師役を依頼されるまでになりました。しかし、活動が終わるといことはありません。

「一部の人間が策定し、理解しているというだけでは本当のBCMSにはなりません。むしろこれからです」（新井）

「防災や事業継続というと、特別な事態への対応のように感じますが、ふだんから小さな異常事態は起きています。それに細かく対処できれば、大きな事象にも対応が可能になり、日常の業務改善にもつながる。BCMSというのは非常時のマニュアルづくりであると同時に、日常の業務改善にもつながるのだということを学びました」（西川）

「今回のBCMS構築で発揮したこのチームと社内の結束を、さらに全社に広げたい」と真木も振り返ります。

全社BCMSの構築を1年という期間で実現し、当初の目標を達成したリンテック。その全社BCMSを支えているのはリンテックの全従業員なのです。今後は、さらに国内外グループ会社を含めたリスクマネジメント体制の構築を目指しています。

BCMSに対する各事業部門・拠点の声

事業部門

産業工材事業部門では、東日本大震災直後にBCP対策チームを立ち上げ、シナリオ型・リソース型・拡張型のBCPを準備し、同時に非常時災害対策にも着手してきました。今回の全社BCMS活動によって、事業部門・拠点別の部分最適から、組織横断的な全体最適へと大きく展開することができ、重要ポイントの情報共有とPDCAサイクルを活用した継続的活動に結びついています。

* 2014年5月30日よりプリンテック（株）社長に就任しました。



産業工材事業部門*
事業支援部 部長
三木 力雄

営業拠点

広島支店では2013年に、BCMS基礎編勉強会や災害系・事業継続系の演習を行いました。演習を通じて、災害時に当たり前の行動を取ることがとても難しいことを実感し、手順書作成時には予見できなかった行動を加えて修正しました。今後も消火訓練やAED訓練など、複数の演習を実施していく予定です。全員が与えられた役割を十分に果たし、事業継続のためにBCMS活動に取り組んでいきます。



広島支店 業務課主任
野村 浩一

生産拠点

BCMSの重要性について工場内で共通認識を持つことから、熊谷工場における構築と運用が始まりました。「人命最優先」「有事の事業継続」を根幹に置き、あらゆるリスクに対応する手順を繰り返し考え、実効性のある行動計画に仕上げていきました。まだ、BCMSはスタートしたばかりです。今後、計画の見直しと改善を重ね、より盤石なシステムにしていきます。



熊谷工場
事務部業務課 課長代理
大島 俊和



特集2 企業市民として地域の期待に応える
地域に根ざした社会貢献活動

リンテックグループは、地域や社会に支えられる企業として、社会が抱えるさまざまな課題に対する地道な活動を続けています。本特集では、リンテック本社がある板橋区において継続的に実施している障がい者支援活動をご紹介します。



A:挨拶をする安井副区長(左)と大内社長(現会長) B:従業員による参加者へのお弁当の配付 C:招待者の方々をお出迎えする従業員
D:約700人の観客でにぎわう会場 E:「ほほえみの会」の子供たちによる手話ダンス F:「ほほえみの会」の子供たちによるハンドベル演奏
G:入口でお出迎えする従業員

【リンテック】板橋区や地元ボランティア団体と連携し手づくりでイベントを開催

地域や社会からの理解なくして、企業が事業活動を継続することはできません。リンテックグループのCSRは、地域の方々の声に真摯に耳を傾け、その期待に応える取り組みを行っています。

リンテックグループの社会貢献活動のテーマは、「身の丈に合った活動」「継続可能な活動」「地域密着型の活動」の三つ。例えばリンテックでは、これらのテーマに沿い、「リンテックふれあいコンサート」を開催しています。“音楽を通じて皆さんとつながる”を目的に、本社のある板橋区にお住まいの障がい者と介助者、近隣町内会の方やリンテック従業員、その家族などが参加する音楽イベントで、2010年から始まりました。

「開催当初から“手づくりのイベント”にこだわりました」と、社会貢献委員会の委員長を務め、本イベントの企画に携わった尾藤明彦（以下、尾藤）は言う。

「板橋区との共催により、当社従業員の手で会場準備やプログラム企画、告知活動などを行っています。コンサートもジャズバンドに当社社員が所属していたり、板橋区ダウン症児親の会『ほほえみの会』の会員の子供たちに、手話ダンスやハンドベル演奏を行っていただくなど、演奏者と観客が一体となって音楽を楽しむイベントになるように心掛けています」（尾藤）

障がいを抱えた方やそのご家族が、音楽イベントに参加するには数多くのハードルがあります。実際、これまでの参加者の中にも、初めてコンサートに参加されたという方が数多くいらっしゃいました。

「来場者の方々に楽しんでいただくため、開催のたびに試行錯誤しています。しかし、演奏に合わせてうれしそうにリズムを取る子供たちの笑顔を見ると、苦労も吹き飛びますね」と尾藤は語る。

また、コンサートを通して、さまざまな立場・状況の方と直接触れ合うことは、多様性（ダイバーシティ）*への理解を深めるうえでも貴重な経験となっています。

* 多様性（ダイバーシティ）：人や集団間に存在する多様な個性のこと。



社会貢献委員会 委員長
人事部 副部長
尾藤 明彦

【リンテック】グローバルに広がる“地元”の皆様の期待に応えるために

ふれあいコンサートは、リンテックグループのボランティア活動の一例に過ぎません。日本、そして世界の事業拠点では、地域催事の支援や美化・清掃活動など地域に根ざしたさまざまな活動を展開しています。

これからもリンテックグループは、地域密着のポリシーを持ち続けながらグローバルなCSR活動を推進し、世界各地の“地元”の方々の期待にお応えできるよう尽力していきます。



社会貢献委員会メンバー

【参加者】 障がい児を持つ家族にとって、とても心強さを感じるイベントです

2013年秋のふれあいコンサートに親子で参加しました。こうした音楽イベントに娘と一緒に参加したのは初めての経験です。ジャズということで大人向けかとも思いましたが、アニメの主題歌なども演奏してくださり、私も娘もとても楽しむことができました。また、大勢の観客の前でハンドベル演奏や手話ダンスを披露し、誇らしそうな娘の姿を見ることができ、母親として大変うれしく思いました。ふれあいコンサートのように、企業側から率先して活動を行ってくださることは、障がい児を持つ家族にとって、とても心強さを感じます。今後もぜひ継続して開催いただきたいと願っています。



参加者
井出 多映さん（母）
井出 詩乃さん（娘）

【ボランティア団体】 障がいの有無を超えたコミュニケーションが相互理解の良い機会となっています

私たち「ほほえみの会」は、ダウン症児や障がい者、その保護者を中心とした団体で、2010年の開催当初からふれあいコンサートにお招きいただいています。生の演奏を鑑賞できることはもちろん、リンテックの社員やそのご家族、近隣の方などとコミュニケーションを図ることができるという面でも、すばらしいイベントだと感じています。障がいを抱える子供たちは、普段の生活の中で保護者や介助者など、人間関係が限定 a 的になりがちです。ふれあいコンサートを通じて、子供たちの社会参加をサポートしていただき、また、障がいを持つ人、持たない人の相互理解を促していただいていることに感謝しています。



「ほほえみの会」
(板橋区ダウン症児親の会)
代表
齊藤 明子さん

【板橋区】 企業ならではの自由なアイデアに刺激を受けています

板橋区では自助・共助・公助の連携による街づくりを進めており、障がい者支援活動についても、行政だけではなく、区民や区内企業、NPO・ボランティア団体などが一体となった取り組みが重要だと思っています。

リンテックと共催させていただくふれあいコンサートは、まさにこの連携による事業です。音楽イベントに参加しづらい障がい者の方々に、生の演奏を楽しんでいただくという発想は私たちになく、そうした自由なアイデアに多くの刺激を受けています。今後もこれまで築いてきた関係を大切にしながら、誰もが住みやすい板橋区の実現に向けてご協力いただければ幸いです。



板橋区障がい者福祉課
福祉係 係長
金子 浩一さん

トップメッセージ



誠実に、そして革新の気概を持って「守り」と「攻め」のCSR活動を続けていきます。

2014年4月1日をもちまして代表取締役社長に就任しました。私はこれまで役員並びに経営企画室長兼CSR推進室長として、3度にわたる中期経営計画の策定および進捗管理に携わってきました。リンテックグループの事業領域は大変幅広く、また中間素材メーカーとしてその最終製品は生活のあらゆる場面で使用されています。全従業員は社是「至誠と創造」を根幹としたCSR活動を推進しており、私はこのCSRを経営の基盤として貫くべきものだという自覚を新たにしています。

法令遵守や公正な取引、人権の尊重、働きやすい環境づくりといった事業活動の基本である「守り」のCSRは、全ての仕事に真心を込めて取り組む「至誠」の精神で徹底していく必要があります。さらに、常に工夫と改善に取り組む「創造」の精神で、豊かな社会の実現や社会的課題解決に寄与する製品を生み出す、積極的で創造的な「攻め」のCSR活動に、今後一層注力をしていきたいと考えています。

「LIP-III」から「LIP-2016」へ。全社的なCSRの浸透とさらなる進展を図ります。

2013年度をもって終了した中期経営計画「LINTEC INNOVATION PLAN III (LIP-III)」では、重点テーマの一つに「CSRを根幹に置いた企業活動の推進」を掲げ、さまざまな活動を展開してきました。まず、大きく進捗したのは、BCMS(事業継続マネジメントシステム)への取り組みです。危機発生時に人命確保を最優先としながら、同時に盤石の製品供給体制を維持し、お客様にご迷惑をお掛けしないように事業を継続することは、中間素材メーカーである当社の大きな社会的責任です。この体制をより強固なものとするため、グローバルな規格であるISO22301*に基づいた全社的なBCMSの構築を目指しています。

次に、環境面での課題対応として、「環境負荷の低減」「資源の有効利用」を基本に、2013年度から具体的な数値目標を開示し、研究・開発・生産の各分野において活動を進めており、その成果は着実に表れています。

こうしたCSR活動の推進には、活動の主体である従業員の理解が必要不可欠です。私はCSR推進室長として、国内外のリンテックグループに対するCSR勉強会や、事業を通じていかに社会的課題に応えるかをテーマとしたCSR懇談会などを推進してきました。その結果、CSRの重要性や取り組みについて、全社的な理解が進んできていると実感しています。

こうしたCSRの進展を踏まえ、2014年度より新中期経営計画「LIP-2016」をスタートさせました。「LIP-2016」では、「グローバル展開のさらなる推進」「次世代を担う革新的新製品の創出」「強靱な企業体質への変革」「戦略的M&Aの推進」「人財の育成」の五つを重点テーマとして掲げています。中でも、「グローバル展開」と「革新的な新製品の創出」は、目下の最重要課題であると認識しています。

経営目標である「海外売上高比率40%以上」実現のためには、海外を含めた全ての従業員と、価値観と行動規範を共有することが必要です。その一助として「私たちが歩むべき道」である"LINTEC WAY"を新たに策定し、行動規範ガイドラインを6言語に翻訳して各国に配付しました。今後も勉強会などを通じて、拡大する海外拠点も含めたグローバルなガバナンス体制を強化していきます。

* ISO22301：地震や火災、ITシステム障害や金融危機、取引先の倒産、あるいはパンデミックなど、災害や事故、事件などに備えて、さまざまな企業や組織が対策を立案し、効率的かつ効果的に対応するためのBCMSの国際標準規格。

蓄積された技術力を武器に社会のニーズに対応する革新的新製品の創造を目指します。

「次世代を担う革新的新製品の創出」は、100年後も当社が存続し、本業を通じて社会的使命を果たしていくうえで、きわめて重要なテーマです。昨今では、あらゆる産業において事業範囲の拡張や重なり合いが起こり、業界の境界は曖昧になってきています。こうした時代の変化に合わせ、従来の常識に捕らわれず、時に部門を超えた創造を行うなど、お客様にとっての価値を第一に考えたものづくりを行っていきたくと考えています。

また、私たちの強みである「蓄積された技術力」を社会に役立つ新製品の創出に生かすためにも、もっと積極的に外部の声に耳を傾け、社会的課題の把握に努めていかなければなりません。具体的には、従業員の意識啓発のためのCSR懇談会の継続実施や外部講師による意識啓発のワークショップの開催、当社にとって重要なCSR活動テーマの特定などを進め、既存製品に捕らわれない革新的な新製品の創出を目指していきます。

研究開発分野においては、カーボンナノチューブのシート化技術に着手しており、2016年度中の実用化に向け、米国に新たな研究開発拠点を設け、量産化技術の確立に取り組んでいます。さらに研究開発力そのものを強化するべく、グローバルな研究施設の建設や、社外コンサルタントを含めた価値創造プロジェクトも推進していきます。

こうした価値創造の鍵を握る優れた人材を創出するため、若い従業員にも積極的に意見を述べてもらい、その声を各職場できちんと受け止め、次世代のリンテックを担う人材が育つ環境を整えていきたくと思います。

社是「至誠と創造」を原点に、社会の期待に応える新しい事業づくりに努めます。

大内会長（前社長）は、機会あるごとにCSRの大切さを説いていました。私も全く同じ気持ちです。これまでのCSR活動の推進を通じて、社内のコミュニケーションやグループ間の交流は活発になり始め、事業の円滑化にもつながっています。今後とも、グループ全体でCSRへの意識を高めていくとともに、お客様を思う心、人を思う心を全従業員が大切に、常に社会とともに歩む持続的成長企業であり続けたいと考えています。

社是「至誠と創造」は、誠を持ってものづくりに臨み、新たな価値を創造する、というCSRの基本をうたったものです。この基本をしっかりと踏まえ、ステークホルダーの皆様の期待に応える、未来の製品・事業づくりに挑戦していきます。本レポートは、社会の皆様そして全従業員にもリンテックグループのCSR活動をより良く理解いただくために、2013年度の成果をできるだけ分かりやすく体系的にまとめました。皆様の変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

リンテックグループのCSR



● 社是 至誠と創造

● 経営理念

社名の「リンテック」、すなわち“リンテージ(結合)”と“テクノロジー”および社是「至誠と創造」に裏付けされる人の和、技術開発力を基軸とし、国内・海外の業界において、だれからも信頼される力強い躍動感あふれる会社として社会に貢献し、株主各位・顧客・社員家族の期待にこたえる斬新な経営を推進します。

「明日を考え、今日を築こう」

For tomorrow we build today

社是「至誠と創造」がリンテックのCSRの根幹

リンテックグループのCSRの根幹は、社是「至誠と創造」にあります。これは、私たちの“あるべき姿”です。「至誠」とは、どうすれば役に立ち喜ばれるかを考え、すべての仕事に真心を込めて取り組むことです。「創造」とは、現状に満足せず、より高い付加価値を求めて常に工夫と改善に取り組むことです。あらゆるステークホルダーに誠実であること、革新の気概を持って新たな挑戦を繰り返していくことが、“ものづくり”の会社としての原点です。“すべては「至誠」に始まり「創造」につながる”—私たちリンテックの変わらぬ姿勢であり、持続的成長を支える原動力です。

リンテックグループの事業は、多くのステークホルダーに支えられて成り立っています。ステークホルダーの期待に応えるため、リンテックグループでは社是「至誠と創造」をCSRの根幹に置き、「CSRの基本姿勢」「リンテックグループ行動規範ガイドライン」にのっとり、積極的に活動を推進しています。

また、新中期経営計画「LINTEC INNOVATION PLAN 2016 (LIP-2016)」の基本方針「攻めの経営と間断なきイノベーションで成長軌道を取り戻す」を実現するうえでも、CSRの推進は欠くことができません。CSR活動の推進は経営に直結するものと考え、全従業員が意識を高めながら計画的に取り組んでいます。



2014年4月より、新たな3か年中期経営計画「LIP-2016」がスタートしました。

重点テーマ「グローバル展開のさらなる推進」では、新興国のニーズに応えるためにも、グローバルレベルでのグループ経営の強化は大変重要なテーマです。リンテックグループではこれまでも「国連グローバル・コンパクト」に参加し、ISO26000を参考にしながらグローバルでの企業倫理を醸成してきましたが、さらに2013年度は「リンテックグループ行動規範ガイドライン」を見直し、CSRの徹底を図るため、2014年4月にリンテックグループ全従業員に配付しました。

また、重点テーマである「次世代を担う革新的新製品の創出」の一環として、本業を通じた攻めのCSRを実践するため、CSR懇談会を開催しました。今後は、具体的な活動につなげるワークショップを計画しています。

基本方針

攻めの経営と間断なきイノベーションで成長軌道を取り戻す

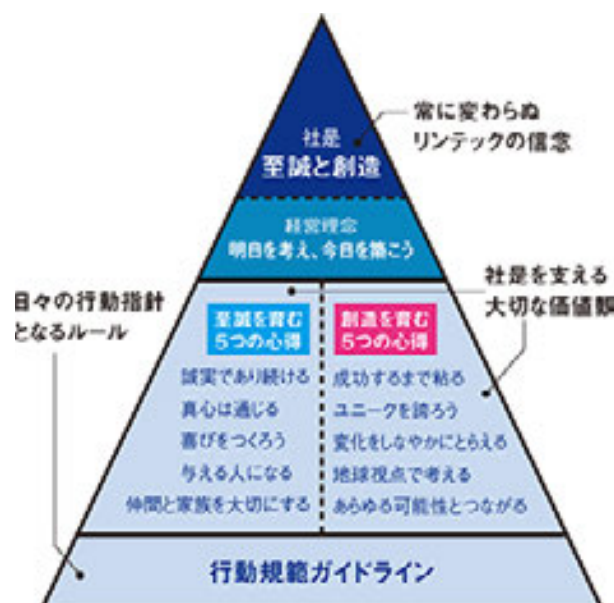
- 1 グローバル展開のさらなる推進**
 - アジア地域を中心とした海外事業の拡大
 - 未進出地域での事業基盤づくり
- 2 次世代を担う革新的新製品の創出**
 - 新製品の創出による新市場・新需要の開拓
 - 新製品の創出のための研究開発基盤の強化
- 3 強靱な企業体質への変革**
 - コスト競争力の強化
 - 選択と集中
- 4 戦略的M&Aの推進**
 - 成長戦略としてのターゲットの明確化
 - M&A推進体制の強化
- 5 人財の育成**
 - グローバル人材の確保と育成
 - 継続的な階層別研修の実施

リンテックグループのあるべき姿

|| 私たちが歩むべき道「LINTEC WAY」

リンテックグループでは、全従業員が心をつにし、同じ方向性を目指しながら歩めるよう、2014年度は新たに「LINTEC WAY」を策定しました。

社は「至誠と創造」を体現するリンテックグループの従業員はどういった志を持ち、行動すべきなのか。従業員へのヒアリングとディスカッションを重ね、また外部からの意見も取り入れ、リンテックグループ従業員のあるべき姿を明文化しました。



〇至誠を育む5つの心得

1 誠実であり続ける

私たちリンデックは、いかなるときも「誠実」であり続けます。誠実とはうそ偽りなく、正直にふるまうことです。私たちはそうあるために、人とのかわりにおいて感謝と敬意を忘れません。また、メーカーとして品質でも誠実を語り続けます。

2 真心は通じる

私たちリンデックは「真剣に尽くす心」を持ち続けます。グローバルの時代においても、私たちが大切にしている真心を込めたコミュニケーションで、心が通じ合い、距離が縮まり、前進することができる我们相信からです。

3 喜びをつくろう

私たちリンデックは「ありがとう」を大切にします。なぜなら仕事とは、ステークホルダーに喜んでいただくことで対価を得るものと考えからです。そのためには私たちはお客様の声、社会の声を自ら進んで聴き、困りごとの解決に取り組みます。

4 与える人になる

私たちリンデックは「利他の心」を忘れません。一人ひとりが真摯に仕事に向き合い、取り巻くすべての人たちに「喜びをもたらすこと」に全力を尽くします。なぜならその営みが、社会全体の持続的成長につながると信じているからです。

※利他とは「他人の喜び」をまず第一とする考え方。

5 仲間と家族を大切にす

私たちリンデックは「人の和」を大切にします。強い信頼関係の中で働くことは、仕事へのやりがいを生み、安定と向上をもたらすからです。従業員はもちろん、家族、取引先への思いやりを欠かさず、安心感と誇りを持って生き生きと働ける場を築き続けます。

〇創造を育む5つの心得

1 成功するまで粘る

私たちリンデックは「進化」に挑み続けます。あと少しの粘りが成果を左右することを知り、細部までとことんこだわり抜きます。そしてそのプロセスを楽しみ、飽くなき探求心と情熱で、世の中の夢をつなぎます。

2 ユニークを誇ろう

私たちリンデックは「独創的な視点」を欠かしません。他社がまねできない方法で新しい価値や市場を生み出すことこそ、私たちの役目であり、誇るべき強みだと信じるからです。未開の分野にも積極果敢に取り組み、世の中に新鮮な驚きと感動を届けます。

3 変化をしなやかにとらえる

私たちリンデックは「時代の変化」と共に歩みます。変化しないことを最大のリスクと考え、しなやかに時代の価値観や環境の変化をとらえます。そして、勇気を持って自らを変化させることで活躍できる市場を開拓し、次世代のニーズにこたえていきます。

4 地球視点で考える

私たちリンデックは「グローバル」に行動します。世界規模での技術貢献に挑むとともに、地域に密着した活動を通じて社会の活性化に努めます。また、環境配慮を永続的に推進し、地球市民としての意識を忘れず行動します。

5 あらゆる可能性とつながる

私たちリンデックは「つながり」を価値と考えます。優れた知恵や技術を吸収し、切磋琢磨を惜しみません。社内だけでなく、会社や国境を越えたコミュニケーションを加速し、新たな価値づくりのためにあらゆる可能性を模索します。

リンテックグループでは、社是「至誠と創造」の下、六つの基本姿勢に沿って取り組みを進めています。

企業倫理・コンプライアンスの徹底	安全防災・健康の確保
CS(お客様満足)の向上	社会貢献
環境への配慮	株主・投資家重視の経営

リンテックグループ行動規範

行動規範

企業活動の根幹は「コンプライアンス（法令遵守）」であり、リンテックグループの国内外における企業活動において「関連法規」ならびに「社会ルール」を遵守する。

私たちリンテックグループの役員・従業員等は、

1. 常に、社会に貢献できる製品とサービスを提供します。
2. すべての取引先との間で、自由な競争原理に基づく、公正・透明な取引を行います。
3. すべての企業活動において、国内・外の法規を遵守するとともに、高い倫理感を持って自らを律します。
4. 株主・投資家・取引先・地域社会・従業員等、当社の企業活動にかかわるすべての人々との関係を重んじます。
5. 地球環境問題を重要な経営課題と位置づけ、環境への負荷の抑制・削減へ積極的に取り組みます。
6. 良き企業市民として、積極的に社会貢献活動を行います。
7. 政治・行政とは、公正で透明な関係を維持します。
8. 反社会的勢力は排除します。
9. 企業活動に伴い接待・贈答が必要な場合には、社会的常識の範囲内で節度を持って行います。
10. 企業情報を適正に管理し、適時・適正に開示します。
11. 知的財産権の管理に万全を期すとともに、他社の知的財産権を尊重し、これを侵害しません。
12. 役員・従業員一人ひとりの人権と人格を尊重し、公正に処遇し、職場環境の維持に努めます。

2003年1月制定 2011年4月改定

|| 行動規範ガイドラインの改定

リンテックグループ従業員は、小冊子に収められた行動規範ガイドラインを携帯し、さまざまなシーンでの活用を心掛けています。2013年度には、グローバルな行動規範へと発展させるために、「国連グローバル・コンパクト」やISO26000、経済協力開発機構(OECD)多国籍企業ガイドラインの項目をより一層取り入れて見直しを行い、2014年4月に行動規範ガイドラインを改定しました。

また、刷新した行動規範ガイドラインには「LINTEC WAY」も併せて掲載したうえで他言語に展開し、世界中の従業員へ配付しました。さらに国内拠点から順次勉強会を実施しており、今後は海外拠点へも展開する予定です。



研究所での勉強会



|| リンテックのCSRに関する社内ステークホルダー・ダイアログ（対話）

CSRを推進するための社内ダイアログの継続実施

リンテックグループではCSRへの理解を深めるため、国内外での拠点においてCSR勉強会を実施しています。さらに2012年度からは「攻めのCSR」について、部署横断的に従業員同士が話し合う社内ダイアログを開催し、2013年度も引き続き実施しました。2014年3月には、研究所で働く研究員を中心に女性従業員10人が参加するダイアログを行いました。



研究所でのダイアログ

参加者からの声

- ふだん、部署を越えたメンバーで「これからのリンテック」について話す機会はあまりなかったのだと気づかされた。今回は良い機会になった。
- 法令を遵守しているだけでなく、社会の動向をいち早く捉え準備をしておくことで、リンテックグループとしての強みが生み出せると思う。
- グローバル化を進める点からも海外の従業員と攻めのCSRについて話し合う機会づくりを進めることが重要。

「国連グローバル・コンパクト」の10原則

1999年の世界経済フォーラムにて、企業に対して提唱されたイニシアティブ*。この原則を組み込んだ事業活動を行うことで、企業市民としてグローバルでの責任を果たし、社会の持続的発展に貢献できるとしています。

* イニシアティブ：主導的提案。

人権

原則 1：人権擁護の支持と尊重

原則 2：人権侵害への非加担

労働基準

原則 3：組合結成と団体交渉権の実効化

原則 4：強制労働の排除

原則 5：児童労働の実効的な排除

原則 6：雇用と職業の差別撤廃

環境

原則 7：環境問題の予防的アプローチ

原則 8：環境に対する責任のイニシアティブ

原則 9：環境にやさしい技術の開発と普及




腐敗防止

原則10：強要・賄賂等の腐敗防止の取組み

ISO26000

ISO26000はあらゆる組織における社会的責任の基準を定め、その手引きを提供する国際標準規格です。世界の社会的課題を踏まえ、組織が担う社会的責任を七つの中核主題として設定しています。

7つの中核主題

社会的責任の中核主題		組織統治
	組織統治	意思決定プロセス及び構造
	人権	(1)デュー・ディリジェンス (2)人権リスク状況 (3)共謀の回避 (4)苦情処理 (5)差別及び社会的弱者 (6)市民的及び社会的弱者 (7)経済的、社会的及び文化的権利 (8)労働における基本的権利
	労働慣行	(1)雇用及び雇用関係 (2)労働条件及び社会的保護 (3)社会的対話 (4)労働における安全衛生 (5)職場における人材育成及び訓練

	<p>環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> (1)汚染の予防 (2)持続可能な資源の使用 (3)気候変動の緩和及び適応 (4)自然環境の保護及び回復
	<p>公正な事業慣行</p>	<ul style="list-style-type: none"> (1)汚職防止 (2)責任ある政治的関与 (3)公正な競争 (4)影響範囲における社会的責任の推進 (5)財産権の尊重
	<p>消費者課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> (1)公正なマーケティング、情報及び契約慣行 (2)消費者の健康及び安全の保護 (3)持続可能な消費 (4)消費者サービス、支援及び紛争解決 (5)消費者データ保護及びプライバシー (6)不可欠なサービスへのアクセス (7)教育及び認識
	<p>コミュニティ参画及び コミュニティの発展</p>	<ul style="list-style-type: none"> (1)コミュニティ参画 (2)教育及び文化 (3)雇用創出及び技能開発 (4)技術開発 (5)富及び所得 (6)健康 (7)社会的投資

CSR活動テーマと目標・実績

リンテックと社会がともに持続的に発展するためには、法令遵守はもとより、社会からの要請に応えるさまざまな取り組みが必要です。CSRの基本姿勢に合わせ組織横断的なメンバーで構成された委員会が、CSR活動を推進しています。

2013年度 CSR活動テーマと目標・実績

基本理念	活動テーマ	2013年度の目標	達成状況	2013年度の主な活動実績	推進担当委員のコメント	2013年度 活動報告
「企業価値・法令遵守」を重要な経営課題と位置づけ、従業員一人ひとりの意識の醸成と日々の実践を推進する	<ul style="list-style-type: none"> 従業員一人ひとりが自覚を促したよき市民として行動する コンプライアンスの徹底を促し、社会から信頼される会社を創出す 	<ul style="list-style-type: none"> 双方向(伊豆)による倫理教育の推進 各種法規制の遵守および従事(関係者)キヤンペーン・個人情報・営業秘密などの 営業秘密の保護 	○	<ul style="list-style-type: none"> 「リトルかわらぬ」の継続と、小冊子の発行 ホラーニングを活用した倫理教育の実施 販管部門でのコンプライアンス教育の実施 国内全拠点への情報セキュリティ教育の実施(41箇所約1,700人) 	<p>企業価値推進担当役員 小杉 賢治</p> <p>取締役 兼 海外担当役員 兼 取締役 兼 本部長</p> <p>事業のグローバル化に伴い、求められる企業価値も世界の標準に立ちはたせなければなりません。全従業員が社会責任を重んじ、求められる企業価値を日々の行動につなげることを目指します。</p>	<p>企業統治</p> <p>発展のために</p> <p>経営報告</p> <p>2013年事業報告</p>
お客様からの信頼確保と責任を果たすことを基本に置いた、製品の安定供給および品質とサービスの向上を推進する	<ul style="list-style-type: none"> リンテック品質方針、行動原則に基づいた具体的活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 「CSローガン(みんなが喜ぶ製品をつくる)」"Lintec Products make everybody happy"をコンセプトとし、八つの行動原則に沿って立案・作成した具体的な活動案の達成 	○	<ul style="list-style-type: none"> ホラーニング「ポケットの顧客対応ツール」(設計的手法、標準案と正確活用)、「アザールレニュー」の実施 人材育成に関する社内アンケートの実施 	<p>CS推進担当役員 藤海 誠</p> <p>取締役 兼 海外担当役員 兼 取締役 兼 本部長</p> <p>全従業員が心を一つにして取り組めるよう、CSローガンを掲げています。社内でもお役所化とも感じ、さらなる顧客満足度の向上を目指します。</p>	<p>社会性報告</p> <p>お客様のために、お客様との信頼</p> <p>品質報告</p> <p>2013年事業報告</p>
従業員満足度の向上を基本に置いた、安心して働ける職場環境の整備を推進する	<ul style="list-style-type: none"> 天災・人災への備前対応 安全、健康を保障する管理体制の構築 従業員への対策 長続き労働対策(年次有給休暇取得促進) 	<ul style="list-style-type: none"> 天災被害の最小化 労働安全衛生マネジメントシステムの維持管理 心の健康回復/健康増進 海外事業単位の行動計画フォロー 「EHS」委員会との安全情報共有 長続き労働の対策推進 年次有給休暇取得の促進 	○	<ul style="list-style-type: none"> 労働安全衛生マネジメントシステムの継続的運用 海外出張時のガイドラインの活用と教育の実施 海外安全情報などを毎週配信 メンタルヘルスマスクアワードと啓発活動の実施 年次有給休暇取得状況の実態調査(取得率)の推進 健康診断手厚による啓発活動の実施 	<p>安全衛生・健康推進担当役員 中山 賢二</p> <p>取締役 兼 海外担当役員 兼 本部長 兼 取締役 兼 本部長</p> <p>リンテックグループの全従業員が安心して、健やかに、そしてやりがいを持って働くよう、より良い職場環境づくりに向けさまざまな取り組みを進めています。</p>	<p>従業員とともに</p> <p>人事</p> <p>労働条件</p> <p>2013年事業報告</p>
地域・国際社会におけるよき企業市民として、社会的課題の解決に参画し、それら社会の持続的発展に貢献する為の仕に合った活動を推進する	<ul style="list-style-type: none"> 地域・国際社会におけるよき企業市民として、社会的課題の解決に参画し、それら社会の持続的発展に貢献する為の仕に合った活動を推進する 	<ul style="list-style-type: none"> 地域社会との交流 活動の充実と定着化 従業員が活動参加意識の向上と支援 	○	<ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災復興支援ボランティアに参加(4回10人) 地域清掃活動の実施 地域地区協力関係強化推進(キャンペーン)に参加 障がい者支援活動 東日本大震災の被災者への義援金提供 5事業所で工場・施設見学を受け入れ(853人) 総計に参加者11人) 	<p>社会貢献推進担当役員 青嶋 孝二</p> <p>取締役 兼 海外担当役員 兼 取締役 兼 本部長</p> <p>地域社会の一員として、期待に応える活動を積極的に実施していきます。また、リンテックグループが社会の課題に対して解決の一助となる活動も検討していきます。</p>	<p>地域社会とともに</p> <p>社会性報告</p> <p>2013年事業報告</p>
株主・投資家重視の経営推進コーポレートブランドの向上	<ul style="list-style-type: none"> 株主市場での評価を高める(還元率向上)・企業・株主価値の向上を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 投資家・証券アナリストの積極対応・関係強化 株主との関係強化と個人投資家の情報開示 情報発信とコミュニケーションの強化 	○	<ul style="list-style-type: none"> 国内の機関投資家・アナリストとのミーティングや取材対応の実施(年間150件以上) 継続的な海外機関投資家訪問の実施(訪問1回、計17社とのミーティングの実施) 国内で開催される海外投資家向けイベントへの参加(3回、計18社とのミーティングの実施) 株主通信誌、Webサイトなどによる情報発信の充実 	<p>株主価値推進担当役員 浅井 C</p> <p>取締役 兼 海外担当役員 兼 取締役 兼 本部長 兼 取締役 兼 本部長</p> <p>株主・投資家の皆様との信頼関係をより一層強固にするため、正確な情報提供や公平に提供するなどの取組活動を行っています。</p>	<p>株主価値向上</p> <p>2013年事業報告</p>
素材メーカーとしての「環境負荷の低減」(資源の有効利用)を基本に置いた、研究・開発および生産などの全社的活動を推進する	<ul style="list-style-type: none"> 法令遵守の徹底 環境配慮型教育の充実 生物多様性の保全 環境配慮型製品の開発 CO₂削減の削減 エネルギー使用量の削減 廃棄物削減推進の徹底 化学物質の管理徹底 大気排出VOC量の削減 	<ul style="list-style-type: none"> 法令遵守の徹底 エコニュースを24件以上配信 Webサイトごとでの具体的な活動の推進 当社のLCA(環境)基準に準じた開発件数8件以上 目標削減209Ft以下 エネルギー削減率3%改善(2010年度比) 目標削減177,674千円以下 サブライナー(自主監査)50件以上 大気排出VOC量の目標削減90%以下 	○	<ul style="list-style-type: none"> Webサイトの環境法令相互内部監査実施 27件配信で目標達成 地域の活動への参加などWebサイトで活動実施 開発件数14件で目標達成 約203千円で目標達成 2010年度比3.8%改善で目標達成 176,903千円で目標達成 61件のサブライナー(自主監査)実施で目標達成 約90%で目標達成 	<p>環境保全推進担当役員 山内 義孝</p> <p>取締役 兼 海外担当役員 兼 取締役 兼 本部長</p> <p>素材メーカーとして環境問題に貢献に向き合っていくはなりません。今後も事業活動での環境負荷低減を継続的に行うとともに、LCAの観点で環境問題解決に貢献できる新製品の開発を行っています。</p>	<p>環境報告</p> <p>環境</p> <p>2013年事業報告</p>

*1 EHS (Emergency Management) に関する取組は、海外に拠点を有する全従業員を対象とした取組です。
 *2 本報「Product Reliability」に関する取組は、企業がより安全な製品を開発・生産するために、顧客や関係者、業界の企業と連携して取り組んでいます。
 *3 EHS (EHS Code Assessment) に関する取組は、海外に拠点を有する全従業員を対象とした取組です。EHS (EHS Code Assessment) に関する取組は、海外に拠点を有する全従業員を対象とした取組です。

CSR推進室 室長 真木 亨

リンテックグループの全従業員が自ら考え行動を起こし、一体感を持って活動するCSRを目指しています。そのため、PSR（個人の社会的責任）を果たすのはもちろんのこと、PSRを当社のCSRへ発展させることが重要です。当社のCSRを全従業員と共有するために、社是から成るあるべき姿をより分かりやすくした「LINTEC WAY」を2014年4月に策定しました。社是を育む10の心得は、当社のCSRのみならずPSRにも通じるものです。当社グループが持続的成長を遂げるために、一体感を持ってCSR活動を推進していきます。

暮らしの中にあるリンテック

リンテックは、粘着製品、粘着関連機器、特殊紙、剥離紙・剥離フィルムなどをはじめとして幅広い分野で、さまざまな製品を生み出しています。私たちの製品は、暮らしのあらゆる場面で活躍しています。



半導体関連テープ・装置

回路形成後の半導体ウェハを裏面研磨し、薄型化するプロセスに使われる回路面保護テープ、ウェハを一つ一つのチップに切断するプロセスにおいて、ウェハをリングフレームに固定するテープ、さらには切断後のチップ裏面にそのまま粘接着剤を転写し、チップ実装・積層プロセスの簡略化に寄与するテープなど、実に多彩な高機能テープと、それを貼付・剥離する各種電子装置を開発しています。



|| 液晶ディスプレイ用フィルム

液晶ディスプレイの画像表示に欠かせない偏光フィルム、位相差フィルムなどを貼り合わせるための粘着加工や、貼り合わせのための両面粘着シートの供給、さらにはディスプレイ表面へのきずつき防止や、蛍光灯などの映り込み防止のための、フィルム表面の防眩ハードコート加工などを行っています。



|| プラスチック成形品同質ラベル素材

プラスチック成形品と同じ材質のフィルム基材を採用したラベル素材。ラベルが貼られた状態でもそのままリサイクル処理が可能な環境配慮型製品です。家電製品やコピー機などで使用され、リサイクルしやすい状態をご提供しています。



|| 建物用ウィンドーフィルム

窓ガラス全面に貼ることで、震災などによるガラス破損時の破片の飛散・落下防止効果をはじめ、紫外線カット、断熱、防犯対策、プライバシー保護などのさまざまな機能を発揮するウィンドーフィルム。透明タイプや着色・反射タイプなど多彩なアイテムをラインアップしており、特に安全対策や節電対策といった観点から、昨今非常に注目を集めています。



|| マーキングフィルム

耐候性、耐熱性、耐水性、耐油性などさまざまな優れた特徴を備えた、豊富なカラーバリエーションの耐久性粘着フィルム。屋外看板や車体のロゴなどに最適です。また、大判デジタルプリントにより多彩なビジュアル表現が可能な各種素材もラインアップ。商業施設の大型広告や、鉄道・バスなどのラッピング広告用途で幅広く使用されています。



|| 内装用化粧シート

木目・石目・メタリック調など、優れた意匠性が特徴の内装用高級装飾シートです。防火認定、F☆☆☆☆認定などの各種安全性基準をクリアした製品を豊富にラインアップ。400アイテム以上のデザインを取りそろえ、ホテル・オフィス・商業施設・住宅など幅広い空間でワンランク上の内装演出を実現します。



|| シール・ラベル用粘着紙・粘着フィルム

各種商品のブランド表示用ラベルや、スタンドタイプのアイキャッチラベルなどをはじめ、自動車・電気機器などの銘板用・警告用ラベル、冷凍庫や冷蔵庫に入れたり、加熱処理したりする食品用ラベル、バーコード印字などにも適した物流用ラベル、さらにはウェットテッシュ用の開閉ラベルや、粘着メモなどに至るまで、実に多彩なラベル素材を開発し、ご提供しています。



|| 積層セラミックコンデンサー製造用コートフィルム

多くの電子機器に内蔵されている積層セラミックコンデンサーの製造工程において、極薄のセラミック層を形成するうえで不可欠な剥離フィルム。セラミックの誘電ペーストを薄く、均一に塗ることができ、かつきれいにはがせることが求められます。当社の剥離技術、精密薄膜塗工技術の粋を結集した製品です。



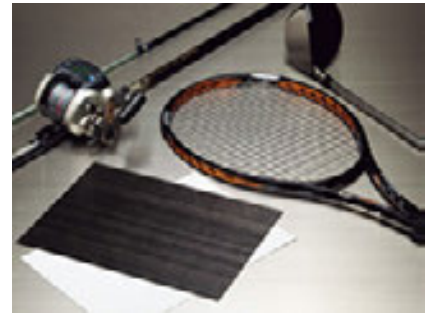
|| 自動車用ウィンドーフィルム

自動車の窓ガラスに貼るウィンドーフィルム。豊富な色と質感のバリエーションで、ドライバーの感性に響く高級感のある外観・車内空間演出を実現します。同時に、優れた断熱性能により車内の空調効率を高め、快適空間を実現します。さらに、高透明タイプのアイテム各種、ラインアップしています。



炭素繊維複合材料用工程紙

強くて軽い素材として、ゴルフクラブや釣り竿、さらには航空機のボデー部材などに使われている炭素繊維(カーボンファイバー)。これを樹脂で固めてシート状にするプロセスにおいて、当社の工程紙と呼ばれる剥離紙製品が使用されています。はがしやすさはもちろん、耐熱性や寸法安定性も重要です。



特殊紙

豊富なカラーバリエーションや、一味違った風合いが持ち味のカラー封筒用紙をはじめとして、ホットドッグなどの食品包装用の耐油紙、クリーニングタグ用の耐洗紙、半導体工場などで使われるクリーンルーム用の無塵紙、自己消火機能を持った不燃紙など、実に多彩な特殊機能紙を各種開発し、提案しています。

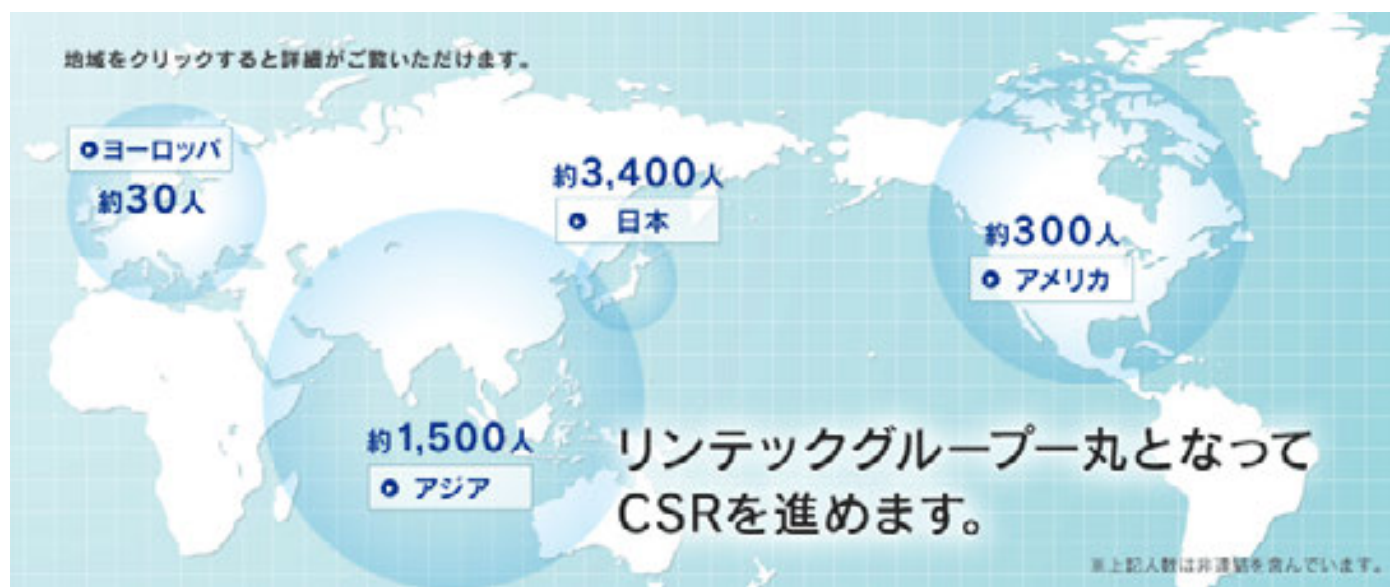


©Copyright Lintec Corporation. All rights reserved.

Linking your dreams リンテック株式会社

リンテックグループの概要

リンテックグループ全従業員がステークホルダーの声にこたえ、よりよい社会を実現するために、さまざまなCSR活動を行っています。



- 環境マネジメントシステムの国際標準規格であるISO14001 認証取得拠点

■ リンテック株式会社

- 本社●
- 飯田橋オフィス

■ (支店)

- 札幌支店
- 仙台支店
- 北陸支店
- 静岡支店
- 名古屋支店
- 大阪支店
- 広島支店
- 四国支店
- 福岡支店
- 熊本事務所

■ (工場・研究所)

- 吾妻工場●
- 熊谷工場●
- 千葉工場●
- 龍野工場●
- 新宮事業所●*1
- 新宮事業所龍野事務所●*1
- 小松島工場●
- 三島工場●*2
- 土居加工工場●*2
- 新居浜加工所●
- 伊奈テクノロジーセンター●
- 研究所●

■ リンテックコマース株式会社

■ リンテックサインシステム株式会社

■ 富士ライト株式会社

■ リンテックサービス株式会社

■ リンテックカスタマーサービス株式会社

■ プリンテック株式会社

■ 東京リンテック加工株式会社●

■ 大阪リンテック加工株式会社

*1 新宮事業所と新宮事業所龍野事務所は、一つのサイトとしてISO14001の認証を取得しています。

*2 三島工場と土居加工工場は、一つのサイトとしてISO14001の認証を取得しています。

|| アジア

- 琳得科(蘇州)科技有限公司●
 - 北京分公司
 - 上海分公司
 - 深圳分公司
- 琳得科(天津)実業有限公司
- 普林特科(天津)標籤有限公司●
- リンテック・アドバンスト・テクノロジーズ(上海)社
 - 蘇州分公司
 - 天津分公司
 - 深圳分公司
 - 成都分公司
- マディコ社
 - 蘇州事務所
- リンテック株式会社
 - 上海事務所
- リンテック・スペシャリティー・フィルムズ(台湾)社
- リンテック・ハイテック台湾社
- リンテック・アドバンスト・テクノロジーズ(台湾)社●
 - 新竹事務所
- リンテック・コリア社●
- リンテック・スペシャリティー・フィルムズ(韓国)社
- リンテック・アドバンスト・テクノロジーズ(韓国)社
- リンテック・インドネシア社●
- リンテック・シンガポール社●
 - ハノイ事務所
- リンテック・ジャカルタ社
- リンテック・アドバンスト・テクノロジーズ(フィリピン)社
- リンテック・フィリピン(ペザ)社
- リンテック・タイランド社
- リンテック・バンコク社
- リンテック・ベトナム社
- リンテック・ハノイ・ベトナム社
- リンテック・インドア社
- リンテック・インダストリーズ(マレーシア)社●
- リンテック・インダストリーズ(サラワク)社●
- リンテック・アドバンスト・テクノロジーズ(マレーシア)社
 - クアラルンプール事務所
 - ペナン事務所

|| アメリカ

- リンテック USA ホールディング社
- マディコ社●
 - マディコ・ウインドーフィルムズ部門
 - マディコウエスト事務所
 - マディコサウスウエスト事務所
 - マディコミッドアメリカ事務所
 - マディコサウステキサス事務所
 - マディコサウスイースト事務所
 - マディコフロリダ事務所
 - マディコノースイースト事務所
- リンテック・オブ・アメリカ社
 - シカゴ事務所
 - ダラス事務所
 - ナノサイエンス&テクノロジーセンター

|| ヨーロッパ

- リンテック・ヨーロッパ社
 - ハンガリー事務所
- リンテック・アドバンスト・テクノロジーズ (ヨーロッパ)社
 - イスラエル事務所

©Copyright Lintec Corporation. All rights reserved.

Linking your dreams **リンテック株式会社**

至誠のために

リンテックグループの社是「至誠と創造」が示すように、「法令遵守」と「企業倫理」は経営の最重要テーマです。また、CSRの基盤と位置づけ、経営体制の強化に努めています。

コーポレート・ガバナンス

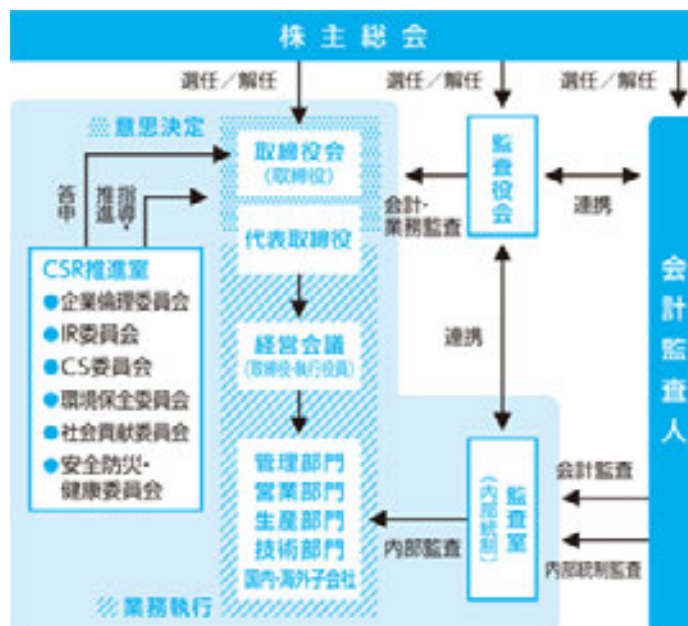
リンテックグループは、法令遵守を徹底し、経営の透明性と企業倫理の意識を高め、迅速な意思決定と効率的な業務執行を行っていくことが、コーポレート・ガバナンスの基本だと考えています。その充実・強化を通じて、リンテックグループの企業価値のさらなる向上を目指します。

|| コーポレート・ガバナンス体制

リンテックでは、取締役の任期を1年とすることで、その責任を明確にしているほか、2011年6月より執行役員制度を導入し、経営を意思決定する取締役と、業務を執行する執行役員とを分離しました。

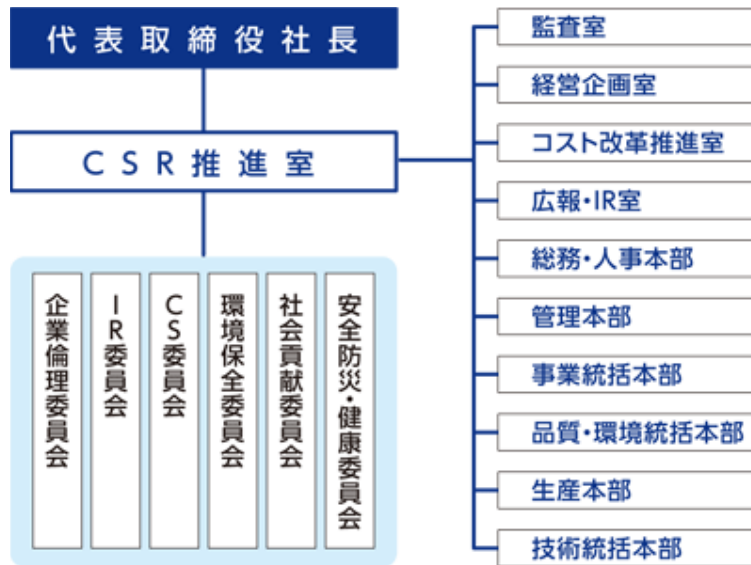
監査役（社内2人、社外2人）は、取締役会と経営会議に常時出席して意見聴取を行い、内部監査部門や会計監査人と連携し取締役の業務全般を監査しています。また監査役会では、各監査の結果を共有し、取締役の意思決定と執行役員の業務執行の適正さと効率性のチェックを強化しています。

コーポレート・ガバナンス体制



リンテックでは、CSRの六つの基本姿勢に沿ってCSR活動を推進しています。

CSR推進室は、社長直轄の組織とし、全社での高い倫理観の育成とCSRの浸透、およびCSR六委員会の活動支援を行っています。六委員会は組織横断的のメンバーで構成され、各委員会に推進担当役員を配することで、経営の立場から責任を持って活動をリードしています。



2014年4月1日現在

Voice CSRワーキンググループで活動を推進

マサチューセッツ州ウーバンとフロリダ州セントピーターズバーグの従業員で構成された「CSRワーキンググループ」をリードすることは、私の喜びです。当チームでは、コーポレート・ガバナンス、倫理研修、コンプライアンス、リスクマネジメント、環境、健康、安全、購買、人事、労働、社会貢献に向けて、2014年にISO26000の基本原則を達成する目標を立てました。この目標には生物多様性への取り組みも含まれており、推進チームを設置しています。これらの分野の改善に向けて取り組むこと、またリンテックグループで学んだことを共有する機会を楽しみにしています。



マディコ社 法務部 部長
Daniel MacKay
(ダニエル・マッケイ)

コンプライアンス

リンテックグループでは社是「至誠と創造」に基づき、従業員一人ひとりが自らを厳しく律するよう努めています。2014年2月には、役員と管理職を対象にコンプライアンスアンケート調査を実施しました（回答率：2014年86.8%/2013年88.8%/2012年68.6%）。

また、イントラネット上に「コンプライアンスに関する自己チェックシート」と「コンプライアンス研修資料」を掲出しており、全ての従業員がこれらの資料を活用し、自らの行動の確認や所属組織でのコンプライアンス教育を実施しています。



吾妻工場でのコンプライアンス教育

コンプライアンスアンケート回答率

86.8%

|| 人権・労働に関するグローバル調査

リンテックグループでは2014年1～2月に、全グループ会社と全事業所を対象とした、人権および労働に関する実態調査を行いました。調査により、各国・各地域の法令遵守はもちろん、リンテックグループの行動規範が理解され、基本的人権が尊重された安全で健康な労働環境が確保されていることを確認しました。今後も年1回定期的に調査を行い、実態把握とその改善に活用していきます。

|| 独占禁止法の遵守／汚職、贈収賄の防止

リンテックグループでは、新たに作成した「独占禁止法遵守マニュアル」を2013年10月に役員と管理職および事業統括本部所属の従業員に配付し、営業職を対象に飯田橋オフィスにて講習会を4回実施しました(計約190人参加)。また、講習会後のアンケートに記載されていた質問には、総務・法務部から個別に回答し、理解を促しました。

2013年12月にはリーガルニュース「独占禁止法」を発行。さらに2014年1月には独占禁止法に関するe-ラーニングを実施するなど、従業員への啓発活動を行っています。

|| 行動規範ガイドラインの見直し

リンテックグループでは、従業員の行動規範を記載する小冊子を発行し、一人ひとりの意識啓発に努めています。2014年4月には内容を見直した行動規範ガイドラインを発行し、よりグローバルでの行動規範となるようサプライチェーンにおけるCSRマネジメントや人権に関する内容などを充実させました。また、最近の社会動向を反映し、情報セキュリティーやSNSに関する内容を盛り込みました。

- ▶ リンテックグループ行動規範
- ▶ 行動規範ガイドラインの改定



|| りんりかわら版による倫理感の醸成

リンテックでは2006年より、行動規範の遵守および倫理観の醸成を目的に、誰でも分かりやすい川柳に解説をつけた「りんりかわら版」をイントラネットに掲出しています。2014年4月1日には通算で185句に達しました。

また、これらの川柳をまとめた小冊子「りんりかわら版 守ってマスカ!？」を年1回発行しており、2014年4月にVol.7を発行。行動規範の遵守および倫理観の醸成に役立てるとともに、お客様やお取引先にも紹介しています。



リスク管理

リンテックグループでは、グループ全社を対象に会社経営に関わるあらゆるリスクを洗い出し、緊急度や重要度に応じて改善に取り組むなど、問題発生の防止に努めています。また、各本部長から成る「リスク評価委員会」を設置し、リスク管理体制の強化を図っています。

|| BCP(事業継続計画)*1

リンテックではこれまでも、地震をはじめとするさまざまな災害発生時に、製品の供給を継続し早期に事業を再開できるよう、BCPの策定に取り組んできました。

2013年4月から、BCPをより効果的・実践的に運用するための管理体制であるBCMS(事業継続マネジメントシステム)*2を全社で構築すべく検討を開始しました。災害発生時の対応手順の妥当性を高めるために、演習・訓練や内部監査などBCPを継続的に改善する仕組みの構築を進め、2014年3月11日には「ISO22301：2012」の認証を取得しました。

▶ 特集1に詳細を記載

*1 BCP：Business Continuity Plan（事業継続計画）の略称。企業が事故や災害などの緊急事態に遭遇した場合、損害を最小限にとどめつつ、事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために事前に策定された行動計画。

*2 BCMS：Business Continuity Management System（事業継続マネジメント）の略称。企業の重要な製品またはサービスに重大な影響を与えるインシデント発生の際に「事業を継続」するため、組織の現状を理解して事業継続計画を策定し、演習により計画の実効性評価を行い、システムを運用するマネジメント手法。

|| 情報セキュリティー管理

リンテックでは「情報セキュリティー運用細則兼内部監査チェックリスト」に基づき、各部署で内部監査を実施しています。2013年3月に制定した「リンテックグループ ソーシャルメディアポリシー*」と「ソーシャルメディアに関する禁止規程」の解説として「ソーシャルメディア ガイドライン」および「過去実際に起きたソーシャルメディアに関する事件」の資料をイントラネットに掲出しました。2013年6月にはソーシャルメディアに関するe-ラーニングを実施し、周知・徹底を図っています。

* ソーシャルメディアポリシー：FacebookやTwitterなどSNSの企業利用に関するガイドライン。

|| ヘルプライン

リンテックでは、職場の悩みや法令違反を相談する窓口として、ヘルプライン（内部通報制度）を設けています。迅速な相談と調査ができるよう、2008年4月からは第三者機関である顧問弁護士を相談窓口に加えしました。また行動規範ガイドラインでヘルプラインを紹介するなど社内周知を行い、仕組みを活用することで問題の早期発見・解決を図っています。

お客様のために

お客様からの期待にこたえ、信頼いただくために、製品の安定供給、品質管理の徹底およびサービスの向上を推進しています。

品質保証

リンテックグループでは、"ものづくり"の原点に立ち、品質・環境・安全を基本とした製品開発・製造・販売に努めることにより、あらゆるステークホルダーから信頼を得られる会社を目指しています。ISO9001*1、ISO14001*2、ISO22301*3などの国際標準規格を基本としたマネジメントシステムを構築し、品質管理、環境配慮、事業継続などを含めた事業活動の中で、お客様に真に喜んでいただける品質づくりに常に挑戦し続けています。

*1 ISO9001：品質マネジメントシステムの国際標準規格。

*2 ISO14001：環境マネジメントシステムの国際標準規格。

*3 ISO22301：地震や火災、ITシステム障害や金融危機、取引先の倒産、あるいはパンデミックなど、災害や事故、事件などに備えて、さまざまな企業や組織が対策を立案し、効率的かつ効果的に対応するためのBCMSの国際標準規格。

▢ リンテックグループ品質・環境・事業継続方針

品質保証体制

リンテックグループでは、国内外の主要生産拠点を中心にISO9001の認証を取得していますが、さらなる体制強化のため、営業拠点や開発拠点などの対象部署の拡大認証や、関連組織の統合認証などに取り組んでいます。全社一丸となった三位一体（営業・開発・生産）の体制をより一層強化し、スピーディーでこまやかなお客様対応に努めています。

ISO9001 認証取得状況

	2011年度	2012年度	2013年度
認証取得数	21	22	21

※ 2013年度は、三島工場と小松島工場を統合しました。

Voice 喜んでいただける品質づくり

リンテック・インダストリーズ（マレーシア）社では顧客満足度を一層上げるために、製品の品質向上と継続的改善を実行するチームを設置しています。製品やプロセスに関連した品質問題や新しい改善項目などを毎月の会議で議論しています。また、クレームからの是正と予防措置の有効性の確認、潜在的な問題の予防についても議論しています。スローガン「みんなが喜ぶ製品をつくろう」は、私たちの目標でありコミットメントです。



リンテック・インダストリーズ(マレーシア)社
技術課 品質保証 係長
Lim Eng Sneah
(リム・エン・スネア)

CS(お客様満足)向上のために

お客様に安心して製品を使っていただけるように、リン社テックグループではさまざまな方法で製品情報の開示を行っています。安全データシート（SDS）の発行や化学物質調査の回答もそれらの一環です。幅広い分野で使用されている当社製品に求められる情報は多岐にわたり、それらを分かりやすい情報として提供することがCS向上につながると考えています。例えば粘着製品では、品種ごとに特徴や構成、物性データなどを記載した技術資料を準備。多くのお客様にお使いいただく製品だからこそ、そのご要望にお応えするため約1,200品種に及ぶ資料をそろえています。これからも喜んでいただけるリンテック製品を目指して、さまざまな取り組みを進めていきます。

資料数
約 **1,200** 品種

品質事故の予防

リンテックではISO9001を基本としたQMS（品質マネジメントシステム）活動を行っており、中でもデザインレビュー*1の充実に力を注いでいます。そのためには、FMEA*2やFTA*3、統計的手法を取り入れたSPC*4などを体系的に管理し、これらの手法を利用することで、事故を事前に予測し適切な対応を取り、事故の予防に努めています。

*1 デザインレビュー：開発における成果物（仕様書、設計書など）を、製造部門や営業部門など異なる立場でチェック・評価する方法。

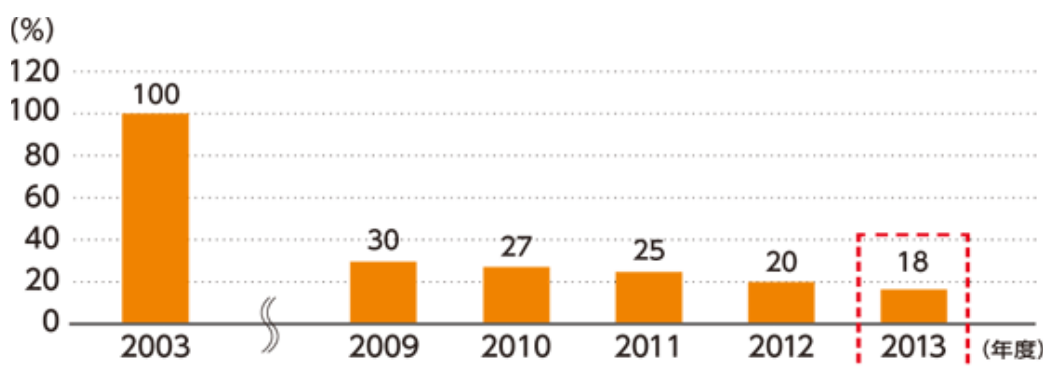
JIS（日本工業規格）やISO9000シリーズにおいて定義されている設計審査。

*2 FMEA：Failure Mode and Effect Analysisの略称。潜在的な故障・不具合の体系的な分析方法。

*3 FTA：Fault Tree Analysisの略称。故障・不具合といった事象の要因を、ツリー形式で解析する方法。

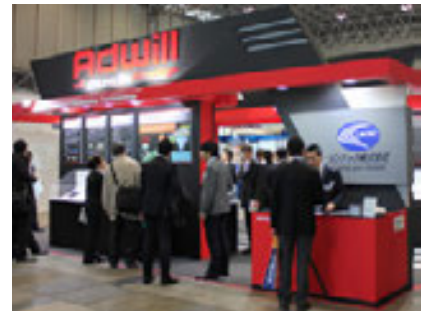
*4 SPC：Statistical Process Controlの略称。少数の標本を頻繁に採取し品質を検査することで、工程の変化を検出する方法。

品質事故件数比率（2003年度の件数を100%とした比率）



|| 国内外の展示会に出展

リンテックグループでは、より多くのお客様とのコミュニケーションを促進するため、国内外で開催される展示会に積極的に出展しています。2013年度は、計34回の展示会に出展し、リンテックの製品や技術に対する貴重なご意見をいただきました。



セミコン・ジャパン 2013に出展

2013年度に出展した主な展示会

国内	海外
<ul style="list-style-type: none"> ■ 第4回 高機能フィルム技術展 ■ SIGN EXPO 2013 ■ サイン&ディスプレイショウ2013 ■ セミコン・ジャパン2013 ■ エコプロダクツ2013 ■ JAPAN SHOP 2014 	<ul style="list-style-type: none"> ■ Philippines Semiconductor and Electronics Convention and Exhibition 2013 (フィリピン・パサイ) ■ SEMICON West 2013 (アメリカ・サンフランシスコ) ■ International Touch Panel and Optical Film Exhibition 2013(台湾・台北) ■ All China Leather Exhibition 2013 (中国・上海) ■ SEMICON Taiwan 2013 (台湾・台北) ■ SGIA*1 EXPO 2013 (アメリカ・ラスベガス) ■ Labelexpo Asia 2013(中国・上海) ■ SEMA*2 Show 2013 (アメリカ・ラスベガス) ■ FIMEC*3 2014 (ブラジル・ノヴァ ハンブルゴ) ■ SEMICON China 2014 (中国・上海)

*1 SGIA: Specialty Graphic Imaging Associationの略称。

*2 SEMA : Specialty Equipment Market Associationの略称。

*3 FIMEC:Feira Internacional de Couros, Quimicos, Componentes e Acessorios, Equipamentos e Maquinas para Calçados e Curtumes(国際皮革・加工機器見本市)の略称。

お取引先との協働

リンテックグループでは、お取引先との共存共栄を目指して、公正で透明性の高い取引に努めています。

公正な取引

リンテックグループでは、全てのお取引先の皆様を「相互発展を目指すパートナー」と考えて信頼関係の構築を目指しています。そのために自由な競争原理に基づく公正・透明な取引を行うことを基本方針としています。お取引先の選定に当たっては広く門戸を開き、環境保全の取り組みなども含めた適正な評価を行うとともに、関連法規・社会規範を遵守した調達活動を行っています。

CSR調達

リンテックグループでは「リンテック原材料調達基本方針」を掲げ、お取引先の皆様にさまざまな機会を通して人権尊重、労働・安全衛生、品質・安全性確保、情報セキュリティー、企業倫理などのあらゆる観点からCSRの徹底をお願いしています。2013年度はお取引先アンケートを実施し、原材料のお取引先約500社のうち取引金額上位49社にアンケートを依頼し、その全てのお取引先から回答を頂きました。CSRに関するアンケート項目では人権尊重や児童労働の禁止、強制労働の禁止など計13項目を確認しました。

取引先数
2,794社

今後もアンケートによる現状の把握とその結果に基づいた調達活動の改善を行っていきます。

グリーン調達

リンテックグループは調達における環境負荷低減を推進するため、「リンテックグリーン調達方針」に従い原材料、部品、副資材の化学物質管理を徹底しています。新たな材料を調達する場合にはお取引先に協力いただき、当社での管理物質の含有調査を行っています。また、新たな規制が発生した都度、該当物質の含有調査をお願いしています。これらの調査を迅速に正確に行うには、お取引先の理解と、お取引先での環境保全活動や化学物質管理の推進が重要です。引き続きコミュニケーションの強化を図りながら、グリーン調達を推進していきます。

- ▶ リンテックグリーン調達方針
- ▶ リンテック木材パルプ調達方針
- ▶ リンテック原材料調達基本方針

紛争鉱物への対応

リンテックでは、採掘された鉱物が武装勢力の資金源となる「紛争鉱物」は重大な社会問題であると認識し、原材料における「紛争鉱物」の使用状況を調査し、原材料としてそれらを使用していないことを確認しています。また、今後も「紛争鉱物」を不使用とする調達管理を行っていきます。

Voice お取引先への品質監査・環境監査

リンテックグループでは源流管理強化および良好なパートナーシップの構築を目的に、お取引先の供給者監査を計画的に実施しています。2006年度より開始したこの監査も、2013年度末には70社、200件（品質監査190件、環境監査10件）の実績となっています。今後も供給者監査を通してお取引先との関係強化を図り、お客様に対しより高品質で安全・安心な製品をお届けするよう努めていきます。



本社 品質保証部 調査役
橋爪 久

BCPにおけるお取引先との協働

リンテックでは、当社製品の安定供給に必要な原材料の供給先であるお取引先に対して、その事業継続能力の評価を進めています。2013年度は、特定製品に対して①当社向けの在庫保有量、②お取引先における原材料購入ルート、③生産拠点および設備の防災対応、④代替生産拠点の調査を実施しました。

また、お取引先全体に対しては、BCPを導入し組織的に運用する体制の整備や、インシデント*発生時に対応する組織や手順の整備についての調査を進めています。

* インシデント：中断や阻害、損失、緊急事態・危機になり得る、またはそれらを引き起こし得る状況。

お取引先とのコミュニケーション

飯田橋オフィスの提供

リンテックグループでは、お取引先や関連組合とのコミュニケーション活動に力を入れています。その一環として2014年3月には、全日本シール印刷協同組合連合会のセミナー会場として飯田橋オフィスを提供しました。組合員の皆様約80人が参加するとともにインターネット中継も行われ、活気ある会合となりました。



飯田橋オフィスでのセミナー

ITCサプライヤーズデイの開催

伊奈テクノロジーセンター(ITC)では、お取引先とのコミュニケーション活動の一環として、年1回お取引先に向けて報告会を開催し、相互理解を図っています。2013年11月は、29社62人に参加いただき、リンテックの業績、開発部・製造部・品質保証部・業務管理部の現状報告と下期に向けた取り組み方針を説明しました。さらに、お取引先5社から「品質への取り組み」をテーマに、活動内容をご紹介いただき、品質維持・向上への意識を共有しました。



ITCサプライヤーズデイ

従業員とともに(人権・雇用)

リンテックグループでは、全従業員が明るく活力を持って仕事ができるように、意識啓発や支援制度の整備などさまざまな取り組みを行っています。

人権と多様性の尊重

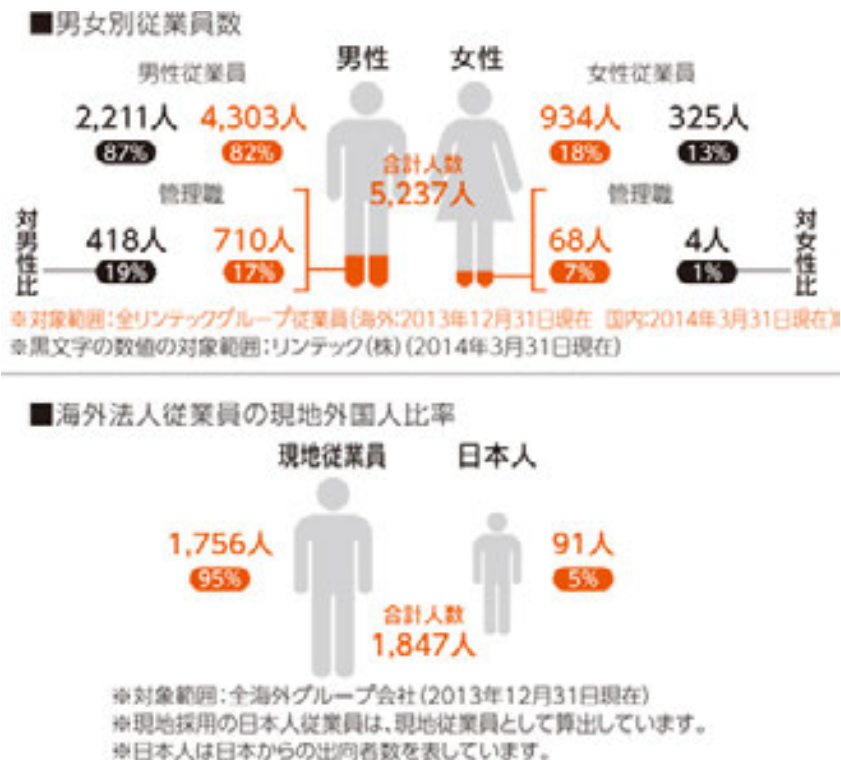
リンテックグループでは、全従業員が社是「至誠と創造」の下、ともに働いています。全従業員が平等に働きがいを持てるよう、人種、信条、性別、学歴、国籍、宗教、年齢などによるあらゆる差別的取り扱いをせず、従業員一人ひとりの多様性（ダイバーシティ）を尊重*しています。また、2011年には強制労働や児童労働の禁止を原則とする「国連グローバル・コンパクト」に参加しました。今後も、全従業員が互いを認め合いながら成長を続けることを目指していきます。

現地外国人比率

95%

* 多様性（ダイバーシティ）の尊重：人や集団間に存在する多様な個性を尊重することで、適材適所での各能力の発揮や多様な視点での問題解決、独創的なアイデアの創出などを促進。

雇用状況



人権尊重の労務管理と教育

リンテックグループでは、企業活動の根幹に「コンプライアンス」があるとし、国内外の企業活動において「関連法規」並びに「社会ルール」の遵守を徹底しています。これは従業員の採用や就労に関しても同様であり、不当な差別行為、児童労働、ハラスメントの禁止など労働関連法規を遵守した労務管理を行っています。また、新入社員35人に対し「国連グローバル・コンパクトとCSR」に関する研修を行うなど、人権教育も進めています。

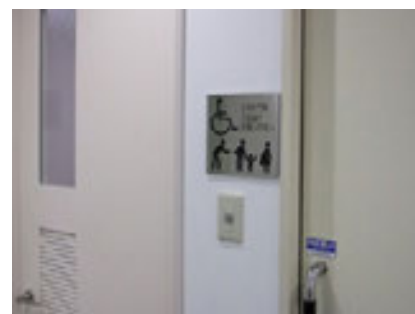
人権と多様性(ダイバーシティ)の尊重

障がい者雇用

リンテックは障がい者の雇用に努めていますが、2013年度の通期雇用率は1.79%となり、法定雇用率である2.0%を下回りました。各事業所において障がい者雇用を促進し、2014年度は法定雇用率達成を目指します。

障がい者雇用率

	2011年度	2012年度	2013年度
雇用人数(人)	46	46	46
通期雇用率(%)	1.71	1.72	1.79



アクセシビリティ*が向上した本社新2号館

* アクセシビリティ：高齢者・障がい者を含む誰もが、さまざまな製品・建物・サービスなどを支障なく利用できること。

ジョブリターン制度

従業員の働き方の選択肢を広げるため、リンテックでは2010年4月からジョブリターン制度を導入しています。出産や家族の介護、配偶者の転勤など、さまざまな家庭の事情により一度は自己都合で退職した社員を即戦力として再雇用しています。

ジョブリターン制度利用者数

	2011年度	2012年度	2013年度
雇用人数(人)	0	0	0

高年齢者雇用

リンテックでは高年齢者継続雇用を行っており、基本的には希望者全員を再雇用できる規定としています。2013年度は定年退職者23人のうち15人を再雇用しました。再雇用者は長年培ってきた技術を生かし、さまざまな場で活躍しています。

高年齢雇用者数

(人)

	2011年度	2012年度	2013年度
定年退職者数	31	41	23
再雇用者数 (割合)	13(42%)	28(68%)	15(65%)



現場で技術指導する再雇用の社員(左)

|| 労使関係

リンテックでは、労働組合として「リンテックフォーレスト」が組織されています。労使協議では、リンテックとリンテックフォーレストが互いの立場を尊重した姿勢で臨み、話し合いによる問題解決を図っています。また、定期的に行われる協議会では、事業推進のための創造的な意見交換を行っています。

リンテックフォーレストの状況

	2011年度	2012年度	2013年度
フォーレスト 会員数(人)	2,148	2,121	2,086
平均年齢(歳)	37.8	37.8	38.3
平均勤続年数	15年10か月	16年	16年6か月

※ 各年度末現在

ワークライフバランス

リンテックでは、社員が安心して仕事に取り組み、その能力を十分に発揮できるよう、働きやすい職場環境の整備や仕事と生活の調和に取り組んでいます。休暇制度では、本人に限らず家族が病気やけがをした際の看護にも利用できる保存休暇制度や、地域貢献活動への参加にも利用できる社会貢献休暇制度などを導入しています。2013年4月からは、育児休業制度の対象を満3歳未満から小学校未就学児までに、介護休業制度を93日から2年(730日)にするなど、勤務時間の短縮措置を行いました。

今後も安心して仕事に取り組める体制づくりに努めます。



震災復興支援のための社会貢献休暇制度の利用

社員支援の制度

介護支援

- 介護休業制度(通算93日間以内)
 - 介護休暇制度(当該家族が1人の場合5日/年度、当該家族が2人以上の場合10日/年度)
 - * 半日単位の取得もできるものとする
- 対象：要介護状態にある対象家族の介護そのほかの世話をを行う社員

子育て支援

- 出産休暇制度(通算14週間)

対象：出産する社員
- 育児休業制度(対象期間内で社員が申し出た期間)

対象：子が満1歳に達する日(事情により1歳6か月に達する日)までの間で、申し出をした社員
- 子の看護休暇制度(当該子が1人の場合6日/年度、当該子が2人以上の場合10日/年度)
 - * 半日単位の取得もできるものとする

対象：小学校就学前の子の看護または子に予防接種・健康診断を受けさせるために申し出をした社員
- 時短・時差勤務制度(子が満3歳に達するまで)

対象：小学校就学前の子を養育し、申し出をした社員

ボランティア支援

- 社会貢献休暇制度(3日間/年度)

対象：災害時の救援活動や地元の消防活動、幼稚園・小・中学校の活動、地域の町おこし活動などに参加する社員

各制度の利用者数

(人)

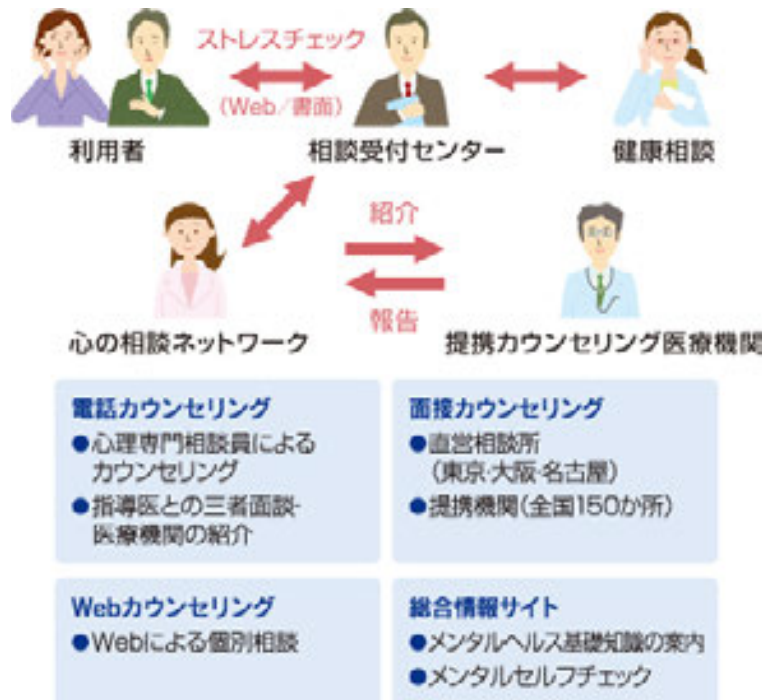
制度	2011年度	2012年度	2013年度
介護休業制度	2	0	1
介護休暇制度	2	2	3
保存休暇制度	55	51	61
出産休暇制度	13	16	16
育児休業制度	22	19	26
子の看護休暇制度	11	10	11
時短・時差勤務制度	11	10	21
社会貢献休暇制度	23(延べ41日)	26(延べ54日)	26(延べ50日)

|| メンタルヘルス対策

リンテックグループでは、予防型EAP*システムを導入しています。年1回の「心の健康診断」により、各自がストレスの状況を把握し自己管理に役立てるとともに、組織ごとの分析結果は経営層にフィードバックされ改善が図られます。2013年度はグループ全体で3,357人を対象に実施し、受診率は96.6%でした。また、リンテックグループの社員とその家族のために、健康、メンタルヘルス、育児、介護、法律・家計などの悩みを専門家に相談できる、サポートホットラインを設置しています。

* 予防型EAP：Employee Assistance Program（従業員支援プログラム）の略称。既に不調を訴えている従業員への「対処」に加え、健康な従業員に対する「予防」にも重点を置き、従業員が働きやすい職場をつくることで生産性を上げようとする従業員プログラム。

予防型EAPシステムの概要



|| 長時間労働対策

リンテックでは長時間労働の弊害を防ぐため、人員の適正配置や業務量の平準化を図るよう努めています。体や心に過度の負担を掛けないように上司が残業時間を管理し、職場ごとにノー残業デーやフレックス勤務制度を設けるなど、業務を効率よく計画的に進めるための仕組みを導入しています。また、こまかな労務管理ができるように、勤怠管理システムも導入しています。

Voice 社会貢献休暇制度が活動のきっかけに

2013年7月、会社が募集する東日本大震災支援プロジェクトとして3日間、失われた防潮林の再生を目的としたどんぐりの苗木づくりに参加しました。震災の復興支援として何かをしたいと考えていたとき、社会貢献休暇の利用は良いきっかけとなりました。沿岸部の被災地にはほとんど建物がなく、復興には程遠い状況だと実感しました。参加した他企業の方々とは、今でも一緒に継続してボランティア活動に参加しています。



本社 人事部 係長
島中 富男

従業員とともに(人材育成)

リンテックグループでは、従業員の業務や能力に合わせた教育プログラムを用意し、グローバル社会にも通用する人材の育成に努めています。

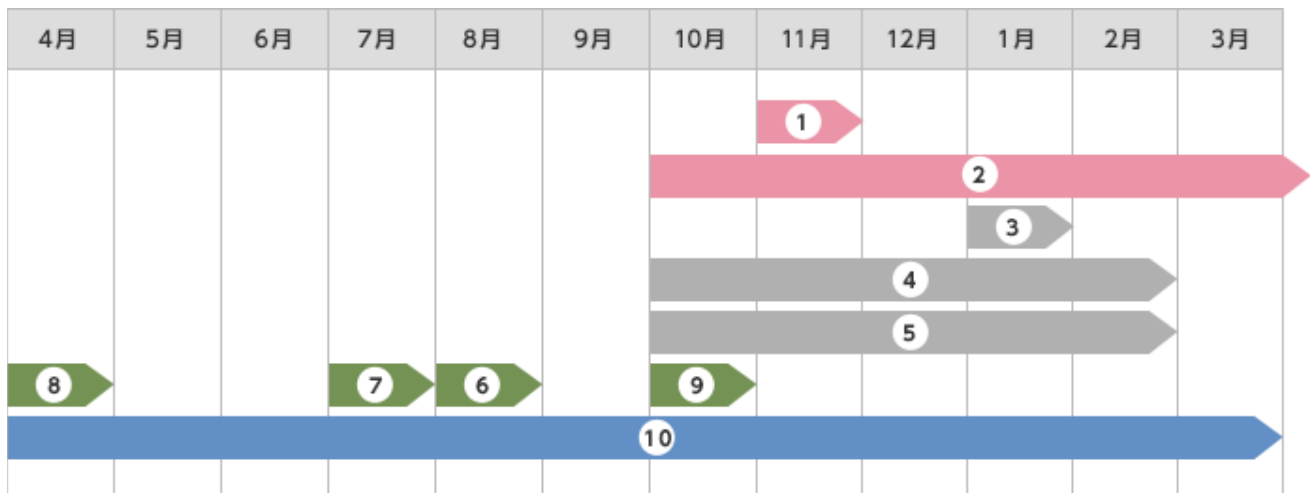
全社階層別研修

リンテックでは、“会社と社会の発展に貢献できる人づくり”を目指しています。多様な価値観を持つ社員一人ひとりが成長と達成感を実感できる人材教育プログラムとして、全社階層別研修を導入しています。この研修は、社員のスキルアップはもとより、各人の自発的なキャリア・デザインを支援しています。

全社階層別研修参加者合計

426人

2013年度 階層別研修



2013年度 研修内容と受講者数

研修内容	受講者数(人) (対象者)
①新任管理職研修(集合研修) 管理職として必要なマネジメントの知識、スキルの習得および現場における実践力を習得する。	33 (新任課長)
②新任管理職研修(通信研修) 管理職として必要な経営学分野の基本知識、マネジメントの知識、スキルを習得する。	33 (新任課長)
③新任係長研修(集合研修) 現場のリーダーに必要なマネジメントの知識、スキルを習得する。	35 (新任係長)

<p>④5等級昇格者研修(通信研修) グループリーダーとしての職場の問題解決、部下の指導・育成、生き生きとした職場づくりなどについて体系的に習得する。</p>	<p>114 (5等級昇格者)</p>
<p>⑤4等級昇格者研修(通信研修) 総合的なビジネススキルの習得を目標に、科目選択で習得する。</p>	<p>44 (4等級昇格者)</p>
<p>⑥3年目フォロー研修(集合研修) 2年目を振り返り、現状をグループで討議することにより、今後の目標について明確にする。</p>	<p>38 (新卒3年目)</p>
<p>⑦2年目フォロー研修(集合研修) 1年間を振り返り自分の成長を確認し、これからの取り組みを自己演習とグループ学習を通じて明確にする。</p>	<p>46 (新卒2年目)</p>
<p>⑧新入社員研修(集合研修) ビジネススキルと業務関連知識、自社特有スキルの基礎を習得する。社会人・職業人としての基本的な常識、職業理論などを理解する。</p>	<p>38 (新入社員)</p>
<p>⑨内定者研修(集合研修) 入社までの時間でやっておくべきこと、社会人となるに当たっての心構えを習得する。</p>	<p>32 (内定者)</p>
<p>⑩新語学研修(自薦・本部推薦) グローバル化が進む中、海外赴任候補者のすそを広げ、海外における任務遂行能力を高めることを目的とする。</p>	<p>13 (自薦のうえ選考)</p>

個別教育プログラム

品質教育

お客様満足の上に向け、リンテックグループでは高品質な“ものづくり”のためのQMS(品質マネジメントシステム)とEMS(環境マネジメントシステム)活動を行っています。継続的活動には従業員の理解と意識向上が不可欠です。そこで当社では外部講習や通信教育への参加はもとより、e-ラーニングを含む社内教育を積極的に実施しています。2013年度のQMS社内教育および品質に関するe-ラーニングでは、27講座を実施し、延べ5,683人が受講しました。

QMS社内教育および品質の
e-ラーニング延べ受講者数

5,683人

CSR説明会/情報セキュリティー教育

リンテックグループではCSR活動への認識を共有するために、2010年度からCSR勉強会を適時実施しています。2013年度は千葉工場(参加者：63人)、小松島工場(参加者：55人)、三島工場(参加者：37人)、土居加工工場(参加者：22人)、龍野工場(参加者：64人)、新宮事業所(参加者：82人)、大阪支店(参加者：80人)、名古屋支店(参加者：28人)、本社(参加者：291人)などにおいて、延べ1,065人が参加したコンプライアンスと情報セキュリティー教育を併せて実施しました。

環境教育

リンテックと東京リンテック加工（株）では、ISO14001の自覚教育を実施しています。事業所ごとに人数や回数などを考慮した実施計画を立案し、分かりやすい図表やイントラネットの「リンテック環境・安全インフォメーション」を利用した資料を作成するなど工夫を凝らしています。また、生物多様性や化学物質管理の研修、緊急事態対応訓練などは別日程で行うなど、教育内容や時期も工夫し、継続的に従業員の環境意識向上に努めています。さらにe-ラーニングでも、生物多様性や製品含有化学物質管理など当社の取り組みに対する従業員の理解を促進しています。

2013年度 環境教育延べ受講者数

対象	内容	延べ受講者数 (人)
本社	新入・転入者教育、ISO14001自覚教育、生物多様性（出前講座）	291
吾妻工場	ISO14001自覚教育(方針、目的・目標) / (化学物質管理) 緊急事態対応訓練(緊急連絡網訓練) / (ルール確認)、特定業務教育(廃棄物/廃液) 処理に関する勉強会、ISO14001自覚教育(EMS全般)、特定業務教育(ユーティリティ設備の勉強会)、階層教育(入社2~5年目)	716
熊谷工場 (リンテックサービス)	ISO14001自覚教育、訓練、業者啓蒙、化学物質教育など	401
研究所	新入社員自覚教育、生物多様性（出前講座）、ISO14001自覚教育、新入社員化学物質管理教育	348
東京リンテック加工	ISO14001自覚教育、生物多様性（出前講座）、化学物質管理教育	142
伊奈テクノロジーセンター	ISO14001自覚教育、生物多様性（体験学習）	166
千葉工場	CSR勉強会、ISO14001自覚教育、廃棄物の管理、内部監査員教育、生物多様性	252
龍野工場	その他社内教育（特定業務教育、緊急事態訓練）、ISO14001自覚教育（生物多様性教育・化学物質関連内部教育を含む）、新入・転入者教育、特定業務・資格外部講習、生物多様性	367
新宮事業所	ISO14001自覚教育、生物多様性（出前講座） / （報告会）、緊急事態対応訓練	410
新居浜加工所	ISO14001自覚教育	39
三島工場 (協力会社含む)	ISO14001自覚教育、化学物質管理、生物多様性、法令順守、廃棄物分別方法講習、など	472
小松島工場	ISO14001自覚教育(化学物質教育を含む)、生物多様性（活動）	257

|| リンテック環境・安全インフォメーション

環境教育の一環として、イントラネットの「リンテック環境・安全インフォメーション」にて、環境関連やISO14001(活動実績/サイト事務局紹介)、化学物質管理関連(REACH規則*や規制情報など)、省エネルギー、安全衛生などの情報を発信しています。2013年度は12回発信しており、今後も定期的に情報を更新し従業員のさらなる環境意識向上を図っていきます。



リンテック環境・安全インフォメーション

* REACH規則：EUの化学物質規制で、化学物質の登録、評価、認可および制限に関する規制の略称。EU諸国への化学物質を年間1t以上輸出する場合に登録が必要。また、製品中に認可対象候補物質に該当する化学物質を0.1%以上含有する場合は届け出が必要。

技術に親しむ会

研究開発部門、生産部門および営業部門との技術交流を目的に、2013年10月「明日の新製品・新技術」をテーマに、第64回「技術に親しむ会」を開催しました。この会には生産部門、営業部門からの参加者45人を含めた総勢約200人が参加しました。研究開発担当者から、最新の環境および効率化への製品開発、生産技術の取り組みが発表され、活発な意見交換とともに技術情報の共有を図りました。



技術に親しむ会

自発的教育制度

|| 自己啓発通信研修

リンテックでは希望する社員に対し、年2回の通信研修を実施しています。この通信研修は自己啓発を目的とし、期間内の受講修了者には会社が費用の一部を補助する仕組みになっています。通信研修の内容は経営、ビジネススキル、パソコン技能、外国語、教養、各種資格取得などさまざまです。今後も自己啓発の一助として継続していきます。

自己啓発通信研修受講者数

年度	受講者数(人)	修了率(%)
2011	337	61
2012	276	59
2013	254	59

語学研修

リンテックでは、グローバルに活躍できる社員を育成するために、自発的学習のサポート制度として語学研修制度を導入しています。受講希望者は自薦を行い、所属長・本部長推薦のうえ選定会議により決定されます。2013年度は13人が研修を受講しました。研修時間は個人の語学レベルにより異なりますが、約100～150時間を掛けて目標レベルへの到達を目指します。

Voice 世界を意識し、対話力を習得

2013年度から語学研修で英語を学習しています。対話学習ではさまざまなシーンを想定し、間違っていて理解していた表現を是正したり、よく使う表現を学んだり、より自然な会話ができるようになりました。以前は英語を話すことにためらいがありましたが、研修によって苦手意識を払拭することができました。今後は身につけた対話力を生かし、国境を越えて活躍していきたいと思っています。



本社 経営企画室
飛留間 哲

従業員とのコミュニケーション

コミュニケーションマガジンの発行

リンテックグループとステークホルダーをつなぐ身近なツールとして、コミュニケーションマガジン「LINTEC」を日本語版・英語版・中国語（簡体字・繁体字）版で年4回発行し、グループ全従業員、お客様、お取引先、OB、マスコミ、官公庁などに配付しています。また、マディコ社やリンテック・コリア社でも、それぞれ独自の社内報を毎月PDF版で配信し、職場の円滑なコミュニケーションに役立てています。



コミュニケーションマガジン「LINTEC」



マディコ社「INSIDE THE FILM」



コミュニケーションマガジン
「LINTEC」英語版

リンテックでは新入社員研修で、一般社団法人グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワークの名取俊英事務局長に「国連グローバル・コンパクトとCSR」について講義をしていただきました。また、CSR勉強会を国内拠点と国内グループ会社で開催し、延べ1,065人が参加しました。



新入社員研修での講義



CSRレポートは日本語、英語、韓国語、中国語(繁体字、簡体字)、マレーシア語、インドネシア語、タイ語の7言語で発行

©Copyright Lintec Corporation. All rights reserved.

Linking your dreams **リンテック株式会社**

従業員とともに(安全防災)

リンテックグループで働く人々が、安全で安心して働けるよう安全意識の啓発・向上を含め、さまざまな取り組みを行っています。

労働安全

労働安全衛生方針

リンテックグループは、2010年に「リンテック労働安全衛生方針」を制定し、OSHMS（労働安全衛生マネジメントシステム）*に準拠して継続運用しています。

全社的な活動として安全相互監査計画や火災予防の着火事故予防パトロール計画を、工場での活動として年度安全衛生計画をそれぞれ策定し、OSHMSによるPDCAサイクルを回しています。また、工場で安全活動に従事しているメンバーと安全事務局メンバーによる安全検討委員会では、全社的な安全ルールを検討しています。2013年度には新設備の安全認定、安全柵・安全カバー、着火事故災害防止のルールなどを制定しました。

* OSHMS:Occupational Safety and Health Management System(労働安全衛生マネジメントシステム)の略称。事業所における安全衛生水準の向上を図ることを目的とした、事業者の自主的なマネジメントシステム。

- ▶ [リンテック労働安全衛生方針](#)
- ▶ [リンテック労働安全衛生マニュアルの概要](#)

年間安全衛生計画

リンテックグループでは安全衛生活動の年間計画を策定し、PDCAサイクルを回すことで安全衛生を管理しています。

2013年度は、安全相互監査・着火事故予防パトロール、トップパトロールを実施しました。また各工場においても工場トップ、管理職、労働組合メンバーによるパトロールや、従業員による自主パトロールなどを行いました。さらに、メーリングリストの範囲を拡大し、全事業所や役員にも安全衛生委員会の議事録を配信することで情報を共有しています。

年間安全衛生計画に含まれる項目

- 安全衛生委員会の開催
- パトロール計画
- 安全教育
- 訓練計画
- 測定予定
- 作業環境測定
- 健康診断
- 内部監査
- マネジメントレビューなど

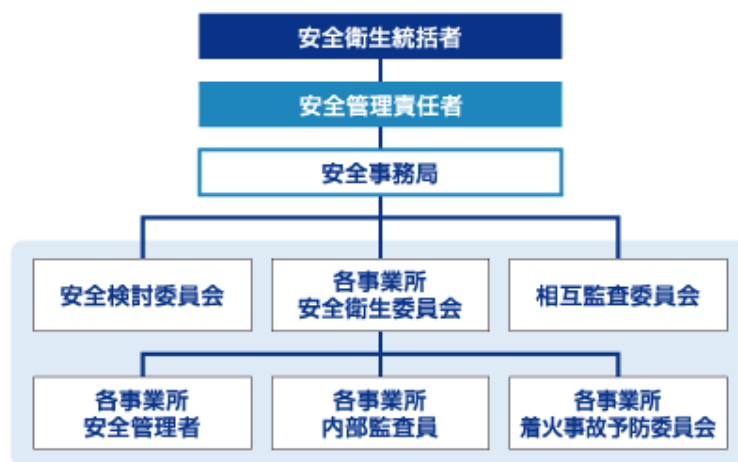
安全衛生委員会・衛生委員会

リンテックグループでは毎月、職場の安全と衛生に関して各委員会で協議しています。2013年度は災害速報や委員会議事録を配信する範囲を拡大し、グループ全体での安全管理を推進しました。

職場の安全と衛生に関する委員会

委員会	対象	活動内容
安全衛生委員会	工場・研究所	<ul style="list-style-type: none"> ■ 計画の実施 ■ 災害の発生状況、安全教育実施状況、設備の点検結果、パトロール時の指摘・改善状況などの情報共有
衛生委員会	本社や営業部門がある事業所	<ul style="list-style-type: none"> ■ 健康や安全運転、防災活動などについて協議

リンテック安全衛生マネジメントシステム組織図(本社・営業部門を除く)



休業災害

リンテックグループでは、2013年度の休業を伴う労働災害（休業災害）は4件発生し、休業日数は累計245日でした。2013年度は、勤続年数の短い作業員による休業災害が発生したため、安全教育を強化しました。また、製品ロールの取り扱いが原因の休業災害が2件発生しており、今後も安全ルールの明確化を進め、労働災害ゼロを目指して取り組んでいきます。

(海外グループ会社を除く)

休業災害の発生状況

年度	2011年度	2012年度	2013年度
休業災害発生件数(件)	2	6	4
休業日数(日)	31	361	245
発生場所	協力会社	リンテック、 協力会社	リンテック、 協力会社

リンテックグループでは、無災害に向けた表彰制度を設けています。龍野工場は、2014年1月27日に連続完全無災害時間*1 100万時間を達成しました。また、安全最優先、リスクアセスメントによる設備の安全化、TIP活動*2による5S*3の実践により全従業員の安全意識が高まり、2012年4月24日から約23か月間で、完全無災害を継続できました。これからも慢心せず、今までの活動をさらにレベルアップし、全従業員が団結して連続完全無災害時間の継続に努めていきます。

(海外グループ会社を除く)

*1 連続完全無災害時間：各事業所で常時働いているリンテックおよび協力会社の従業員を対象にした、労働災害（不休災害、休業災害、労災該当の通勤途上災害）がない労働時間の総累計。

*2 TIP活動：龍野イノベーション・プロジェクト活動の略称。2009年10月にスタートした、龍野工場における現場改革プロジェクト。

*3 5S：整理、整頓、清掃、清潔、しつけの頭文字の五つの「S」を取ったスローガン。職場環境の維持や改善に用いられる。



社内表彰を受ける新宮事業所の管理者

2012年4月24日～2014年3月31日
連続完全無災害を継続(龍野工場)

1,105,000 時間

2013年度 連続完全無災害達成時間の状況
(2013年4月1日～2014年3月31日)

達成年月		事業所	達成時間 (時間)
2013年	4月1日	千葉工場・新宮事業所・ 伊奈テクノロジーセンター	1年間無災害
	5月2日	研究所	100万
	5月28日	新宮事業所	100万
	6月8日	三島工場	75万
	6月18日	伊奈テクノロジーセンター	100万
	7月23日	千葉工場	75万
	8月2日	吾妻工場	50万
	8月23日	龍野工場	75万
	10月30日	研究所	125万
2014年	12月2日	吾妻工場	75万
	1月27日	龍野工場	100万

定期安全協議会の開催(熊谷工場)

熊谷工場では構内工事における工事協力会社の災害防止を目的に、年3回の定期安全協議会を開催しています。工事都度での安全に関する事前打ち合わせとともに、これらを補うため4、7、12月に社内外から100人ほどの参加者と(1)安全作業ルールの徹底、(2)他社災害情報の共有、(3)現場の不安全情報など、安全に関する幅広い意見交換を行う場を設け、ルールや管理形態の周知と見直し、現場の改善などにつなげる活動を行っています。参加くださった全ての会社には安全誓約書を提出していただき、構内作業における安全作業の徹底をお願いしています。



熊谷工場での安全協議会

2013年度 工事に関する安全協議会

事業所名	実施日	実施内容	参加者数 (人)
熊谷工場	年3回	安全教育	181
小松島工場	年12回		180
三島工場・土居加工工場	年2回		51
新宮事業所	年1回		41
計			453

各生産拠点でトップパトロールを実施

“安全最優先”を合い言葉に、大内会長（前社長）が国内外の生産拠点・研究所のトップパトロールを行いました。大内会長は製造現場で作業する従業員へ声を掛けながら、安全作業の励行や整理整頓などの5Sの状況を視察しました。各拠点では、このトップパトロールでの結果を基に、現場管理レベルのさらなる向上を図るためのさまざまな改善策を実施しました。

Voice 知識と実地の両訓練で備える

リンテック・タイランド社では消防総合訓練を年1回実施しており、2013年度は11月15日に行いました。午前中は火災に関するセミナーを受講し、出火原因別の消火方法を勉強しました。午後は火災避難訓練として、消火器や消火ホースを使っての実地訓練や避難訓練を行いました。避難完了までの目標時間は5分以内。担架に人を乗せた病院搬送の訓練も行いました。また、避難訓練も年4回実施しています。



リンテック・タイランド社
安全課 担当係長
Zeeroh Madsa-i
(シーロー・マッサイ)

BCMS（事業継続マネジメントシステム）における防災・減災対策では、人命最優先としたリスクアセスメントを実施しています。リンテックでは全ての拠点において災害別の危険を特定し、分析・評価を実施。防災対策が不十分な場合は、拠点ごとに対策を立案し実行することをBCMSのルールに定めています。また、これらの災害対策は演習を行うことで、対策の具体性・実効性を高めています。

▶ 特集1に詳細を記載



本社でのけが人移送の演習

防災訓練

リンテックでは、BCMS演習として各拠点でさまざまな訓練を実施するとともに、事業継続に関する手順書の見直しや災害用備蓄品の準備を進め、リスクの低減に努めています。

2013年10月16日には「全国的な震度6弱の地震発生」を想定し、国内全24拠点の従業員、並びに協力会社従業員（計約3,600人）が参加し、安否確認訓練を実施しました。今後も年に複数回の訓練を実施する予定です。



本社の災害用備蓄品

2013年度 防災訓練

事業所名	実施日	実施内容	参加者数 (人)
熊谷工場	年4回	避難訓練・ 消火訓練等	514
小松島工場	年6回		182
三島工場・土居加工工場	年3回		311
東京リンテック加工(株)	年2回		160
吾妻工場	年2回		400
研究所	年2回		307
新居浜加工所	年3回		43
伊奈テクノロジーセンター	年1回		139
龍野工場	年8回		1,549
千葉工場	年13回		302
新宮事業所	年12回		470
計			4,377

リンテック・コリア社は、2013年4月22日に有害化学物質漏出事故への対処と消防訓練を実施しました。リンテック・コリア社では特定有害化学物質を取り扱っていません。しかし、国家的に問題化されている有害化学物質の漏出事故が起きた際に、迅速かつ的確に対応し、人命および環境被害を最小限にとどめることが重要です。そして、そのためには現場隊員の安全な対処と、それらを取りまとめる体制の構築が必要です。当日は、官公庁の協力を得て大規模な模擬溶剤流出事故への対応訓練を実施しました。今後も、緊急時に向けた訓練とともに、事故そのものが起こさないための安全管理を徹底していきます。



有害化学物質漏出事故対処合同消防訓練

Voice 救命に向けた訓練の実施

仙台支店では2014年2月、事業継続マニュアルと手順書を基に、各自の役割や必要な力量確認のため、心肺蘇生とAED*使用の演習を実施しました。支店勤務者全員が訓練に参加し、救命に必要とされる迅速な心肺蘇生・AEDの使用を体験しました。当支店は3年前に東日本大震災を経験していることもあり、全員が人命最優先を実感しています。今後も改善を重ね、継続的に演習を行っていきます。

* AED：Automated External Defibrillator（自動体外式除細動器）の略称。心室細動状態に陥った心臓に電気ショックを与えて正常な状態に戻す医療機器。



仙台支店 副支店長
熊谷 正幸

地域社会とともに

リンテックグループは、地域や社会に支えられ、その一部であることを認識し、社会との共生を図るためのさまざまな貢献活動を行っています。

リンテックグループの社会貢献活動

リンテックグループでは、さまざまな地域や社会への貢献活動を行っており、国内では主に以下のような活動を実施しています。このページでは、その一部をピックアップして紹介します。

■ リンテックグループ全体での活動

東日本大震災復興ボランティア／植林ボランティア／団体献血／美化清掃活動／ペットボトルのキャップ・使用済切手の回収／日本赤十字への寄附、赤い羽根募金、緑の羽募金

■ 次世代育成

第8回夏休み紙工作コンテスト／くらりか協賛

■ スポーツ振興

東吾妻スポーツフェスティバル／小富士スポーツ少年団野球部全国大会寄附／愛媛県立三島高等学校ラグビー部全国大会出場寄附

■ 地域安全活動

暴追連暴対セミナー／AED*1の講習会／小学校通学マップにて「こどもあんぜん協力の家」として登録

■ 障がい者支援

ふれあいコンサート／蕨市 健康福祉部 総合福祉センターの「スマイラ松原」*2によるパン販売／四国中央市障害児教育支援チャリティーゴルフ大会への協賛／板橋区障がい者スポーツ大会へサンバイザー提供／東京ドーム野球観戦ご招待／教育機関へのベルマーク運動の参加および障がい者支援活動

■ 地域の祭事などへの協賛・支援

東吾妻ふるさと祭／原町祇園祭／宇佐八幡宮神社／浅間神社春季大祭／浅間神社／金井一宮神社春季大祭／金井一宮神社／熊谷うちわ祭／熊谷花火大会／龍野納涼花火大会／3地区子供会六條八幡神社神輿／六條八幡神社安全祈願祭／たつの市新宮町納涼ふれあいまつり&花火大会／たつの市神岡町小那田自治会納涼祭／たつの市神岡町神岡スポーツ振興会ふるさとコンペ／土居町釣り大会／龍野神社／小宅神社／疎水感謝祭／伊予三島秋祭／三島町民運動／天神祭花火大会／三島公園桜まつり／水波神社崇敬会／四国中央市土居夏まつり 花火大会／四国中央市湖水まつり／四国中央市みなと祭／三島神社安全祈願祭／一宮神社安全祈願祭／三島太鼓祭り／土居太鼓祭り／榎神社奉納金／大塚神社奉納金／春日神社奉納金／興願寺／朝日文化会館忘れ演芸大会／そうさチューリップ祭り／伊奈まつり／第4回伊奈町B級グルメ王決定戦／わらび機まつり／中仙道蕨宿宿場まつり／和楽備神社／阿波踊り

■ 製品の寄贈

保育園・小学校など18校へ紙製品を寄附／東吾妻町・中之条町に製品を寄附／公益財団法人兵庫青少年本部残紙を寄附

*1 AED：Automated External Defibrillator(自動体外式除細動器)の略称。心室細動状態に陥った心臓に電気ショックを与えて正常な状態に戻す医療機器。

*2 スマイル松原：蕨市 健康福祉部 総合福祉センターの知的障がい者通所授産施設で、雇用されることが困難な知的障がい者に対し、必要な訓練を行い、職業を紹介する施設。

社会貢献活動

継続的被災地支援

リンテックグループでは、東日本大震災からの復興に向けた継続的支援活動として義援金の寄附を行ってきました。2012年度からは一般社団法人グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワーク主催の、被災沿岸部の防潮林再生を目指す「わたりグリーンベルトプロジェクト」に参加しており、2013年度は4回で計10人の従業員が現地での支援活動を行いました。また本社では福島物産展を開き、福島の経済活動を応援しました。今後もさまざまな形で復興支援活動を継続してまいります。



「わたりグリーンベルトプロジェクト」の
苗木づくり



福島物産展

団体献血

リンテックグループでは、日本赤十字社の献血事業への協力として全国各地の事業所において団体献血を行っています。献血は、身近でできる社会貢献活動の一つとして従業員にも定着しており、今後も継続して実施してまいります。



本社での団体献血

2013年度 献血実績

事業所名	実施回数(回)	参加者数(人)
三島工場	2	52
小松島工場	2	21
龍野工場・新宮事業所	2	41
研究所	2	94
千葉工場	2	37
東京リンテック加工	2	15
熊谷工場	2	63
吾妻工場	2	86
伊奈テクノロジーセンター	2	55
大阪支店	2	20
飯田橋オフィス	1	62
本社	2	65
計	23	611

Voice オランダでの社会貢献活動

オランダのアムステルダム近郊には8万人以上の家族や友人のいないお年寄りが住み、祝日やクリスマスも一人で過ごしています。財団法人Enma Foundationは彼らの自宅を訪問し話し相手となり、買い物に付き添い、イベントを開催し、特別な日に花を贈るなどの奉仕活動を行っています。リンテック・ヨーロッパ社では地域社会貢献として、毎年スポンサーとなり寄付を行い、活動を支援しています。



リンテック・ヨーロッパ社
ゼネラルマネージャー
草刈 一浩

II 美化清掃活動

リンテックグループでは、全ての工場で周辺地域の美化・清掃活動を継続的に実施しています。千葉工場では「ごみゼロ運動」として工場のあるみどり平工業団地周辺で、熊谷工場では「荒川河川敷の清掃」として工場周辺の荒川土手で、小松島工場では「リフレッシュ瀬戸内」として横須海岸で、その他の事業所では事業所周辺の清掃活動を行っており、2013年度は国内全事業所で延べ2,499人が参加しました。



千葉工場での清掃活動

地域の美化清掃活動への参加者 延べ

2,668人

2013年度 美化・清掃活動

事業所名	実施日	実施内容	参加者数(人)
吾妻工場	月2回	工場近隣ゴミ拾い	96
熊谷工場	2013年6月6日	荒川土手清掃	150
	2013年11月10日	荒川クリーンエイド	36
研究所	月1回	研究所周辺公道ゴミ拾い	130
東京リンテック加工	年24回	敷地内外清掃	504
	年3回	駐車場、工場外回り草刈り	30
千葉工場	2013年5月24日	みどり平工業団地ゴミゼロ運動	6
	2013年7月13日	蓮沼海岸ゴミ拾い	38
	2013年8月20日	吉崎浜草刈り	3
	2014年3月19日	吉崎浜捕植	3
龍野工場	月1回	工場周辺清掃	780
	2013年5月	工場周辺溝清掃	20
新宮事業所	年24回	事業場周辺清掃	578
	2013年5月16日	工場周辺溝清掃(龍野事務所)	22
三島工場	2013年5月19日	立石地区排水路掃除	2
	2013年5月26日	土居工場周辺土手の草刈り	15
	2013年7月14日	寒川豊岡海浜公園ビーチ清掃	3
	2014年3月17日	三島工場周辺の公道ゴミ拾い	40

小松島工場	2013年4月22日	豊かな海クリーンアップ作戦	39
	2013年5月30日	工場前道路清掃	38
	2013年6月8日	リフレッシュ瀬戸内(海浜清掃活動)	37
	2013年10月3日	工場前道路清掃	44
	2014年3月28日	工場前道路清掃	37
伊奈テクノロジーセンター	2013年4月9日	隣接駐車場清掃	6
	2013年5月14日	事業所周辺歩道・隣接駐車場清掃	5
	2013年10月11日	事業所周辺歩道・隣接駐車場清掃	6
計			2,668

※ 地域の美化清掃活動への参加者 延べ人数は、再算出の結果2,688人となりました。

植樹活動

千葉工場では、東日本大震災の発生による津波被害を受けた千葉県九十九里陸の海外保安林を再生するための活動「海岸林復興植樹祭in吉崎浜」に参加しました。4月24日に行われた植樹際には、地元匝瑳市民の皆さんや企業、団体、森林林業関係者など、多方面からの参加者があり、クロマツなど2,220本を植樹しました。



千葉工場の植樹活動

地域安全活動

熊谷工場は長年にわたり熊谷地方職場警察連絡協議会に加入し、現在は副会長企業として会の運営に携わっています。協議会では、企業と警察の連絡を密にすることで、防犯、交通安全対策、青少年の非行防止に努めています。今後も地域安全・暴力排除推進に積極的に取り組んでいきます。

障がい者支援

2013年9月、東京ドームで行われたプロ野球「北海道日本ハムファイターズ対福岡ソフトバンクホークス」の試合に、板橋区在住の障がい者の方とその介助者計107人をご招待しました。本活動は今回で7回目を迎え、観戦後には「ありがとう、楽しかった」「来年もこの催しにぜひ参加したい」など、多くの感謝の言葉と笑顔を頂きました。今後も地域の皆様に喜んでいただける社会貢献活動を継続していきます。

▶ 特集2詳細を記載

|| 地域の祭事への協賛

熊谷工場がある熊谷市では、毎年7月20日から22日に「熊谷うちわ祭」が開催されています。「熊谷うちわ祭」は3日間で70万人以上の人を訪れ、関東一の祇園祭と称されるほどにぎやかなお祭りです。熊谷工場では、八坂神社にうちわを奉納する形でお祭りに協賛し、奉納されたうちわ祭に来られた見物客の皆さんに配られています。



奉納したうちわ

|| 地域の祭事への参加

小松島工場では、8月12日に徳島県で開催された「阿波踊り」に80人が参加しました。「阿波踊り」は約400年の歴史を持ち、数十人の“連”とよばれる組をつくり、三味線、笛、かね、太鼓のおはやしに合わせて町を練り歩く夏の祭りです。小松島工場では、毎年工場内で有志を募り“リンテック連”として参加し、祭りを盛り上げています。



小松島工場の阿波踊り参加

|| リンテック・インドネシア社での社会貢献活動

リンテック・インドネシア社では、事務用古紙と廃棄木材の再生利用団体「ボゴール・クリエイティブ」と協働し、資源の再生利用および近隣の青少年の育成に協力しています。

「ボゴール・クリエイティブ」は、孤児や経済的理由などで就学が困難な青少年に対し、廃棄物を利用した手工芸品の作成を通じてスキルの養成を行っているNPO団体です。当社では事務所で回収した古紙や製造部での廃棄木材を、工芸品の材料として同団体に提供しています。完成品（筆箱、ティッシュケース、ファイルボックス、コースター、額縁、キーホルダーなど）の売り上げは同団体の活動資金となっています。

今後もこのような資源再生利用活動や地域社会への社会貢献活動を継続して行なっていきます。



回収した事務用古紙や廃棄木材



古紙、廃棄木材で手工芸品を作成



完成品の一例

社会貢献活動


|| 「みどりのカーテン」で節電

2013年も熊谷工場では暑い夏を涼しく過ごせ、節電効果があり環境にも優しいみどりのカーテンを設置しました。今年は、昨年までのゴーヤに代わり朝顔を用いて行いました。ゴーヤ同様、蒸散作用による温度低下と、建物への直射日光を遮ることによる室温低下の効果がありました。

|| 次世代育成

独自技術で新製品を開発するリンテックにとって、次世代の育成は重要なテーマです。リンテックでは、未来を担う世代の育成と子供たちの理科離れ防止のために活動をしている(社)蔵前工業会の蔵前理科教室ふしぎ不思議(略称：くらりか)の寺子屋式理科教室に協賛しています。「くらりか」は、全国の児童館や地域のコミュニティセンターなどで出前授業を行っており、2013年度は年間387教室で開催し、参加生徒数は累計で12,000人を超えました。そのうち、リンテックからの協賛によって、2013年度は、東京都、神奈川県、埼玉県、静岡県、兵庫県、島根県の6地域15教室の工作・実験用教材の購入に使用されました。今後も引き続き、「くらりか」への協賛と協力を通じて、子供たちの科学に対する豊かな感性を醸成していきます。

「くらりか」のウェブサイトでも、リンテックの活動が紹介されています。

[▶ 「くらりか」ウェブサイト](#) 

地域社会とのコミュニケーション

|| 工場・施設見学の受け入れ

リンテックグループでは、毎年多くの学生、自治体、NPO、地域住民などの工場・施設見学を受け入れています。小学生の社会科見学や環境学習のほか、高校生や大学生を対象に企業説明会なども開催しています。2013年度は5事業所に合計863人が見学に訪れました。

(海外グループ会社を除く)



熊谷工場での見学受け入れ

2013年度 工場・施設での受け入れ

事業所名	実施日	実施内容	参加者数(人)
三島工場	2014年3月11日	紙産業センター職員	5
土居加工工場	2013年11月4日	三島地区民生員	18
	2014年3月14日	龍野異業種交流会	9
東京リントック加工	2013年10月31日	蕨市立中央小学校	56
	2013年11月15日	蕨市立中央東小学校	62
	2013年11月25日	蕨市立南小学校	89
	2013年11月28日	蕨市立北小学校	75
	2013年12月3日	蕨市立西小学校	67
熊谷工場	2013年10月3日	吉岡小学校	50
	2013年10月25日	熊谷東小学校	91
	2013年11月6日	板橋産業連合会	20
	2013年11月26日	大幡小学校	104
	2013年11月27日	桜木小学校	30
	2013年12月18日	鳩山高等学校	51
	2014年2月7日	熊谷商業高等学校	50
吾妻工場	2013年6月11日	吾妻行政事務局	3
	2013年10月22日	原町小学校3年生	41
	2013年11月26日	坂上小学校3年生	14
	2014年1月28日	岩島小学校3年生	18
計			853

千葉県海岸保安林の再生に向けた活動

リントックグループでは地域住民の声を聴くさまざまな活動を行っています。千葉工場では地域の期待に応え、東日本大震災で津波被害を受けた千葉県東部海岸保安林復興再生に向けて、千葉県緑化推進委員会と一丸となり保全活動を展開しています。2013年4月には2,200本の苗木を植栽し、その後も下刈り作業や捕植作業*1へ参加しました。今後も地域の声に耳を傾けて活動していきます。

* 捕植作業：植栽した際、枯れてしまい間隔が空いてしまった場所への植栽。



吉崎浜での下刈り

株主とともに

株主・投資家とのコミュニケーション

積極的なIR*活動を展開

リンテックでは、適正株価の形成と企業価値の向上を目指し、さまざまなIR活動を実施しています。国内の機関投資家・証券アナリストに対しては、四半期ごとにIRミーティングや取材対応を行い、海外機関投資家に対しては、電話会議や証券会社主催の国内IRイベントへの参加に加え、継続的な海外投資家訪問を行い、当社への理解促進を図っています。また、個人投資家・株主の方への情報提供については、当社IRサイトの充実に努めるとともに、株主通信誌「WAVE」を四半期ごとに発行しています。同誌では毎年、読者アンケートを実施しており、寄せられた声を誌面の企画やIR活動に生かしています。

* IR：Investor Relations(投資家向け広報)の略称。企業が株主や投資家に向けて、経営や財務、業績などの企業情報を提供する活動。



▶ <http://www.lintec.co.jp/ir/> 

機関投資家、アナリストによる工場の見学(リンテック・コリア社)

リンテック・コリア社ではIR活動の一環として、日本の機関投資家や証券アナリストによる工場見学を行いました。当日は防じん服に着替えていただき、クリーンルームでのフィルム粘着塗工機や断裁機などを御覧いただきました。今後も現場改革に努め、多くの方にリンテックグループの技術力を伝えていきます。



クリーンルーム内でフィルム粘着塗工機を見学

コミュニケーション

社会からの期待を知るためには、ステークホルダーとの継続的なコミュニケーションは必要不可欠です。リンテックグループは、情報発信とともに、ステークホルダーのかたがたとの対話を図っています。

お客様とのコミュニケーション

お客様に対し、製品やサービス、営業活動、説明書やMSDS、お問い合わせ窓口、ウェブや展示会など、さまざまなコミュニケーションの機会があります。これらのコミュニケーションにより、製品・サービスを改善し、信頼関係の構築とお客様満足の向上を目指します。

- ▶ 国内外の展示会に出展

お取引先とのコミュニケーション

お取引先に対し、購買活動や説明会、アンケートなど、さまざまなコミュニケーション機会があります。これらのコミュニケーションにより、校正な取引と相互理解、法令遵守の徹底、信頼関係の構築を目指します。

- ▶ 飯田橋オフィスの提供

従業員とのコミュニケーション

従業員に対し、事業活動や教育制度、説明会や懇親会、イントラネットや社内報など、さまざまなコミュニケーション機会があります。これらのコミュニケーションにより、全従業員が社是のもと、やりがいを持って働ける職場になることを目指します。

- ▶ コミュニケーションマガジンの発行/CSRコミュニケーション

地域社会とのコミュニケーション

地域社会に対し、工場・施設の見学や地元自治体との意見交換会、社会貢献活動、ウェブサイトや会社案内など、さまざまなコミュニケーション機会があります。これらのコミュニケーションにより、地域の方々との相互理解と、地域社会への還元を目指します。

- ▶ 工場・施設見学の受け入れ
- ▶ 千葉県海岸保安林の再生に向けた活動

株主・投資家とのコミュニケーション

株主・投資家に対し、株主総会や投資家説明会、ウェブサイトや株主通信、アニュアルレポート、決算短信、有価証券報告書など、さまざまなコミュニケーションの機会があります。これらのコミュニケーションにより、企業価値の向上と信頼関係の構築を目指します。

▶ 積極的なIR活動を展開

マスメディアとのコミュニケーション

マスメディア、ひいては社会に対し、取材・原稿執筆依頼への対応、アンケート回答、ウェブサイトやニュースリリースなどさまざまなコミュニケーション機会があります。これらのコミュニケーションにより、社会へ誠実に情報を開示し、信頼関係の構築を目指します。

|| テレビ朝日の取材への対応

リンテックでは、テレビ朝日系列の紀行・情報番組「若大将のゆうゆう散歩」からの取材を受けました。まずは正門脇の路面の歩行者通路標識として使用している粘着シートを紹介し、続いてショールームでリンテックグループのさまざまな製品について説明をしました。リンテックグループは今後も、社会が知りたいと求める情報を提供していきます。



本社での取材対応

|| 取材に対しての受け入れ

リンテックでは、新製品情報やイベント情報などを随時、各メディアにニュースリリースとして発信しているほか、取材や原稿執筆の依頼にも積極的に対応しています。2013年度はニュースリリースが約20件、取材対応・原稿執筆は約80件でした。

吾妻工場

- 吾妻危険物安全協会「優良危険物関係従事者表彰」

熊谷工場

- 埼玉県警察本部・埼玉県安全運転管理者協会「安全運転管理事業所表彰」
- 熊谷職警連協議会「優良勤労者表彰」
- 熊谷市消防本部「第24回自衛消防隊初期消火訓練指導会敢闘賞」
- 熊谷地区労働基準協会「優良従業員表彰」

伊奈テクノロジーセンター

- 上尾地区安全運転管理者協会「優良運転者」

研究所

- 署長・会長連盟表彰「優良安全運転管理事業所」
- 厚生労働大臣「献血に対して感謝状授与」

龍野工場

- たつの防火協会「たつの市自衛消防競技会」消火栓の部：優勝
- 兵庫県トラック協会「チャレンジ100運動」生産管理課チーム、リンテックサービスチーム

飯田橋オフィス

- Texas Instruments Incorporated「Supplier Excellence Award 2013」
- IR/USA「Capital Equipment Partner of the year」
- パナソニック株式会社AIS社 キャパシタ事業部「感謝状授与」

リンテックサインシステム株式会社

- 株式会社セイコーアイ・インフォテック「Color Painter Reseller Award 2013 優秀賞」

プリンテック株式会社

- 日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社「2013年度 建築施設ユニット部門 協力会社最優秀賞」

リンテック・シンガポール社

- United Test and Assembly Center Ltd「2013 Site Award UTAC (USG)」

リンテック・オブ・アメリカ社

- Intel/Mr. Jake Heller Commodity Manager ATCED - Die Prep「2013 SUPPLIER RECOGNITION AWARD」



「2013年度 建築施設ユニット部門 協力会社最優秀賞」受賞



「たつの市自衛消防競技会」消火栓の部優勝



競技会での的確な放水

環境マネジメント

リンテックグループは、国際標準規格であるISO14001に基づいた環境マネジメントシステムを構築しています。「地球は一つ、大きな視野で快適環境に尽力しよう」をスローガンに、さまざまな取り組みを推進しています。

リンテックグループ品質・環境・事業継続方針

リンテックグループは、従来の「リンテックグループ品質・環境方針」に"事業継続方針"を加えた、「リンテックグループ品質・環境・事業継続方針」を新たに制定しました。この方針に基づき、環境分野ではエネルギー使用量・CO₂排出量に数値目標を設けるなど、より目標を明確にした環境保全活動を推進しています。

▶ リンテックグループ品質・環境・事業継続方針

環境分野におけるリンテック中期目標（2014年～2016年）

CO ₂ 排出量	対前年度原単位比で1.6%改善
電力使用量	対前年度原単位比で0.2%改善
廃棄物発生量	前年度発生量から0.1%削減
用水使用量	対前年度原単位比で2%削減

環境マネジメントシステム統合認証

リンテックグループでは、ISO14001のグローバル統合認証*取得を進めています。2013年9月にリンテック・インダストリーズ（サラワク）社を、2014年3月にはリンテック・アドバンスド・テクノロジーズ（台湾）社を統合し、海外グループ9社の統合を完了しました。これにより本社、国内10工場、研究所および東京リンテック加工（株）と合わせて22拠点になりました。引き続き、グループ一体となった環境保全活動に尽力し、ISO14001のグローバル統合認証取得を進めていきます。

* グローバル統合認証：世界中にある複数の会社・事業所を一つの組織体としてまとめて取得する、ISO14001の認証。

内部環境監査の実施

リンテックでは、環境マネジメントシステムに基づいた各サイトの適切な運用および法令・規定の遵守状況などを確認するため、サイト内部監査およびサイト相互監査を実施しています。さらに、サイト相互監査を担当する主任監査員*養成にも力を入れており、2013年度は16人を養成し、累計164人となりました。

* 主任監査員：サイト相互監査実施の資格を持つ者。

サイト相互監査担当の
主任監査員人数

164人

全リンテックグループでは数多くの環境関連法令を遵守しています。海外および国内各サイトでは、環境管理部門が各自自治体の条例を含めた法令にかかわる改定状況の監視や、サイト内の法令遵守状況を確認しています。法令遵守の確認作業は、環境マネジメントシステムに取り込み、定期的実施しています。なお、2011年度から2013年度までの過去3年間において、重大な違反はありませんでした。

生物多様性保全のための取り組み

近年、自然環境などの破壊により生態系が失われているため、生物多様性に対する危機感が高まっています。リンテックグループでは、リンテックグループ品質・環境・事業継続方針に"生物多様性の保全"を盛り込み、ISO14001のグローバル統合認証を取得した22拠点を中心に、2013年度から生物多様性保全に向けた活動を推進しています。今後も講習会の開催をはじめ、さまざまな活動を継続し、生物多様性保全に努めていきます。



「リンテックエコニュース」で生物多様性の情報を発信

Voice 地域に根ざした生物多様性保全活動

新宮事業所では、地域の生物多様性保全に向けて、河川や田んぼを含む事業所周辺の清掃活動を毎月1回行っています。また2013年5月には、「氷上回廊より見つめなおす、気候変動と生物多様性、暮らし方」と題した講習会を実施しました。さらに、兵庫県たつの市のNPO法人「たつの・赤トンボを増やそう会」主催のヤゴを育てる田んぼに田植え（5月）、収穫祭（9月）にも参加しています。今後も、地域に根ざした生物多様性保全活動を積極的に展開していきます。



新宮事業所 製造部 副部長
塩谷 哲男

環境対応製品の開発

リンテックグループは、ものづくりを担う企業の責任として、環境負荷低減を指向した製品の開発に力を注いでいます。また、設計段階からLCA*を参考に資源採取・原材料調達から製造過程、廃棄までを含めた環境負荷低減に努めています。

* LCA：Life Cycle Assessmentの略称。製品のライフサイクル全体を通じて投入されるエネルギーや水、原材料の量や排出されるCO₂、有害化学物質などを算出し、環境への影響を総合的に評価する手法。

環境配慮型製品のガイドライン策定と運用

リンテックでは、環境配慮型の新規製品開発において、2010年2月にLCA*を考慮した環境配慮型製品のガイドラインを策定し、2013年度は、14件（目標8件）の開発を行いました。また、2013年9月には、ISO14021*に準拠した自己宣言環境配慮型製品のガイドラインも策定しました。今後もこれらのガイドラインを運用し、環境配慮型製品の開発を推進していきます。

* ISO14021：「環境ラベルおよび宣言－自己宣言による環境主張（タイプII環境ラベリング）」のための国際標準規格。企業自らが基準を設け、これを満たすことでラベルを付与することができる。

環境負荷低減に役立つ製品の開発

リンテックグループでは、環境・エネルギー分野を製品開発重点テーマの一つに位置づけています。主な製品として、高い断熱性で節電・省エネルギーに貢献するウインドーフィルムや、プラスチック成形品と同質同素材を使用し、リサイクル・リユースの促進に貢献するラベル素材などがあります。今後も環境負荷低減と省エネルギーに役立つ製品の開発に力を注ぐとともに、設計プロセスにおける環境負荷低減を継続していきます。

空調効率を高める新製品「ウインコス レフテルZC05G NX/ZC06T NX」

リンテックは、節電・省エネルギー効果やガラス飛散防止効果を備えた建物用ウインドーフィルム「ウインコス」を製造・販売しています。2013年2月には、同シリーズの新製品「ウインコス レフテルZC05G NX/ZC06T NX」をラインアップしました。この製品を窓ガラスに貼ることで、日射の熱エネルギーや室内の暖房熱を反射し、通年で優れた日射調整効果を実現します。また、紫外線を99%カットし、ガラス飛散防止対策の効果も兼ね備えています。



「ウインコス レフテル
ZC05GNX/ZC06T NX」の施工例

環境配慮型粘着剤を採用したラベル素材

化粧品やボトル容器に使用されるラベルは、そのほとんどに強粘着タイプの粘着剤が使用されており、きれいにはがしにくいという課題がありました。これを解決するため、リンテックでは、きれいにはがせるラベル素材の新ブランド「REPOP」シリーズを2012年6月に立ち上げました。ラベル素材に強粘再剥離タイプの新規粘着剤を採用しています。これは使用時には高い粘着性を持ちつつも、きれいにはがすことができ、プラスチック容器のリユースやリサイクルに対応した製品となっています。また、粘着剤には有機溶剤を使用しない水系エマルジョン*型を採用しているため、製造する際の環境負荷物質の低減に貢献しています。



のり残りが少なく、きれいにはがせる粘着剤を採用

* エマルジョン：乳濁液や乳剤ともいわれる。水と油のような混ざり合わない液体について、一方が粒状になって他の液体の中に分散した状態。

©Copyright Lintec Corporation. All rights reserved.

Linking your dreams リンテック株式会社

地球温暖化防止

事業活動を継続するうえで大きなリスクとなる地球温暖化や気候変動などに対応するため、さまざまな環境活動に力を注いでいます。

製造における取り組み

省エネルギー法への対応状況

国内リンテックグループ*全体のエネルギー使用量は、原油換算で年間1,500klを超えています。そのため「エネルギーの使用の合理化に関する法律（略称：省エネルギー法）」の規程に基づき、特定事業者の指定を受け、エネルギー原単位を年1%改善することが求められています。2013年度は、生産設備の効率運転、空調管理やLED照明採用の拡大、圧縮空気の管理、排熱回収利用などの省エネルギー活動を推進し、電力削減に努めました。

* 国内リンテックグループ：リンテック(株)およびリンテック(株)の営業拠点、東京リンテック加工(株)、大阪リンテック加工(株)、プリンテック(株)、リンテックサービス(株)、リンテックコマース(株)、(株)レンリ。

省エネルギー推進委員会

「省エネルギー法」に対応するため、国内リンテックグループでは、省エネルギー推進委員の管理の下、各事業所のエネルギー使用データを毎月集計し、省エネルギー活動の推進に反映しています。2013年度は、委員会で「夏場の電力量の低減」や「燃料使用量の削減」などを討議し、各事業所にフィードバックすることで、省エネルギー活動の改善へ向けた取り組みを全社的に推進しました。

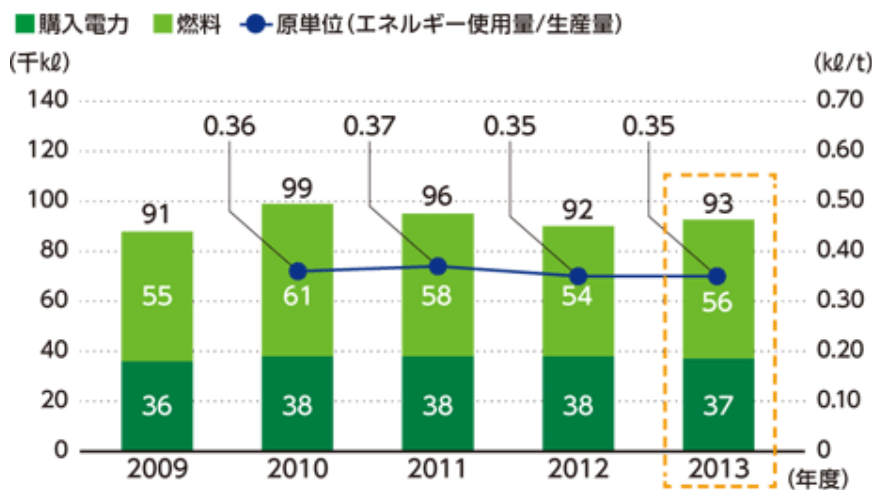
エネルギー総使用量・CO₂排出量

国内リンテックグループにおける2013年度のエネルギー総使用量（原油換算）は、生産量の増加により前年度から1.2%増加し、92.8千klとなりました。しかし、エネルギー原単位は0.0057kl/（t 1.65%）減少し、0.3454kl/tに改善しました。

一方、2013年度のCO₂排出量は202.7千tとなり、目標排出量209千t以下を達成しました。

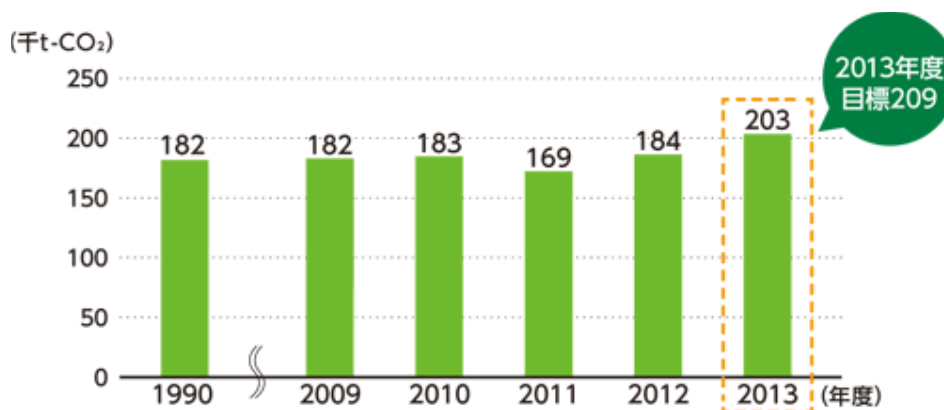
2014年度は、2013年度原単位比で、CO₂排出量は1.6%、電力使用量は0.2%の改善を目指しています。

エネルギー総使用量(原油換算)



※ 燃料とは、灯油、A重油、LNG、LPG、都市ガスです。

CO₂排出量



※1 CO₂排出量は、電力・燃料使用量におおのこのCO₂排出係数を乗じて算出しています。

※2 1990年度のCO₂排出係数は、地球温暖化対策の推進に関する法律施行令第3条第1項で定める排出係数の2002年12月改正値を使用しています。2009年度以降のCO₂排出係数は、同施行令で定める排出係数の2010年3月改正値を使用しています。また、購入電力の使用にかかる排出係数には、当該施設に電力を供給している電力会社の実排出係数を使用しています。

※3 上記排出量は、化石エネルギー起源の燃料によるCO₂排出量です。

太陽光発電

リンテックでは、太陽光発電システムを本格導入しています。2013年1月から、土居加工工場全工棟の屋根に設置した出力約1,000kWの太陽光発電システムが稼働しました。2013年3月には、吾妻工場にも出力約500kWの太陽光発電システムを設置、稼働しています。これは、両工場合合わせ、CO₂削減量換算で年間約500t-CO₂/年に該当します。



土居加工工場に設置された太陽光パネル
(約10,000m²)



吾妻工場に設置された太陽光パネル
(約5,000m²)

|| CO₂排出量削減の取り組み／LNGへの燃料転換

リンテックは、2006年度から2010年度までの5年間で、従来は重油・灯油を燃焼して蒸気を発生させていたボイラ設備の燃料を、CO₂排出量がより少ない都市ガスやLNG(液化天然ガス)への転換を進めてきました。2011年1月に実施した吾妻工場の第2期燃料転換工事完了をもって、リンテックの国内工場におけるボイラ設備燃料転換は完了しました。今後は、排熱の有効利用やボイラの効率運転などの省エネルギー活動を通じてCO₂排出量の削減に取り組んでいきます。



三島工場のLNGサテライト設備

|| 排熱ボイラー設置によるエネルギーの有効活用

土居加工工場と小松島工場では、VOC（揮発性有機化合物）を処理するための排ガス処理装置（RTO式）に、排熱ボイラーを設置して蒸気の回収を行い、CO₂排出量の削減につなげています。2013年9月に千葉工場、12月に新宮事業所に同様の設備を導入し、さらなるCO₂排出量の削減に取り組んでいます。



千葉工場に設置した排熱ボイラー

|| 照明用電力の削減／琳得科(蘇州)科技有限公司

琳得科(蘇州)科技有限公司では、既設の天井高のある部屋については高圧ナトリウムランプを採用していましたが、省エネルギーと照度安定化および発火防止を考慮し、LED照明への更新を実施しました。また、増設部である第2工棟倉庫部分においては、建設当初からLED照明を採用しました。



LED照明化した場内

Voice 年度目標達成に向けたCO₂削減活動

埼玉県では行政への年度ごとのCO₂排出量の報告に対して第三者認証が求められており、リンテックグループでは熊谷工場と研究所が認証の対象になっています。2013年11月には、両事業所の基準年(設定済みの3か年)の排出量について認証機関による審査を受け、排出量が確定しました。CO₂削減の年度目標も設定し、その達成に向けてCO₂削減活動を継続していきます。



熊谷工場 原動課 主任
橋本 和典

物流における取り組み

リンテックは省エネルギー法の定める特定荷主（委託貨物輸送量3,000万トンキロ*/年以上）に該当しているため、これに対応するための計画を国に提出（年1回）しています。2013年度の輸送によるCO₂排出量は生産量の増加に伴い増加し、エネルギー使用量は約2.4%増加、一方、エネルギー使用量原単位（売上高当たり）は約0.7%減少しました。今後も引き続き、輸送効率向上に取り組んでいきます。

* トンキロ：貨物の輸送量を表わす単位で、貨物のトン数とその輸送距離を掛け合わせたもの。1tの貨物を1km輸送した輸送量が1トンキロ。

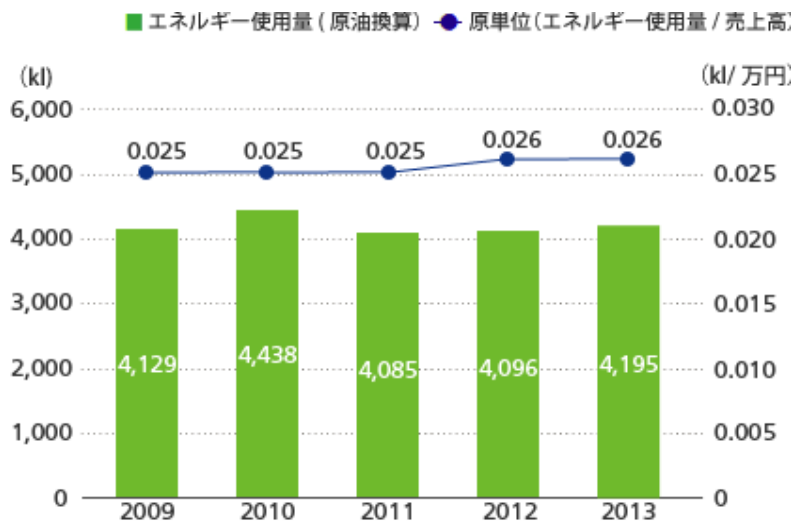


熊谷工場における輸送頻度削減に向けた取り組み

CO₂排出量と輸送量



エネルギー使用量



Voice 身近なところから地球温暖化対策

埼玉県では行政への年度ごとのCO₂排出量の報告に対して第三者認証が求められており、リンテックグループでは熊谷工場と研究所が認証の対象になっています。2013年11月には、両事業所の基準年(設定済みの3か年)の排出量について認証機関による審査を受け、排出量が確定しました。CO₂削減の年度目標も設定し、その達成に向けてCO₂削減活動を継続していきます。



リンテック・アドバンスト・
テクノロジーズ(台湾)社
管理部 工務課
江 徳維
(ジャン・デーウェイ)

廃棄物の削減

リンテックグループでは、循環型社会の実現に向けリデュース、リユース、リサイクルの3Rについても積極的に取り組み、資源の有効利用や廃棄物の削減を常に心掛けています。

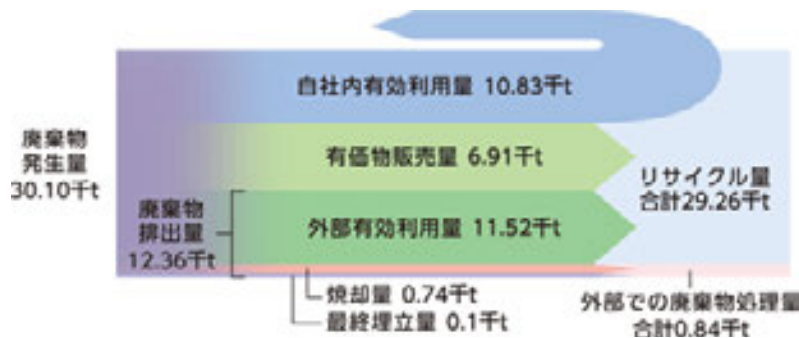
廃棄物の発生量と有効利用量

リンテックにおける2013年度の製造ロスを含めた廃棄物発生量は30.10千tで、廃棄物排出量は12.36千tとなりました。このうち11.52千tは外部で再資源化され、それ以外の0.84千tは委託している廃棄物処理業者により、適正に処分されました。2013年度の最終埋立比率*1は約0.3%となり、目標（0.2%以下）は達成できませんでしたが、2007年度から継続して、最終埋立比率1.0%以下のゼロエミッション*2を達成しています。2014年度から2016年度における廃棄物発生量は、対前年度発生量の0.1%削減を目指しています。

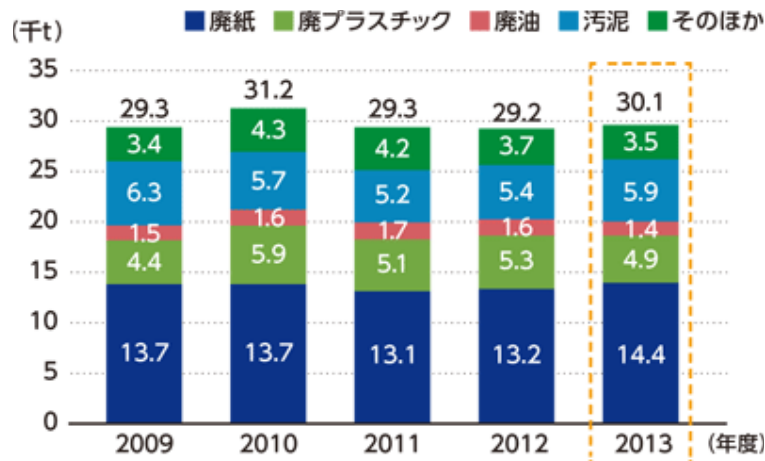
*1 最終埋立比率：次式で求められる数値。最終埋立比率＝最終埋立量/廃棄物発生量×100

*2 ゼロエミッション：リンテックでは、最終埋立比率が1%以下であることが基準。

廃棄物の流れ(2013年度)



廃棄物発生量



リデュースの取り組み

リンテックグループ各工場の製造部門では、廃棄物の発生を抑制するため、歩留まりの向上を図っています。

リユースの取り組み

リンテック製品の多くはロール状で製造されるため、各工程において巻芯が使用されます。巻芯は製品とともに運搬されますが、一部は回収して工程内でリユースしています。また、製品の運搬に使用されるプラスチックパレットの一部についても、回収してリユースしています。

リサイクルの取り組み

リンテックグループでは、2013年度も引き続きマテリアル リサイクル*1とサーマルリサイクル*2に取り組んでいます。龍野工場と熊谷工場では、マテリアルリサイクルに不向きな紙系廃棄物を固形燃料としてサーマルリサイクルしています。また、リンテック・インダストリーズ(サラワク)社では、裁断時に発生する断材をリサイクル業者に有価物として売却するなど、各工場が発生する廃棄物を再生資源として利用しています。

*1 マテリアルリサイクル：古紙を再生紙の原料に、空き缶を金属材に、ペットボトルを化学繊維材料にするなど、廃棄物を原料として再利用。サーマルリサイクル以外のリサイクル。

*2 サーマルリサイクル：廃棄物を単に焼却するのではなく、熱や電力として回収したり、燃料にするなど、エネルギーとしての再利用。



固形燃料

Voice 市の表彰を受けた、廃棄物リサイクル

龍野工場では、リンテックグループの各工場が実施している3R（リデュース、リユース、リサイクル）の取り組みを徹底しています。また、場内の剪定枝（果樹の生育や結実の調節のため、切りそろえられた枝の切りくず）や刈り草を腐葉土化し植栽に利用したことや、可燃ごみをサーマルリサイクルして蒸気に変換していることが評価され、たつの市から表彰されました。



龍野工場
設備技術課 課長代理
井口 肇浩

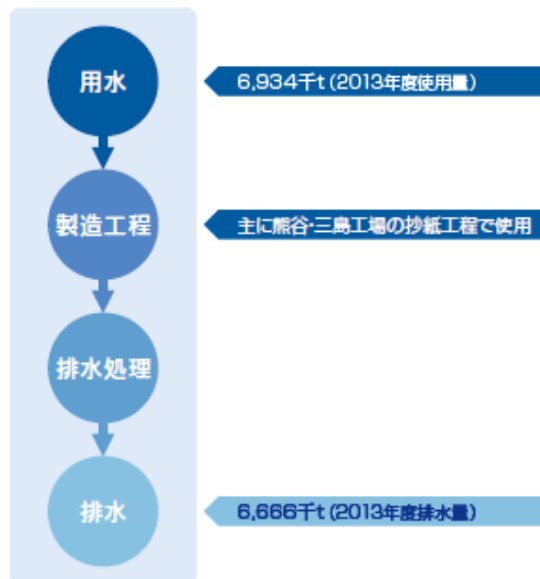
用水使用量の削減と排水対策

リンテックグループでは、水は限りある資源であるとの観点から、各工場における節水と回収水の再利用に努めています。また、周辺環境に与える影響を抑えるため、排水基準の遵守とともに、排水水質にも十分に注意を払っています。

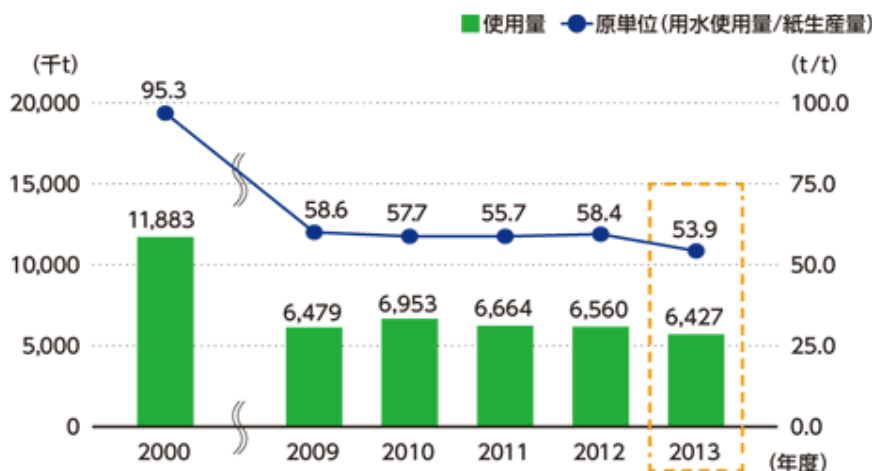
用水使用量と節水対策

リンテックにおける2013年度の用水使用量は6,934千tでした。このうち約93%を製紙部門がある熊谷工場と三島工場で使用しています。生産工程における用水使用量の削減により、両工場の2013年度の用水使用量は前年度比で約2%減少、用水原単位（紙生産量当たり）は前年度から4.5t /t減少しました。節水対策として、製紙部門の各工程で用水使用量の削減に取り組むほか、配管の見直しや漏水対策を行っています。また、回収水の再利用による用水と排水の削減を図っています。2014年度から2016年度は原単位比で対前年度2%削減を目指しています。

用水使用から排水までの行程



用水使用量(熊谷工場・三島工場)



排水量削減と排水水質の改善

リンテックにおける2013年度の排水量は6,666千t/年でした。その約94%（約6,235千t）が熊谷工場と三島工場からの排水となっています。製紙工程における配管ラインの洗浄工程の見直しにより、用水使用量と排水量の削減に努めています。今後も継続して排水処理設備の更新を行い、排水水質のさらなる向上に取り組んでいきます。



三島工場の排水処理設備

2013年度 排水水質

熊谷工場

項目		排水基準	実績	
			最大値	平均値
pH		5.8~8.6	8.1~6.8	7
濃度規制	SS*1(mg/ℓ)	60(50)以下	50.0	11
	BOD*2(mg/ℓ)	20以下	25.0	11
	COD*3(mg/ℓ)	-	42.7	20.1
総量規制	COD(t/日)	0.858以下	0.153	-
	窒素(t/日)	0.4068以下	0.0356	-
	リン(t/日)	0.0418以下	0.0004	-

※1 BODにおいて、工場の自主基準（熊谷市との協定値）の20mg/ℓを超えたデータが有りましたが、埼玉県の上乗せ規制値は超えておりません。自主基準超過時には熊谷市に報告し対処しました。

三島工場

項目		排水基準	実績	
			最大値	平均値
pH		5.8~8.6	6.0~8.1	7
濃度規制	SS(mg/ℓ)	80(60)以下	65	5
	COD(mg/ℓ)	90(65)以下	72	24
総量規制	COD(t/日)	0.9431以下	0.4819	0.2691
	窒素(t/日)	0.3961以下	0.2127	0.0446
	リン(t/日)	0.0405以下	0.0032	0.0006

※1 排水基準の()内は日間平均値。各工場の規制は以下によります。

〈熊谷工場〉BODについては熊谷市との協定値を、pH、SS、COD(総量規制)、窒素、リンについては埼玉県的生活環境保全条例、告示に基づく規制値を示しています。

〈三島工場〉pH、SS、COD(濃度規制)は水質汚濁防止法に、COD(総量規制)、窒素、リンは愛媛県の告示に基づく規制値を示しています。

※2 実績の最大値の欄：pHについては最小値～最大値を、総量規制については総量を掲載しています。

*1 SS：Suspended Solid(浮遊物質)の略称。水中に懸濁し、水の濁りの原因となる物質。

*2 BOD：Biochemical Oxygen Demand(生物化学的酸素要求量)の略称。微生物が水中の有機物を分解する時に消費する酸素量。

*3 COD：Chemical Oxygen Demand(化学的酸素要求量)の略称。水中の被酸化性物質を酸化するために必要な酸素量。

©Copyright Lintec Corporation. All rights reserved.

Linking your dreams **リンテック株式会社**

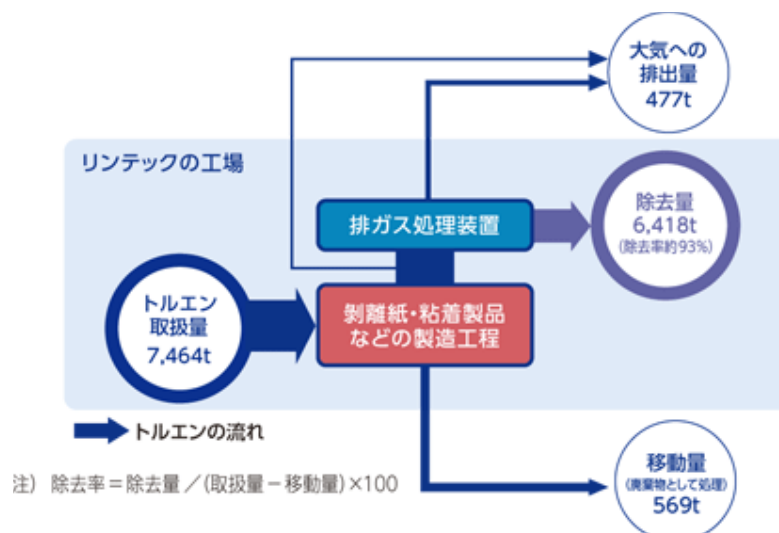
環境負荷物質の削減

リンテックグループでは、国内外における関連法令や各種規制を遵守し、環境に負荷を与える化学物質の削減に努めています。

PRTR*への対応

リンテックが2013年度に届け出たPRTR対象物質は8物質で、総取扱量は7,542tでした。取扱量が最も多かった物質はトルエンで、その取扱量は7,464tとなり、前年取扱量（7,796t）より332t減少しました。トルエンの大気への排出量は477tで2012年度排出量（483t）より6t減少し、移動量は569tで前年度（803t）より234t減少しました。

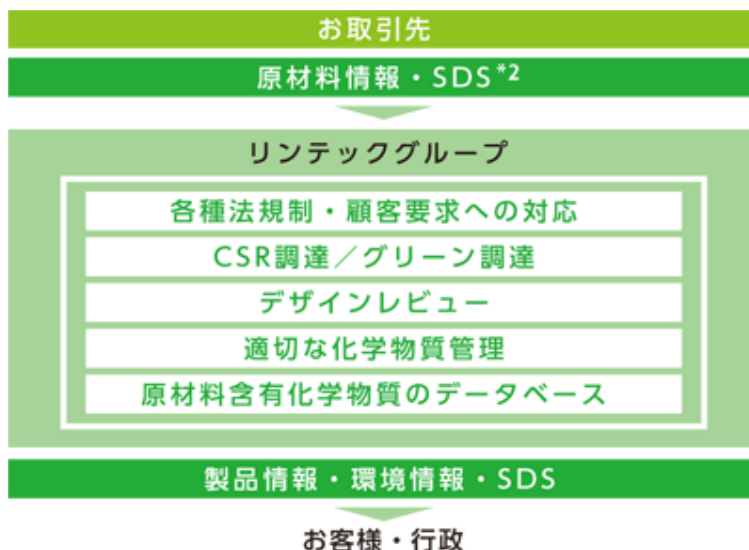
トルエンの排出量・移動量（2013年度）



* PRTR：Pollutant Release and Transfer Register(化学物質排出把握管理促進法に基づく化学物質の排出移動量届出制度)の略称。化学物質の排出量・移動量に関するデータを把握・集計し、公表する仕組み。

2013年12月、REACH規則*1において、情報伝達の義務があるSVHC(高懸念物質)は151物質となりました。リンテックではこのREACH規則をはじめ、各種環境規則への対応を進め、原材料の環境負荷物質含有調査を行い、必要な情報についてお客様に開示しています。今後、ますます重要となる製品含有化学物質の管理の効率化を図るとともに、各種規制に配慮し、対象化学物質の削減、代替物質への切り替えを促進しています。

製品情報提出の流れ



*1 REACH規則：EUの化学物質規制で、化学物質の登録、評価、認可および制限に関する規制の略称。EU諸国への化学物質を年間1t以上輸出する場合に登録が必要。また、製品中に認可対象候補物質に該当する化学物質を0.1%以上含有する場合は届け出が必要。

*2 SDS：Safety Data Sheetの略称。化学物質の成分や性質・毒性・取り扱い方などに関する書類。

災害や化学物質の漏洩事故などを想定した訓練

リンテックグループでは災害や化学物質の漏洩事故などを想定した訓練の実施を強化しています。2013年度は三島工場、吾妻工場、熊谷工場、小松島工場、伊奈テクノロジーセンター、研究所、新居浜加工所、千葉工場、龍野工場など各事業所で訓練を実施しました。



溶剤流出訓練

PCB*の適正管理

リンテックでは、PCBを含む廃棄物を適正に保管・管理しています。2012年度の報告台数38台のうち、低濃度廃棄物6台を2013年7月に処分しました。しかし、2014年3月の再調査により、新たに7台該当することが判明しました。該当機器39台のうち9台は、低濃度廃棄物（3台）と蛍光灯安定器（6台）であり、法令に基づき厳重に管理・保管しています。

2013年度PCBの適正保管・管理状況

事業所名	PCB廃棄物 保管台数(台)	処理施設	委託処理 登録年度	処理完了 予定
熊谷工場	20	日本環境安全事業(株) 東京事業所	2005	2013年度 以降
龍野工場	8	蛍光灯安定器のため未定	未定	未定
東京リンテック 加工(株)	7	日本環境安全事業(株) 東京事業所	2005	2013年度 以降
三島工場	3	低濃度のため未定	未定	未定
研究所	1	蛍光灯安定器のため未定	未定	未定
合計	39（高濃度27台、蛍光灯安定器9台、低濃度3台）			

※ 微量PCBは日本環境安全事業(株)では処理を行わないため、民間を含めた委託処理先への登録を予定しています。

* PCB：ポリ塩化ビフェニルの略称。PCBを含む廃棄物については、PCB特別措置法(ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法)により、その適正な保管・管理・処理が義務づけられている。

VOC(揮発性有機化合物)の削減

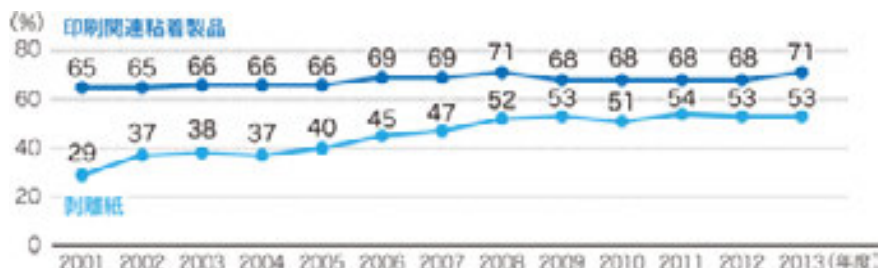
無溶剤化率の推移

リンテックでは有機溶剤使用量の削減に向け、剥離紙に用いる剥離剤と印刷関連粘着製品に用いる粘着剤の無溶剤化を進めています。2013年度の剥離紙の無溶剤化率（生産量ベース）は53%、印刷関連粘着製品の無溶剤化率（販売量ベース）は71%でした。VOCの大気放出量削減は、製品設計と排ガス処理設備面の両面から対策を推進しました。無溶剤化へ切り替え可能な製品は、主要なものは完了しており、排ガス処理装置の設置も完了していますが、引き続き、無溶剤化率の数値管理を行い、環境負荷低減を進めていきます。

無溶剤化率
(2013年度販売量ベース)

71%

印刷関連粘着製品と剥離紙の無溶剤化率



※1 印刷関連粘着製品の無溶剤化率=無溶剤型印刷関連粘着製品の販売量/印刷関連粘着製品の全販売量×100

※2 剥離紙の無溶剤化率=無溶剤型剥離紙の生産量/剥離紙の全生産量×100

Voice 製品開発の各工程で、環境に配慮

研究所ではVOC削減に向けてさまざまな取り組みを推進しています。有機溶剤を含有する材料からエマルション*1系の材料への設計変更を行い、開発初期段階においても環境負荷物質を排除した設計を推進。特に環境に配慮した製品については、LCA*2評価を実施しています。「環境配慮型製品」はもちろん、それ以外の製品についても環境を考慮した設計開発に取り組んでいます。

*1 エマルション：乳濁液ともいわれ、液体の中に、混じり合うことのないほかの液体が粒状になって分散している状態のもの。牛乳やマヨネーズなどもその一例。

*2 LCA：Life Cycle Assessmentの略称。製品のライフサイクル全体を通じて使われるエネルギーや水、原材料の量や排出されるCO₂、有害化学物質などを算出し、環境への影響を総合的に評価する手法。



研究所

研究企画部 研究企画室 係長

高野 明彦

環境会計

リンテックでは、環境会計によって環境保全コストおよび効果の把握に努め、環境保全活動を効果的かつ効率的に推進しています。2013年度の投資額*1は308百万円、費用額*2は2,897百万円でした。投資額については、2012年度に大規模な環境設備投資（コージェネ設備・太陽光発電設備）が終了したことにより1,283百万円減少しました。一方、費用額は、環境対応テーマが2012年度の30件から13件に減少したため、307百万円減少しました。

*1 投資額：対象期間における環境保全を目的とした支出額で、環境保全効果が数期にわたり持続し、その期間に費用化されていくもの。

*2 費用額：環境保全を目的とした財・サービスの費消により発生する費用または損失。

集計の考え方

1. 集計範囲：リンテック(株)および東京リンテック加工(株)とし、そのほかの関係会社は含んでいません。
2. 集計対象期間：2012年4月1日～2013年3月31日
3. 参考ガイドライン：環境省「環境会計ガイドライン(2005年版)」

2013年度 環境保全コスト

(単位：百万円)

分類	対象となる設備	投資額	主な取り組みの内容	費用額
公害防止コスト				
a.大気汚染防止	排ガス処理設備、脱臭装置付帯工事	85	大気汚染防止設備維持管理	504
b.水質汚濁防止	排水処理設備、白水回収設備	42	水質汚濁防止設備維持管理	115
c.公害防止	-	-	スラッジ処理	24
地球環境保全コスト				
a.地球温暖化防止	燃料転換設備	39	燃料転換	176
b.省エネルギー	蒸気の減圧エネルギー回収ム	105	自家発電設備維持管理	564
資源循環コスト				
a.資源の効率的な利用	損紙処理設備	13	古紙処理設備維持管理	305
b.廃棄物の減量化・削減・リサイクル	焼却炉ボイラー固形燃料化設備	24	焼却炉ボイラー設備維持管理、 廃棄物処理	389

2.上・下流 コスト	副資材の回収・再生・再使用	-	-	パレット、紙管の回収・再生・再使用など	68
	グリーン調達・グリーン購入	-	-	環境配慮型事務用消耗品の購入	5
3.管理活動 コスト	環境教育	-	-	セミナー、講習会への参加など	2
	環境負荷の監視・測定	環境計測器	0	製品、大気、水質の分析	32
	環境管理システムの構築、認証取得	-	-	ISO14001審査、森林認証	4
	環境保全対策組織運営	-	-	環境保全の運営	327
	環境情報開示	-	-	CSRレポート作成、エコプロダクツ出展など	28
4.研究開発コスト	-	-	環境保全に関する研究開発	307	
5.環境改善コスト	-	-	構内美化	28	
6.環境損傷対応コスト	-	-	汚染負荷量賦課金の負担	19	
合 計	-	308	-	2,897	

※ 排ガス処理設備投資額には、予備品・雑工事費を含みます。

2013年度 環境保全効果

環境保全効果の分類	環境パフォーマンス指標		基準期間 (2012年度)	2013 年度	環境保全効果 (基準期間と の差)
1. 事業活動に投入する資源に関する環境保全効果	購入電力使用量(原油換算)	千kℓ	38	37	-1
	燃料使用量(原油換算)	千kℓ	54	56	2
	有機溶剤使用量	千t	8.8	8.6	-0.2
	用水使用量	千t	7,143	6,934	-209
2. 事業活動から排出する環境負荷および廃棄物に関する環境保全効果	製造におけるCO ₂ 排出量	千t-CO ₂	184	203	19
	トルエンの大気への排出量	千t	0.483	0.471	-0.012
	廃棄物排出量	千t	11.21	12.36	1.2
	廃棄物焼却量	千t	0.86	0.74	-0.1
	廃棄物最終埋立処分量	千t	0.02	0.10	0
	総排水量	千t	6,857	6,666	-191
	SOx排出量	t	7	8	3
	NOx排出量	t	124	124	0
3. その他の環境保全効果	輸送に伴う燃料使用量(原油換算)	kℓ	4,096	4,195	99
	輸送に伴うCO ₂ 排出量	千t-CO ₂	10.9	11.1	0.2
	製品などの輸送量	千万トン □	8.1	9.5	1.4

海外グループ会社12社の環境保全活動

リンテックグループでは、グローバル企業としての責任を果たすために、海外グループ会社における環境保全活動にも力を注いでいます。

会社名をクリックすると詳細がご覧いただけます。



琳得科（蘇州）科技有限公司



工務科
張 旭東
(ザン・シートン)

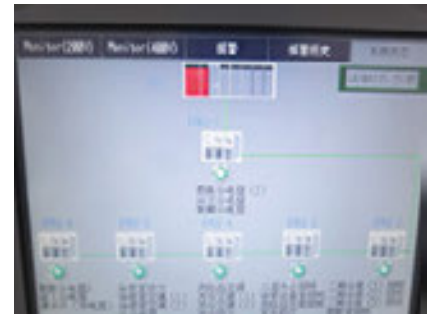
第2工棟の竣工に伴う使用電力の増加に対応するため、第2工棟の配電室内に第1工棟同様の電力監視装置を設置しました。電力使用状況をラインごとに監視することで電力管理を徹底し、工場の省エネルギー化につなげています。

会社概要

所在地：中国 江蘇省蘇州新区

従業員数：206人

主な事業内容：印刷材・産業工材および洋紙・加工材関連製品の製造販売



電力監視装置制御画面

琳得科（天津）実業有限公司



総務・人事部

賈 軍

(ジャー・ジュン)

社内照明のLED化を進めるなど、省エネルギー活動を継続的に実施しています。また、全従業員にリンテックグループのCSR経営を浸透させるため、2013年9月には「ソーシャルメディアポリシー*」に関する勉強会も行いました。

会社概要

所在地：中国 天津市南開区

従業員数：91人

主な事業内容：印刷材・産業工材関連製品の製造販売

* ソーシャルメディアポリシー：FacebookやTwitterなどSNSの企業利用に関するガイドライン。



社内のLED照明

普林特科（天津）標簽有限公司



品質保証室

張 琨

(ジャン・クン)

2013年11月に、従業員全員で生物多様性に関する勉強会を実施しました。中国における動植物の生態系や私たち人間との関係などを学び合い、生物多様性保全への意識向上の良ききっかけとなりました。

会社概要

所在地：中国 天津市西青経済開発区

従業員数：104人

主な事業内容：印刷材・産業工材関連製品の製造販売



生物多様性の勉強会

リンテック・スペシャリティー・フィルムズ（台湾）社



総務課

蔡 清祥

(サイ・セイショウ)

排ガス処理装置の停止時に炉内温度を維持するため、天然ガスを使用していますが、省エネタイマーモードの増設や燃料使用量の監視、適切なメンテナンスにより、原油換算で2012年対比年間41klの削減となりました。

会社概要

所在地：台湾 台南市善化区

従業員数：96人

主な事業内容：電子・光学関連製品の製造販売



排ガス処理装置の外観

リンテック・アドバンスト・テクノロジーズ（台湾）社



管理部 工務課

江 德維

(ジャン・デーウェイ)

2014年3月、リンテック・アドバンスト・テクノロジーズ（台湾）社はISO14001のグローバル統合認証を取得しました。今後も引き続き、全従業員の環境意識の向上を図りながら、省エネルギーや資源節約に努めていきます。

会社概要

所在地：台湾 高雄市前鎮加工出口区

従業員数：67人

主な事業内容：電子・光学関連製品の製造販売



各部門の内部監査員を対象とした講習会

|| リンテック・コリア社



製造部
金 辰熙
(キム・ジンヒ)

2013年10月に生物多様性の保全活動の一環として、近隣の公園に従業員20人が集まり、清掃活動を行いました。今後も環境保全活動や環境教育を行い、全従業員に対して生物多様性への意識を啓発していきます。

会社概要

所在地：韓国 忠清北道清原郡

従業員数：71人

主な事業内容：電子・光学関連製品の製造販売



近隣の公園で行った清掃活動

|| リンテック・スペシャリティー・フィルムズ（韓国）社



環境安全課
白 東国
(ベク・ドングク)

2013年6月より、会社から排出される液体廃棄物の処理方法を変更し、燃料化処理を実施しています。この取り組みによって、産業廃棄物のリサイクル率が向上し、CO₂発生量の低減につながりました。

会社概要

所在地：韓国 京畿道平澤市

従業員数：123人

主な事業内容：電子・光学関連製品の製造販売



燃料化処理施設

|| リンテック・インドネシア社



安全・環境部
Ketut
(クトゥットゥ)

2013年12月に、生物多様性保全に関する外部団体の講習を受けました。その後、受講した従業員が講師となり、全従業員と講演内容を共有しています。今回得た知識を基に、今後はより具体的な環境保全活動を進めていきます。

会社概要

所在地：インドネシア 西ジャワ州ボゴール

従業員数：330人

主な事業内容：印刷材・産業工材関連製品の製造販売



生物多様性講演会

|| リンテック・インダストリーズ（マレーシア）社



製造部
Siti Hidayah Binti
Ayob
(シティ・ヒダヤ・ビンティ・アヨブ)

2013年5月、リサイクル活動の啓発を目的に、従業員を対象とした使用済みクッキングオイルからのせっけんづくり講習会を開催しました。今後も身近な題材を通じて、従業員の環境意識を高め、環境保全活動を推進していきます。

会社概要

所在地：マレーシア ペナン州ブキ・メルタジャム

従業員数：93人

主な事業内容：電子・光学関連製品の製造販売



リサイクルせっけんづくり講習会

|| リンテック・インダストリーズ（サラワク）社



財務・管理部門

Christina Teo

（クリスティーナ・
ティオ）

リンテック・インダストリーズ（サラワク）社では、2013年9月にISO14001のグローバル統合認証を取得しました。今後は、これまで以上に環境保全への意識を高め、環境に配慮して業務を進めていきます。

会社概要

所在地：マレーシア サラワク州クチン

従業員数：26人

主な事業内容：電子・光学関連製品の製造販売



ISO14001の認証書を手に記念撮影

|| リンテック・シンガポール社



人事部

Cindy Soh

（シンディー・ソウ）

リンテック・シンガポール社では、ISO14001のグローバル統合認証を取得する以前から使用済み用紙のリサイクル活動を行っており、2013年は、各部署、各個人単位でさらに力を入れてきました。今後も環境配慮の意識を持ちながら、本活動を継続していきます。

会社概要

所在地：シンガポール サイバーハブ

従業員数：85人

主な事業内容：印刷材・産業工材および電子・光学関連製品の製造販売



使用済み用紙の整理箱

|| マディコ社

マディコ社は、環境保全を目的とした梱包材再生プログラムにおける活動が認められ、大手サプライヤーよりプラチナ賞を授与されました。2013年には113tのパレット、エンドプラグ・コアなどの梱包材を再生するなど、環境配慮の意識を高めています。

会社概要

所在地：アメリカ マサチューセッツ州ウーバン

従業員数：272人

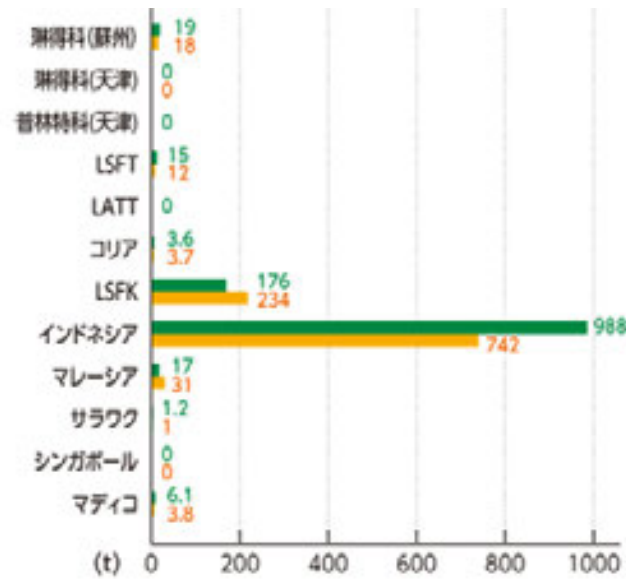
主な事業内容：印刷材・産業工材関連製品の製造販売



活動チームメンバー

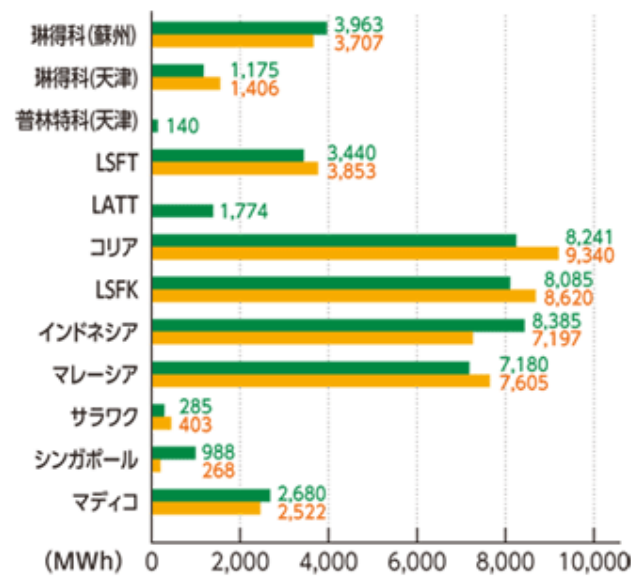
海外グループ会社10社における2012年の環境パフォーマンスデータは以下になります。

VOC排出量



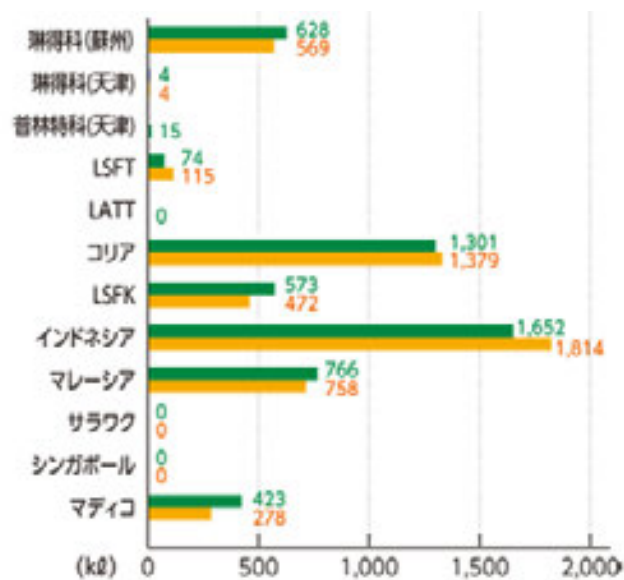
■ 2013年データ(集計期間:2013年1月1日から2013年12月31日まで)
 ■ 2012年データ(集計期間:2012年1月1日から2012年12月31日まで)

電力使用量



■ 2013年データ(集計期間:2013年1月1日から2013年12月31日まで)
 ■ 2012年データ(集計期間:2012年1月1日から2012年12月31日まで)

燃料(軽油/天然ガス)使用量(原油換算)



■ 2013年データ(集計期間:2013年1月1日から2013年12月31日まで)
 ■ 2012年データ(集計期間:2012年1月1日から2012年12月31日まで)

※1 VOCは、トルエン、メチルエチルケトンを対象としています。

※2 燃料使用量の原油換算に用いた各燃料の発熱量は、省エネルギー法施行規則第4条に規定されている数値を使用しています。

※3 LSFT：リンテック・スペシャリティー・フィルムズ（台湾）社 LATT：リンテック・アドバンスト・テクノロジーズ（台湾）社
 LSFK：リンテック・スペシャリティー・フィルムズ（韓国）社

©Copyright Lintec Corporation. All rights reserved.

Linking your dreams リンテック株式会社

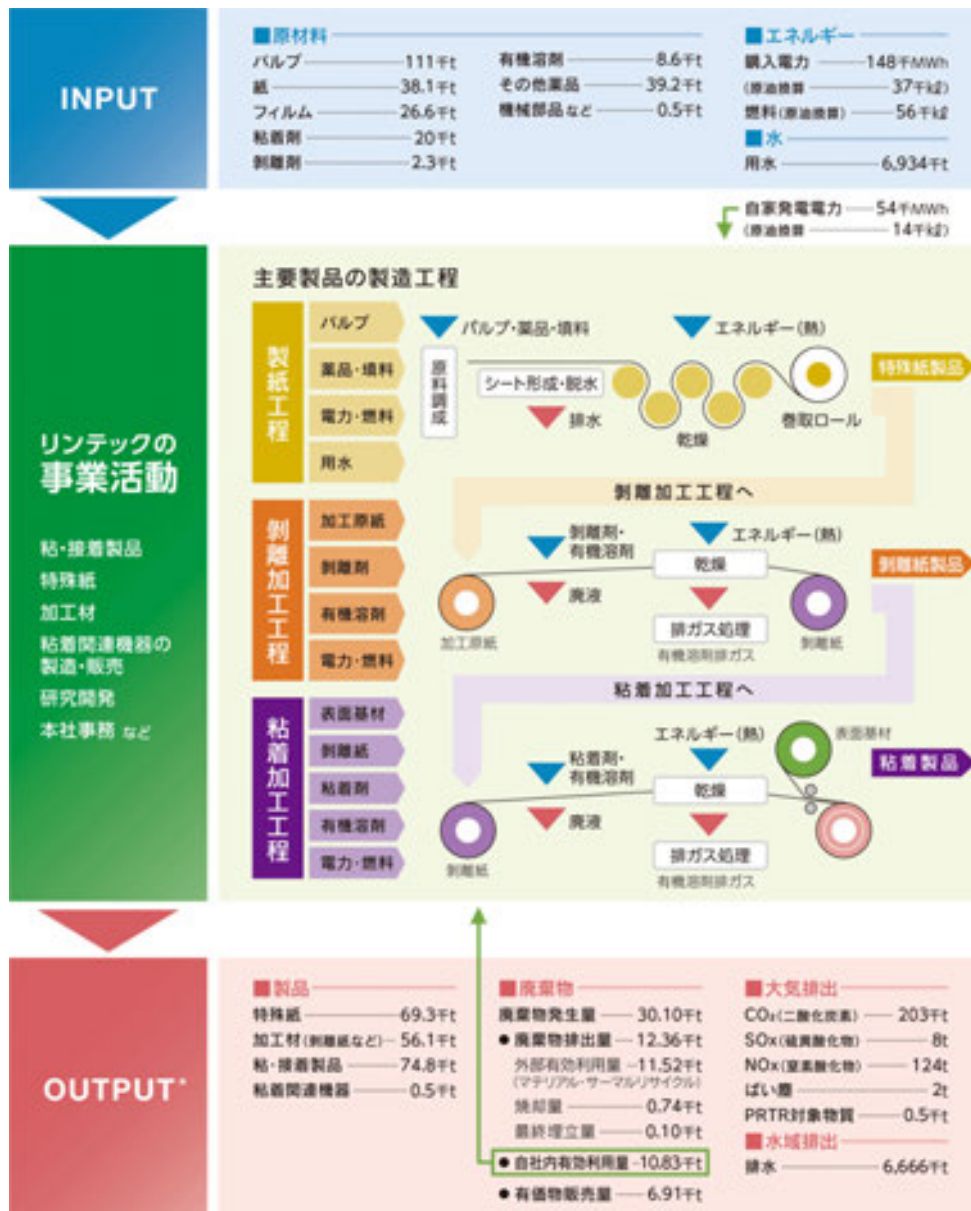
リンテックと環境のかかわり

リンテックグループでは、粘・接着製品や特殊紙、剥離紙などの加工材、粘着関連機器の開発・製造・販売を行っています。これらの事業活動に伴って環境中に排出する廃棄物やCO₂、トルエンなどのPRTR対象物質、排水などによる環境負荷の低減を図るため、生産の効率化や製造方法の改善などに取り組んでいます。

集計の考え方

1. 集計範囲：リンテック（株）および東京リンテック加工（株）とし、そのほかの関係会社は含んでいません。
2. 集計対象期間：2013年4月1日～2014年3月31日

2013年度 マテリアルフロー(国内のみ対象)



* OUTPUTには内販は含んでいません。

内部統制

リンテックグループ内部統制方針

リンテックグループ各社・各部門は、不正・違法行為・ミスの発生を防止し業務が適正かつ効率的に遂行されるよう、内部統制の整備・運用を強化します。

- リンテックグループのすべての役員・従業員等は、内部統制の整備・運用について役割と義務を負います。
- リンテックグループ各社・各部門は、諸手続きが関連法規、社内規程に則り適正かつ効率的に行われているかを確認するため、適宜自己チェックを実施します。
- 内部監査部門は、独立的立場からリンテックグループ各社・各部門の内部統制が有効かつ効率的に機能しているかを定期的に確認します。

制定 2013年10月1日

リンテック株式会社

コンプライアンス

リンテックグループ行動規範

|| 行動規範

企業活動の根幹は「コンプライアンス(法令遵守)」であり、リンテックグループの国内外における企業活動において「関連法規」ならびに「社会ルール」を遵守する。

私たちリンテックグループの役員・従業員等は

1. 常に、社会に貢献できる製品とサービスを提供します。
2. すべての取引先との間で、自由な競争原理に基づく、公正・透明な取引を行います。
3. すべての企業活動において、国内・外の法規を遵守するとともに、高い倫理感を持って自らを律します。
4. 株主・投資家・取引先・地域社会・従業員等、当社の企業活動にかかわるすべての人々との関係を重んじます。
5. 地球環境問題を重要な経営課題と位置づけ、環境への負荷の抑制・削減へ積極的に取り組みます。
6. 良き企業市民として、積極的に社会貢献活動を行います。
7. 政治・行政とは、公正で透明な関係を維持します。
8. 反社会的勢力は排除します。
9. 企業活動に伴い接待・贈答が必要な場合には、社会的常識の範囲内で節度を持って行います。
10. 企業情報を適正に管理し、適時・適正に開示します。
11. 知的財産権の管理に万全を期すとともに、他社の知的財産権を尊重し、これを侵害しません。
12. 役員・従業員一人ひとりの人権と人格を尊重し、公正に処遇し、職場環境の維持に努めます。

2003年1月制定

2011年4月改定

品質・環境・事業継続

リンテックグループ品質・環境・事業継続方針

基本方針

リンテックグループ全社員は社是「至誠と創造」および経営理念に徹し、国内外の法令・規制の遵守を含め、あらゆる社会的責任を果たすべく、公明正大かつ革新的な企業活動を実践する。

これらの具体的活動を実践するため、以下に「品質方針」「環境方針」「事業継続方針」「行動指針」を定める。

品質方針

「ものづくり」の原点に立ち、「品質」「環境」「安全」を基本とした製品開発・製造・販売に努め、あらゆるステークホルダーから信頼される事業活動を徹底する。

〈行動指針〉

1. 異なる文化・地域と調和できる「人材」「企業文化」を育て、より良い品質で世界に貢献する。
2. 「ものづくり」を通して顧客ニーズを迅速・的確に把握し、共有する。
3. 「ものづくり」を通して常に現状分析を行い、継続的な改善活動を徹底する。
4. より良い製品を適正価格で安定的に提供するために、日常のサービス・業務の改善・改革を推進する。
5. デザインレビューの徹底により、開発段階から品質のつくり込みを行う。
6. 製造・品質管理などあらゆる面で統計的手法を取り入れ、データの評価・管理体制を強化する。
7. 独創的な「ものづくり」ができる企業人を育成するために、体系的な社内教育システムを構築する。

環境方針

地球の豊かな自然とこれらの社会を次世代に引き継ぐために、環境に配慮した製品づくりを優先し、地球環境保全に積極的に取り組む。

〈行動指針〉

1. 環境に配慮した製品の開発に努める。
2. 地球資源の有効活用を推進し、3R(Reduce・Reuse・Recycle)に努める。
3. 製品に含有する化学物質の管理を行い、グローバルな環境保全に努める。
4. 生物多様性の保全に努める。
5. 環境の改善には積極的に取り組みPDCAを回して継続的な活動に努める。

地震・風水害等の自然災害、火災、パンデミック等、事業継続に支障をきたすさまざまなリスクの発生に対し、その影響を最小に抑えるため、BCMS(事業継続マネジメントシステム)を構築し、継続的な改善を図る。

〈行動指針〉

1. グループ社員およびその家族の安全確保を最優先する。
2. 減災対策を常に意識し、事業への影響を最小化する。
3. 災害発生に対し、主要製品の速やかな供給再開により顧客への供給責任を果たす。
4. 被災地域の復興に貢献する。
5. BCMSのさらなる向上を目指し、PDCAを回して継続的な改善を図る。

1992年4月10日 環境憲章制定

1998年8月10日 品質方針制定

2012年4月1日 品質・環境方針制定

2013年9月1日 品質・環境・事業継続方針制定

2014年1月1日 品質・環境・事業継続方針改定

調達

リンテック原材料調達基本方針

1. 公正・透明な取引

すべての取引先の皆様との間で自由な競争原理に基づく公正・透明な取引を行います。取引先の選定に当たっては広く門戸を開放し、品質・価格・納期・供給安定性・技術力・サービスおよび環境保全への取り組みなどについて、適正な評価を行います。

2. パートナーシップの構築

すべての取引先の皆様に「相互発展を目指すパートナー」と考え、信頼関係を築いていきます。

3. 法規・社会規範の遵守

調達活動に当たって、国内外の法規・社会規範を遵守するとともに、取引先の皆様にもその遵守徹底を求めます。

4. 環境への配慮

「リンテックグリーン調達方針」に基づき、環境負荷低減に配慮した調達活動を推進するとともに、取引先の皆様にも環境保全活動の推進および化学物質管理の徹底を求めます。

5. CSRの徹底

調達活動に当たって、取引先の皆様とともに人権尊重、労働・安全衛生、品質・安全性確保、情報セキュリティ、企業倫理、紛争鉱物など、あらゆる観点からCSRの徹底を図っていきます。

2009年8月10日制定

2013年8月30日改定

リンテックグリーン調達方針

1. 取引先の皆様とともに、当社製品を構成する原材料や部品、副資材などの化学物質管理を推進します。
2. 積極的な環境保全活動や化学物質管理を推進している取引先の皆様から、環境負荷のより少ない原材料や部品、副資材などを優先的に調達するよう努めます。
3. サプライチェーンマネジメントの観点から、取引先の皆様にも、それぞれの仕入先様とともに積極的な環境保全活動や化学物質管理を推進することを求めます。
4. 「リンテック木材パルプ調達方針」に基づき、グリーンパルプの採用を積極的に推進します。

2006年6月1日制定

2009年8月10日改定

1. 調達方針および取り組み

(1) 違法伐採対策として、以下に該当する木材パルプを調達しません。

- (a) 違法に伐採された木材を原料にしたパルプ
- (b) 伝統的権利または市民権が侵害されている地域からの木材を原料にしたパルプ
- (c) 保護価値が高い森林からの木材を原料にしたパルプ
- (d) 植林地または森林以外の用途に転換されつつある森林からの木材を原料にしたパルプ
- (e) 遺伝子組み換え樹木が植えられている森林からの木材を原料にしたパルプ

(2) グリーンパルプの採用を積極的に推進します。

2. 合法性の確認

- (1) 「調達方針および取り組み」各事項の趣旨に則った自己宣言書を各取引先から入手します。
- (2) 木材パルプの調達に当たって、取引先から木材原料の伐採地域・樹種・数量などを記載したトレーサビリティレポートを入手します。
- (3) 関連資料については、5年間保存し、監査などの必要に応じて開示します。
- (4) 取り組み状況について、定期的に内部監査および日本製紙連合会によるモニタリング(調査および監査)を実施し、その概要をホームページなどで公表します。

2009年8月10日制定

2010年6月1日改定

2010年8月23日改定

グリーンパルプ・ウェイ

|| グリーンパルプ・ウェイ(Green-Pulp-Way)

グリーンパルプ・ウェイとは当社の環境配慮コンセプトです。同コンセプトに基づき特殊紙ならびにラベル用紙の製品設計・製造を行い、「地球環境への負荷を低減し、豊かな緑を未来へ残す」ことを目指します。

|| グリーンパルプ(Green Pulp)

グリーンパルプは当社の登録商標です。グリーンパルプは、合法的かつ適切に管理された森林からの木材を原料とするパルプ(森林認証パルプ、植林木パルプを含む)、および再・未利用材から得られるパルプ、非木材パルプなどで、無塩素漂白(ECF)により製造されたパルプです。

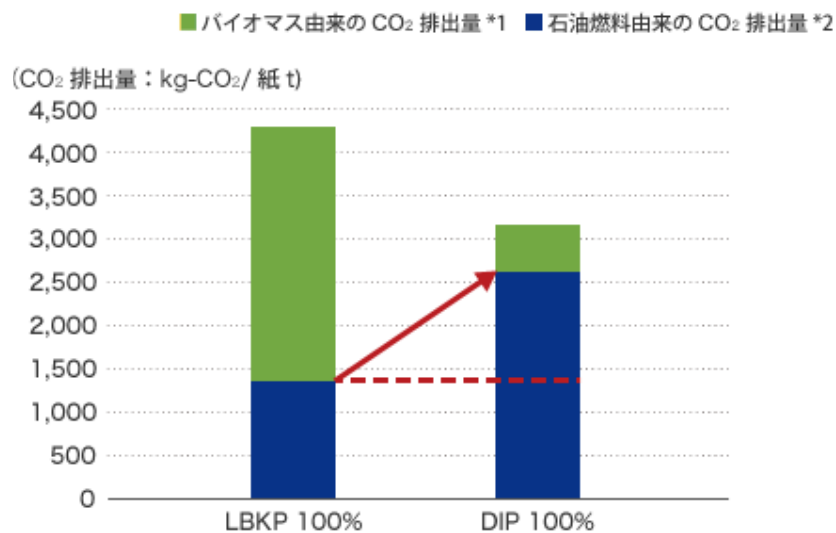
|| グリーンパルプ・ウェイの背景

当社は資源を有効利用する取り組みとして、古紙を原料とする再生紙の生産を積極的に進めてまいりました。一般に古紙を高配合すると品質(例えば強度)が低下することから、当社では厳選した良質な古紙を使用し、さまざまな要求品質を満たしてきました。しかし、ここへ来て中国などにおける古紙の需要増大による影響で、質を問わず古紙そのものの入手が非常に難しくなっており、古紙配合率の見直しが必要となってきました。

一方、近年急激に進行している地球温暖化は、自然の生態系や人間の生活基盤にさまざまな悪影響を及ぼすことから、世界的に早急な温暖化防止対策が望まれています。地球温暖化の主要原因は、化石燃料を使用することによる大気中の二酸化炭素(CO₂)の増加といわれており、森林はCO₂を固定することでその増加を抑制する効果があります。このため、適切に管理された森林からの木材を使用し、森林資源を保護していくことが地球温暖化の防止につながります。また、紙の製造工程においてはこれらの木材を原料としたパルプ(クラフトパルプ)を使用したときの方が、古紙パルプを使用した場合より化石燃料由来のCO₂排出量が少ないと報告されています。資源の有効利用の観点から古紙を使用することは重要ですが、古紙パルプを過度に高配合した紙をつくることは、結果として温室効果ガスであるCO₂の大気中への排出量増加につながります。

これらを踏まえ、当社はグリーンパルプを主原料にし、古紙パルプを使用する場合には要求品質に応じて最適に配合した製品を提供してまいります。なお、パルプ以外の原材料や副資材についても環境に配慮した選択と設計を行ってまいります。

クラフトパルプ(LBKP)と古紙パルプ(DIP)から上質紙1トンを製造する際のCO₂排出量



※(財)古紙再生促進センター、「古紙利用と環境影響に係る調査報告書」2001.3に基づき作成

*1 バイオマス由来のCO₂排出量とは、植物などの生物体が燃焼したときに排出されるCO₂量のことです。クラフトパルプの場合、木材に含まれるリグニン成分などをバイオマス燃料として製造工程で利用して必要なエネルギーの多くを賄うことができます。バイオマス燃料から排出されるCO₂は、木材の成長過程で固定した大気中のCO₂を再度排出するため、大気中のCO₂濃度を高めることはありません。

*2 化石燃料由来のCO₂排出量とは、石油や石炭などの化石燃料の燃焼によって排出されるCO₂量のことです。古紙パルプの化石燃料由来によるCO₂排出量は、図のようにクラフトパルプの約2倍量に達します。

労働安全衛生

リンテック労働安全衛生方針

リンテックグループ全社員は、社是「至誠と創造」および経営理念に徹し、労働災害の防止を図り、安全で快適な職場環境の形成と安全衛生水準の向上を適切かつ積極的に推進します。

1. 事業活動において、リンテックグループで働く人々の労働安全衛生を適切に推進します。
2. リンテックグループで働く人々の協力の下、労働災害および疾病の予防、健康維持と増進を継続的に推進します。
3. 生産現場におけるリスク評価を実施し、労働安全目標を定め、目標達成のための計画と活動および定期的な見直しによる改善を行います。
4. 労働安全衛生に関する法令、リンテックが同意する協定、指導などを遵守します。
5. リンテックグループで働く人々に対し、労働安全衛生に関する教育および啓蒙活動により、安全衛生確保の重要性と意識の向上を図ります。

2010年10月1日制定

リンテック労働安全衛生マニュアルの概要

■ 計画(Plan)

法令／安全衛生計画、安全衛生目標など

■ 実施および運用(Do)

組織、役割、責任および権限／力量、教育訓練および自覚／コミュニケーションなど

■ 点検(点検・パトロール、改善)(Check)

監視および測定／内部監査など

■ 経営層による見直し(Action)

編集方針

リンテックグループでは、社是「至誠と創造」を根幹にさまざまなCSR活動を行っており、このCSRサイトでは2013年度の活動を中心に報告しています。全ての方に分かりやすく伝えるため、昨年度の報告から事業概要や特集の情報を増やし、「企業統治」「社会性報告」「環境報告」のページでは主な活動を抜粋してまとめました。

特集はBCMS(事業継続マネジメントシステム)と、社会貢献活動を紹介しています。特集1では2013年度にBCMSの国際標準規格ISO22301の認証を取得し、改めてその活動を振り返りました。特集2では、ステークホルダー*との対話を重ねた社会貢献活動の一事例を紹介しています。

CSRサイトには、冊子より詳細な情報を公開していますので、ご覧ください。

* ステークホルダー：組織体に対する利害関係者。具体的には、消費者(顧客)、従業員、株主、債権者、取引先、地域社会、行政機関など。

CSR情報を開示する主なメディア



CSRレポート (冊子/PDF版)

■ [冊子]

リンテックグループのCSR活動を、分かりやすく掲載。

■ [PDF版]

英語版を作成。その他、抜粋版を韓国語、中国語(繁体字)、中国語(簡体字)、マレーシア語、インドネシア語、タイ語にて作成。



CSRサイト

リンテックグループのCSR活動を、より幅広くより詳細に掲載。

■ [日本語版]

▶ <http://www.lintec.co.jp/csr/>

■ [英語版]

▶ <http://www.lintec-global.com/csr/> 

参考としたガイドライン

ISO26000(社会的責任に関する手引)

GRI「サステナビリティ レポートガイドライン第4版」

環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」

環境省「環境会計ガイドライン(2005年版)」

対象期間

原則2013年4月1日～2014年3月31日を対象としていますが、具体的な取り組み事例の一部には2014年6月までの内容を含んでいます。なお、海外グループ会社12社の環境パフォーマンスデータについては、2013年1月1日～2013年12月31日を対象期間としています。

対象範囲とその表記

CSRサイト中の報告対象範囲を以下のように整理し、表記しています。また、報告対象外の拠点については本文中の末尾に記載することで、報告対象を明確にしています。

■ 企業統治 社会性報告

「リンテック」：リンテック（株）

「リンテックグループ」：リンテック（株）および国内・海外グループ会社

■ 環境報告

「リンテック」：リンテック（株）の本社、吾妻工場、熊谷工場、千葉工場、龍野工場、新宮事業所、小松島工場、三島工場、土居加工工場、新居浜加工所、伊奈テクノロジーセンター、研究所および東京リンテック加工（株）

「リンテックグループおよび海外グループ会社12社」：上記および海外グループ会社12社*

「リンテックグループ」：リンテック（株）および国内・海外グループ会社

* 海外グループ会社12社：琳得科（蘇州）科技有限公司、琳得科（天津）実業有限公司、普林特科（天津）標籤有限公司、リンテック・スペシャリティィー・フィルムズ（台湾）社、リンテック・アドバンスト・テクノロジーズ（台湾）社、リンテック・コリア社、リンテック・スペシャリティィー・フィルムズ（韓国）社、リンテック・インドネシア社、リンテック・インダストリーズ（マレーシア）社、リンテック・インダストリーズ（サラワク）社、リンテック・シンガポール社、マディコ社

©Copyright Lintec Corporation. All rights reserved.

Linking your dreams **リンテック株式会社**

第三者意見

リンテックグループCSRレポート2014を、過去数年のレポートとも比較しながら、じっくりと拝読させていただきました。本年はトップが交代するという大きな変化の年になりましたが、トップメッセージを拝見すると、「CSRを経営の基盤として貫くべきものだという自覚を新たにしています」という西尾新社長のコメントが冒頭に見られ、この会社のCSRがいささかもぶれていないことが分かります。

リンテックCSRの特徴は、事業の中核ともいうべき中期計画や経営戦略に堂々とCSRを連動させようとしているところにあり、こうしたトップダウンによるCSR経営に邁進されるとともに、LINTEC WAYと呼ばれる社是を育む10の心得を新たに制定され、この浸透を通してボトムアップのCSRをより活性化させようとする方向性は素晴らしいと思います。

BCMSと社会貢献、二つの特集を興味深く読ませていただきましたが、物事に対して正面から取り組み、地道に継続するというこの会社の底力が感じられる内容になっています。

新中期経営計画：LIP-2016においては、「グローバル展開」と「革新的な新製品の創出」が最重要課題であるとの認識がトップから示されており、これらに具体的にどう貢献できるかが、リンテックCSRの正念場ともいえます。

前者については、言うまでもなくコーポレートガバナンスの全社的な強化が不可欠と考えますが、16ページに体制図が示されているだけなのは、やや物足りない印象を持ちました。ガバナンスはESG（環境・社会・ガバナンス）の3本柱の一角でもあり、どのように今後グローバルなガバナンスを構築していくのか、明示して欲しいと考えます。

後者は企業のコアコンピタンスともいうべき、会社存続のための生命線ですが、これとCSRとをどう有機的につなげていくかは、確たる戦略が必要です。私は、今まであまり言及されることがなかった、この会社の経営理念「明日を考え、今日を築こう」を、ぜひ社是の一つである「創造」とつなげて、活かしていただきたいと、ここで提言しておきます。

CSRの六つの基本姿勢は見直しが必要です。既述したガバナンスを組み込むこと。安全防災・健康では狭く、より広義のES（従業員満足）に拡充すべきではないかということ。そして環境において設定されているような、より定量的な目標を社会面等でも創設すること。これらが今後の現実的な課題ではないかと、最後に指摘させていただきます。



ジャパン・フォー・サステナビリティ
多田 博之氏

非営利組織ジャパン・フォー・サステナビリティの理事長であり、法政大学客員教授、東北大学大学院環境科学研究科教授、各種官庁の委員などを務める。

多田様には2012年度版より当社のCSRレポートに対してご助言を頂戴しております。2013年度版では、社是「至誠と創造」から成る当社の経営姿勢を取り上げていただきありがとうございます。頂いたご意見を励みとしてCSR経営を積極的に推進してまいります。2014年度より新たに策定したLINTEC WAYは、社会とともに当社が持続的成長を遂げるためにグループ全従業員が共有すべき価値観を表しており、一個人としても再認識しておかなければならないことです。CSR勉強会等を通じて更なる浸透を図ってまいります。

ご指摘のとおり、グローバル展開と新製品の創出は当社の極めて重要なテーマです。グローバル展開におけるガバナンスについては、アジア地域に海外統括会社を設置するなど、今後も更なるガバナンス体制の強化を進めていきます。新製品の創出については、2012年度から取り組みを始めてきたCSR懇談会を更に発展させ、社会的課題の解決などについて、組織横断的メンバーによるワークショップの実施を計画し、攻めのCSRを実践していきます。

CSR基本姿勢の見直しについては、2014年度中にマテリアリティ（環境、社会、ガバナンスに関する重要性）の特定作業を計画しており、2013年版でご指摘のあった評価指標の策定につなげます。

今後もCSRを経営の基盤とし、社会とともに持続的成長を遂げる企業体を目指してまいります。

代表取締役社長 西尾 弘之

編集後記

トップメッセージでは社是「至誠と創造」を原点に、社会の期待に応える新しい事業づくりについて触れています。また、特集1では、全社BCMS（事業継続マネジメントシステム）の構築について、各拠点の活動や構築までの流れを紹介しています。今後もBCMSのさらなる浸透を図ってまいります。特集2では、地域に根ざした社会貢献活動について紹介しています。ステークホルダーとの対話を進めながら社会的な課題に応えられる企業を目指してCSR活動を継続していきます。



「リンテックグループCSRレポート2014」
制作プロジェクトメンバー